

第5次太田市障がい者福祉計画等の策定に係る
アンケート調査結果報告書

令和5年10月
太田市

目次

I 調査概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
3 回収結果	1
4 報告書の見方	1
II 調査結果	2
1 部 当事者調査	2
1 年齢や手帳などの所持状況について	2
2 住む場所について	8
3 収入の状況について	10
4 日常生活の状況について	12
5 昼間の活動の場、就労・雇用について	22
6 外出・移動について	33
7 相談について	38
8 保健・医療について	42
9 社会参加・地域参加について	46
10 情報・コミュニケーションについて	48
11 障がい者への理解について	52
12 災害時の対応について	55
13 障がい者福祉施策への要望について	60
2 部 事業所調査	67
1 事業所の概要について	67
2 事業所の運営状況について	68
3 災害時の対応について	79
4 地域共生に向けた取り組みについて	81
5 地域生活支援拠点事業について	82
6 入所施設の状況について	84
7 一般就労の状況について	85
8 相談支援事業の状況について	86
9 今後の障がい者福祉施策について	88
3 部 関係団体調査	92

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、「第5次太田市障がい者福祉計画」、「第7期太田市障がい福祉計画」及び「第3期太田市障がい児福祉計画」の策定の基礎資料とするため、障がい者の現在の生活状況や今後の要望等の把握、サービス見込み量等の算出を目的として、アンケート調査を実施しました。

2 調査の設計

項目	内容	
調査期間	当事者	令和5年8月18日～令和5年9月15日
	事業所	令和5年9月14日～令和5年9月30日
	団体	令和5年9月6日～令和5年9月22日
調査対象	当事者	市内在住の障害者手帳所持者から無作為で抽出
	事業所	市内の障害福祉サービス事業所から無作為で抽出
	団体	市内の福祉に携わる障がい者団体及び障がい者支援団体
調査方法	郵送配付・郵送回収（当事者・団体）、WEB 回答（事業所）	

3 回収結果

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
当事者	1,500	659	659	43.9%
事業所	100	61	61	61.0%
団体	11	11	11	100.0%

4 報告書の見方

- ①単数回答の設問における各選択肢の回答割合（構成比）は、非該当者を除いた回答者数（「n」で表す当該設問での該当者数）を基数とした百分率(%)で示しています。
- ②各数値は、小数点以下第二位を四捨五入して算出しているため、構成比の合計は 100%にならない場合があります。
- ③複数回答の設問における各選択肢の回答割合（比率）は、非該当者を除いた回答者数（「n」で表す当該設問での該当者数）を基数とした百分率(%)で示しています。したがって、比率の合計値は 100%以上となります。
- ④図や表、本文では、選択肢の一部や数値の一部を省略している場合があります。
- ⑤回答者数が少ない場合は、表のみの掲載とします。

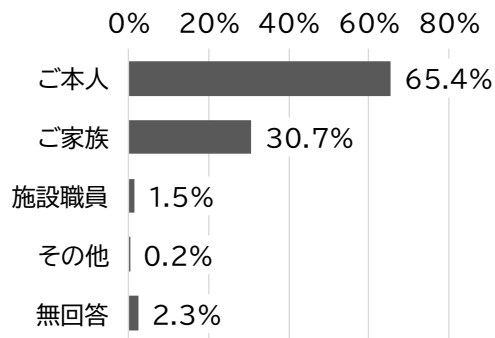
Ⅱ 調査結果

1 部 当事者調査

1 年齢や手帳などの所持状況について

問1 このアンケートに回答していただけるのはどなたですか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

アンケートに回答された方は、「ご本人」が 65.4%、「ご家族」が 30.7%、「施設職員」が 1.5%となっています。

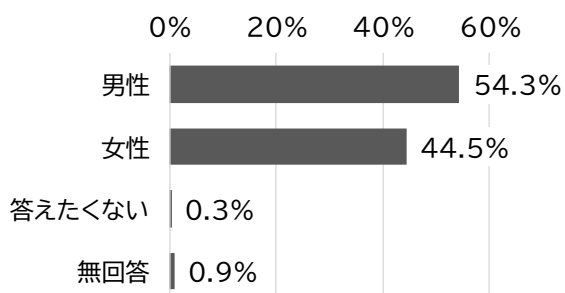


項目	件数	比率
ご本人	431	65.4%
ご家族	202	30.7%
施設職員	10	1.5%
その他	1	0.2%
無回答	15	2.3%
合計	659	100.0%

項目	ご本人	ご家族	施設職員	その他	無回答
全体(N=659)	65.4%	30.7%	1.5%	0.2%	2.3%
身体障がい(N=443)	70.4%	26.6%	0.9%	0.2%	1.8%
知的障がい(N=152)	30.3%	67.1%	1.3%	0.0%	1.3%
精神障がい(N=139)	77.0%	19.4%	2.2%	0.7%	0.7%
難病(N=66)	62.1%	33.3%	0.0%	1.5%	3.0%

問2 あなた(障がいのある方)の性別を教えてください。(該当する番号1つに○をつけてください。)

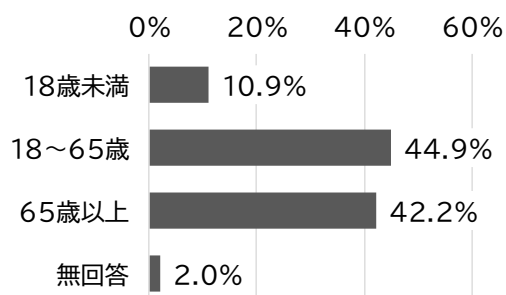
性別は、「男性」が 54.3%、「女性」が 44.5%となっています。



項目	件数	比率
男性	358	54.3%
女性	293	44.5%
答えたくない	2	0.3%
無回答	6	0.9%
合計	659	100.0%

問3 あなたの年齢はおいくつですか。(令和5年8月1日現在でご記入ください。)

年齢は、「18歳未満」が10.9%、「18～65歳」が44.9%、「65歳以上」が42.2%となっています。

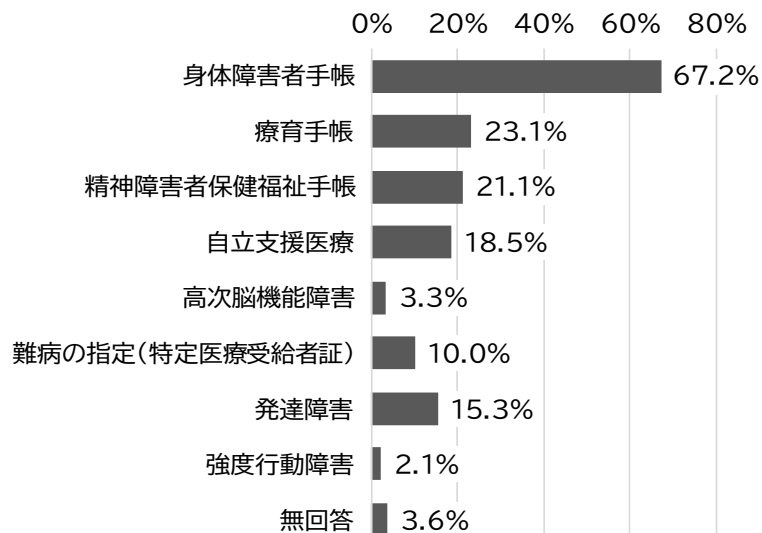


項目	件数	比率
18歳未満	72	10.9%
18～65歳	296	44.9%
65歳以上	278	42.2%
無回答	13	2.0%
合計	659	100.0%

項目	未18歳	18～65歳	65歳以上	無回答
全体(N=659)	10.9%	44.9%	42.2%	2.0%
身体障がい(N=443)	8.4%	34.5%	56.4%	0.7%
知的障がい(N=152)	32.2%	57.9%	9.9%	0.0%
精神障がい(N=139)	2.2%	73.4%	23.0%	1.4%
難病(N=66)	15.2%	48.5%	36.4%	0.0%

問4 あなたが現在お持ちの障害者手帳などの等級は次のどれですか(該当する番号すべてに○をつけてください。)

現在お持ちの障害者手帳は、「身体障害者手帳」が67.2%と最も多く、次いで「療育手帳」が23.1%、「精神障害者保健福祉手帳」が21.1%となっています。



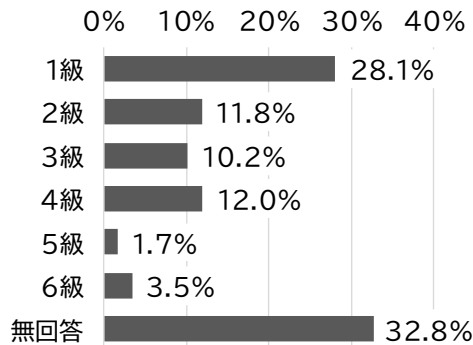
項目	件数	比率
身体障害者手帳	443	67.2%
療育手帳	152	23.1%
精神障害者保健福祉手帳	139	21.1%
自立支援医療	122	18.5%
高次脳機能障害	22	3.3%
難病の指定(特定医療受給者証)	66	10.0%
発達障害	101	15.3%
強度行動障害	14	2.1%
無回答	24	3.6%
回答者数	659	

項目	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	自立支援医療	高次脳機能障害	難病の指定(特定医療受給者証)	発達障害	強度行動障害	無回答
全体(N=659)	67.2%	23.1%	21.1%	18.5%	3.3%	10.0%	15.3%	2.1%	3.6%
身体障がい(N=443)	100.0%	14.9%	8.8%	7.9%	4.1%	12.6%	6.8%	1.8%	0.0%
知的障がい(N=152)	43.4%	100.0%	8.6%	8.6%	5.3%	8.6%	44.1%	5.3%	0.0%
精神障がい(N=139)	28.1%	9.4%	100.0%	71.9%	5.8%	8.6%	22.3%	2.9%	0.0%
難病(N=66)	84.8%	19.7%	18.2%	10.6%	9.1%	100.0%	13.6%	4.5%	0.0%

1 部 当事者調査

(1) 身体障害者手帳

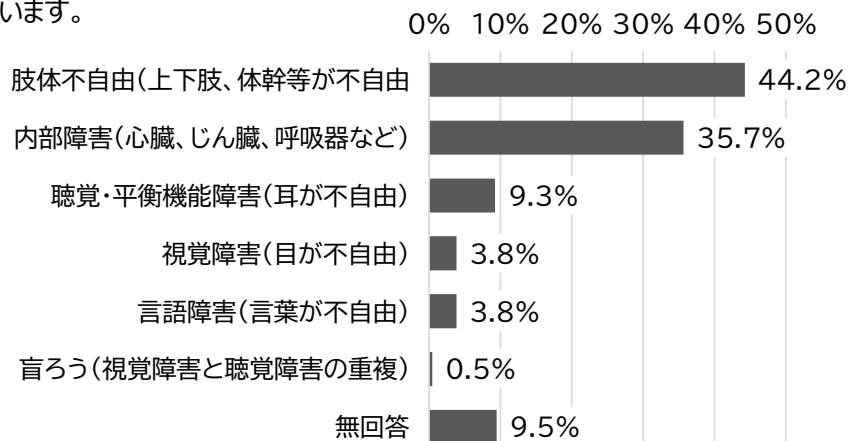
身体障害者手帳の等級は、「1級」が28.1%、「4級」が12.0%、「2級」が11.8%となっています。



項目	件数	比率
1級	185	28.1%
2級	78	11.8%
3級	67	10.2%
4級	79	12.0%
5級	11	1.7%
6級	23	3.5%
無回答	216	32.8%
合計	659	100.0%

どのような障がいですか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

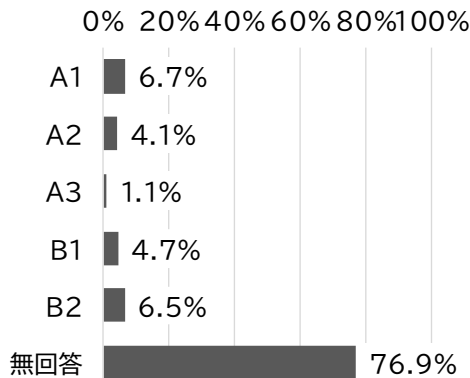
主な障がいについては、「肢体不自由（上下肢、体幹等が不自由）」が44.2%と最も多く、次いで「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器など）」は、35.7%、「聴覚・平衡機能障害（耳が不自由）」が9.3%となっています。



項目	件数	比率
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)	196	44.2%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)	158	35.7%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)	41	9.3%
視覚障害(目が不自由)	17	3.8%
言語障害(言葉が不自由)	17	3.8%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)	2	0.5%
無回答	42	9.5%
回答者数	443	

(2) 療育手帳

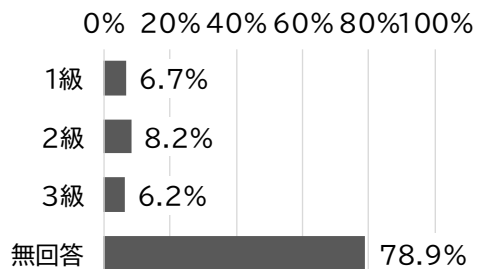
療育手帳の等級は、「A1」が 6.7%、「B2」が 6.5%、「B1」が 4.7%となっています。



項目	件数	比率
A1	44	6.7%
A2	27	4.1%
A3	7	1.1%
B1	31	4.7%
B2	43	6.5%
無回答	507	76.9%
合計	659	100.0%

(3) 精神障害者保健福祉手帳

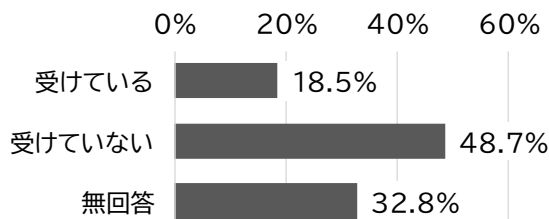
精神障害者保健福祉手帳の等級は、「1 級」が 6.7%、「2 級」が 8.2%、「3 級」が 6.2%となっています。



項目	件数	比率
1級	44	6.7%
2級	54	8.2%
3級	41	6.2%
無回答	520	78.9%
合計	659	100.0%

(4) あなたは自立支援医療(精神通院)の受給者証を受けてますか。

自立支援医療（精神通院）の受給者証を受けているかは、「受けている」が 18.5%となっています。

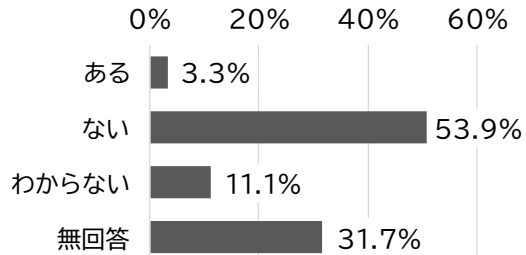


項目	件数	比率
受けている	122	18.5%
受けていない	321	48.7%
無回答	216	32.8%
合計	659	100.0%

1 部 当事者調査

(5) 高次脳機能障害はありますか。

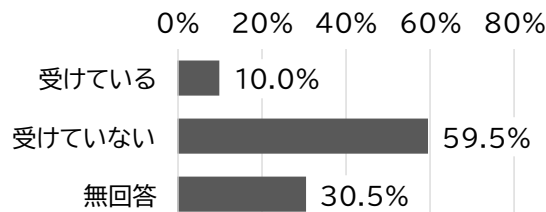
高次脳機能障害は、「ある」が 3.3%となっています。



項目	件数	比率
ある	22	3.3%
ない	355	53.9%
わからない	73	11.1%
無回答	209	31.7%
合計	659	100.0%

(6) あなたは難病の指定(特定医療受給者証)を受けていますか。

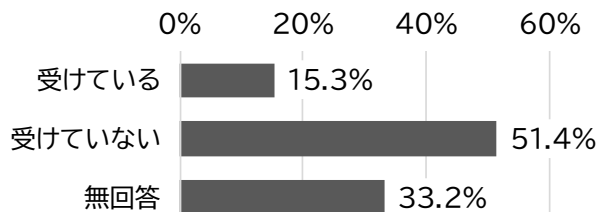
難病の指定（特定医療受給者証）を受けているかは、「受けている」が 10.0%となっています。



項目	件数	比率
受けている	66	10.0%
受けていない	392	59.5%
無回答	201	30.5%
合計	659	100.0%

(7) 発達障害の診断を受けていますか。

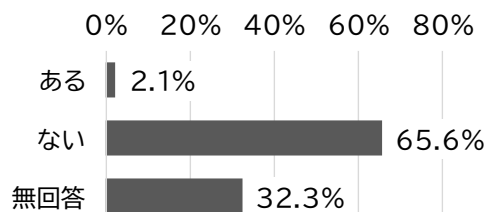
発達障害の診断を受けたかは、「受けている」が 10.0%となっています。



項目	件数	比率
受けている	101	15.3%
受けていない	339	51.4%
無回答	219	33.2%
合計	659	100.0%

(8) あなたは強度行動障害と言われたことがありますか。

強度行動障害と言われたことがあるかは、「ある」が 2.1%となっています。



項目	件数	比率
ある	14	2.1%
ない	432	65.6%
無回答	213	32.3%
合計	659	100.0%

*「ある」、「受けている」の障がい別比率

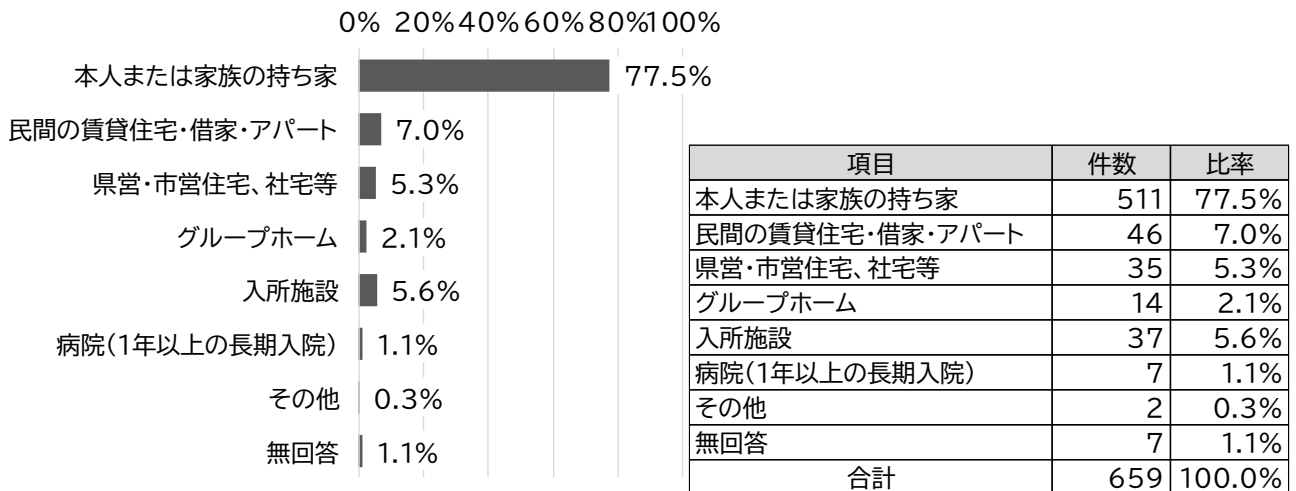
	高次脳機能障害	難病の指定医療受給者(証)	発達障害	強度行動障害
全体(N=659)	3.3%	10.0%	15.3%	2.1%
身体障がい(N=443)	4.1%	12.6%	6.8%	1.8%
知的障がい(N=152)	5.3%	8.6%	44.1%	5.3%
精神障がい(N=139)	5.8%	8.6%	22.3%	2.9%
難病(N=66)	9.1%	100.0%	13.6%	4.5%

1 部 当事者調査

2 住む場所について

問5 あなたは、どこで生活していますか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

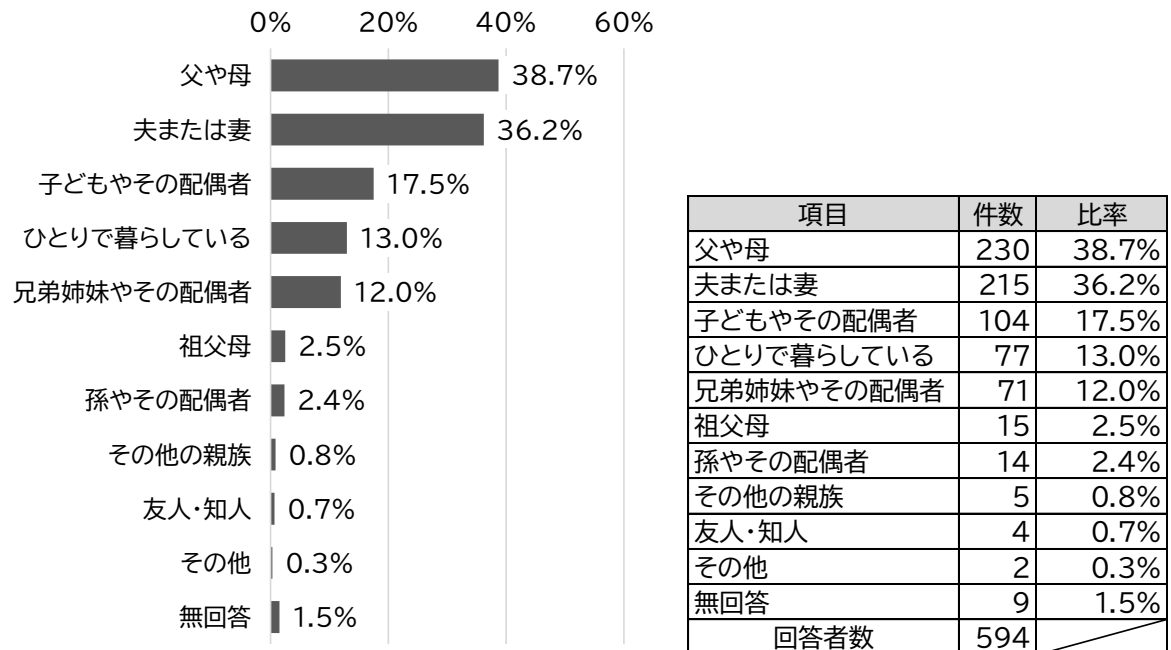
生活しているところは、「本人または家族の持ち家」が77.5%と最も多く、次いで「民間の賃貸住宅・借家・アパート」が7.0%、「入所施設」が5.6%となっています。



【問6は問5で「本人または家族の持ち家」～「県営・市営住宅、社宅等」、「その他」を選んだ方のみ】

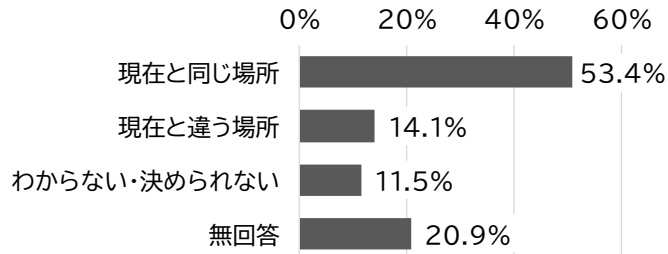
問6 あなたは、誰と一緒に生活していますか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

一緒に生活している方は、「父や母」が38.7%と最も多く、次いで「夫または妻」が36.2%、「子どもやその配偶者」が17.5%となっています。



問7 あなたは、今後(未成年の方は成人になったら)どこで暮らしたいですか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

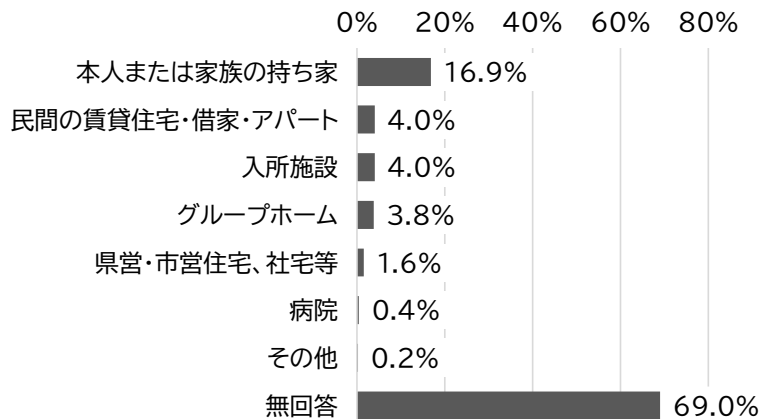
今後(未成年の方は成人になったら)暮らしたいところでは、「現在と同じ場所」が 53.4%、「現在と違う場所」が 14.1%、「わからない・決められない」が 11.5%となっています。



項目	件数	比率
現在と同じ場所	352	53.4%
現在と違う場所	93	14.1%
わからない・決められない	76	11.5%
無回答	138	20.9%
合計	659	100.0%

「現在と同じ場所」「現在と違う場所」と回答

暮らしたいところは、「本人または家族の」が 16.9%と多く、次いで「民間の賃貸住宅・借家・アパート」「入所施設」がともに 4.0%となっています。



項目	件数	比率
本人または家族の持ち家	75	16.9%
民間の賃貸住宅・借家・アパート	18	4.0%
入所施設	18	4.0%
グループホーム	17	3.8%
県営・市営住宅、社宅等	7	1.6%
病院	2	0.4%
その他	1	0.2%
無回答	307	69.0%
回答者数	445	

項目	本人または家族の持ち家	民間の賃貸住宅・借家・アパート	入所施設	グループホーム	県営・市営住宅、社宅等	病院	その他
全体(N=445)	16.9%	4.0%	4.0%	3.8%	1.6%	0.4%	0.2%
身体障がい(N=304)	18.8%	3.0%	3.0%	2.0%	2.0%	0.3%	0.3%
知的障がい(N=90)	8.9%	4.4%	8.9%	14.4%	0.0%	0.0%	0.0%
精神障がい(N=97)	20.6%	7.2%	0.0%	2.1%	4.1%	1.0%	0.0%
難病(N=47)	19.1%	4.3%	4.3%	2.1%	2.1%	0.0%	0.0%

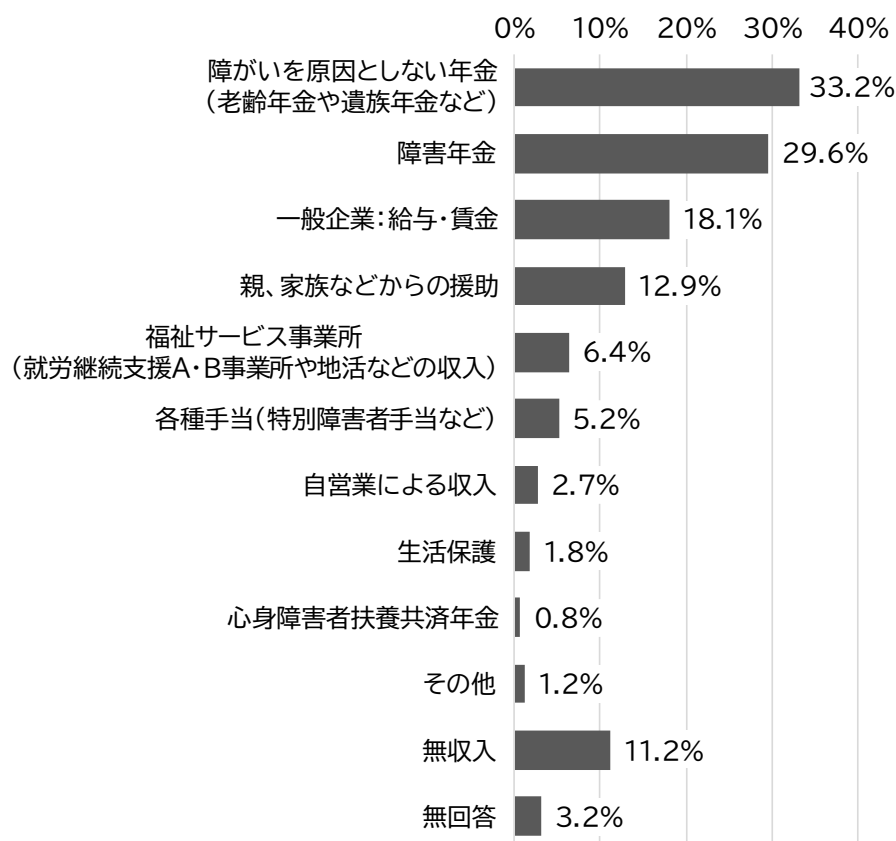
1 部 当事者調査

3 収入の状況について

問8 あなたの収入は次のうちどれですか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

収入源は、「障がいの原因としない年金（老齢年金や遺族年金など）」が 33.2%と最も多く、次いで「障害年金」が 29.6%、「一般企業：給与・賃金」が 18.1%となっています。

一方、「無収入」は、11.2%となっています。



項目	件数	比率
障がいの原因としない年金（老齢年金や遺族年金など）	219	33.2%
障害年金	195	29.6%
一般企業：給与・賃金	119	18.1%
親、家族などからの援助	85	12.9%
福祉サービス事業所（就労継続支援A・B事業所や地活などの収入）	42	6.4%
各種手当(特別障害者手当など)	34	5.2%
自営業による収入	18	2.7%
生活保護	12	1.8%
心身障害者扶養共済年金	5	0.8%
その他	8	1.2%
無収入	74	11.2%
無回答	21	3.2%
回答者数	659	

1 部 当事者調査

項目	障害年金 (遺族年金など)	障害年金	一般企業：給与・賃金	助親、家族などからの援助	事業所（福祉サービス事業所） （就労継続支援A・B） （地域活動など） 収入	各種手当（特別障害者 手当など）
全体(N=659)	33.2%	29.6%	18.1%	12.9%	6.4%	5.2%
身体障がい(N=443)	44.9%	23.9%	15.6%	9.9%	2.7%	5.4%
知的障がい(N=152)	5.9%	38.2%	17.1%	23.7%	19.1%	14.5%
精神障がい(N=139)	20.1%	43.2%	23.7%	12.9%	5.8%	2.2%
難病(N=66)	22.7%	37.9%	18.2%	4.5%	1.5%	7.6%

項目	自営業による収入	生活保護	心身障害者扶養共済年金	その他	無収入	無回答
全体(N=659)	2.7%	1.8%	0.8%	1.2%	11.2%	3.2%
身体障がい(N=443)	4.1%	1.1%	0.5%	1.4%	9.3%	2.0%
知的障がい(N=152)	0.7%	0.0%	2.0%	0.7%	18.4%	2.0%
精神障がい(N=139)	0.7%	6.5%	0.7%	0.7%	10.8%	2.2%
難病(N=66)	3.0%	0.0%	0.0%	1.5%	13.6%	4.5%

1 部 当事者調査

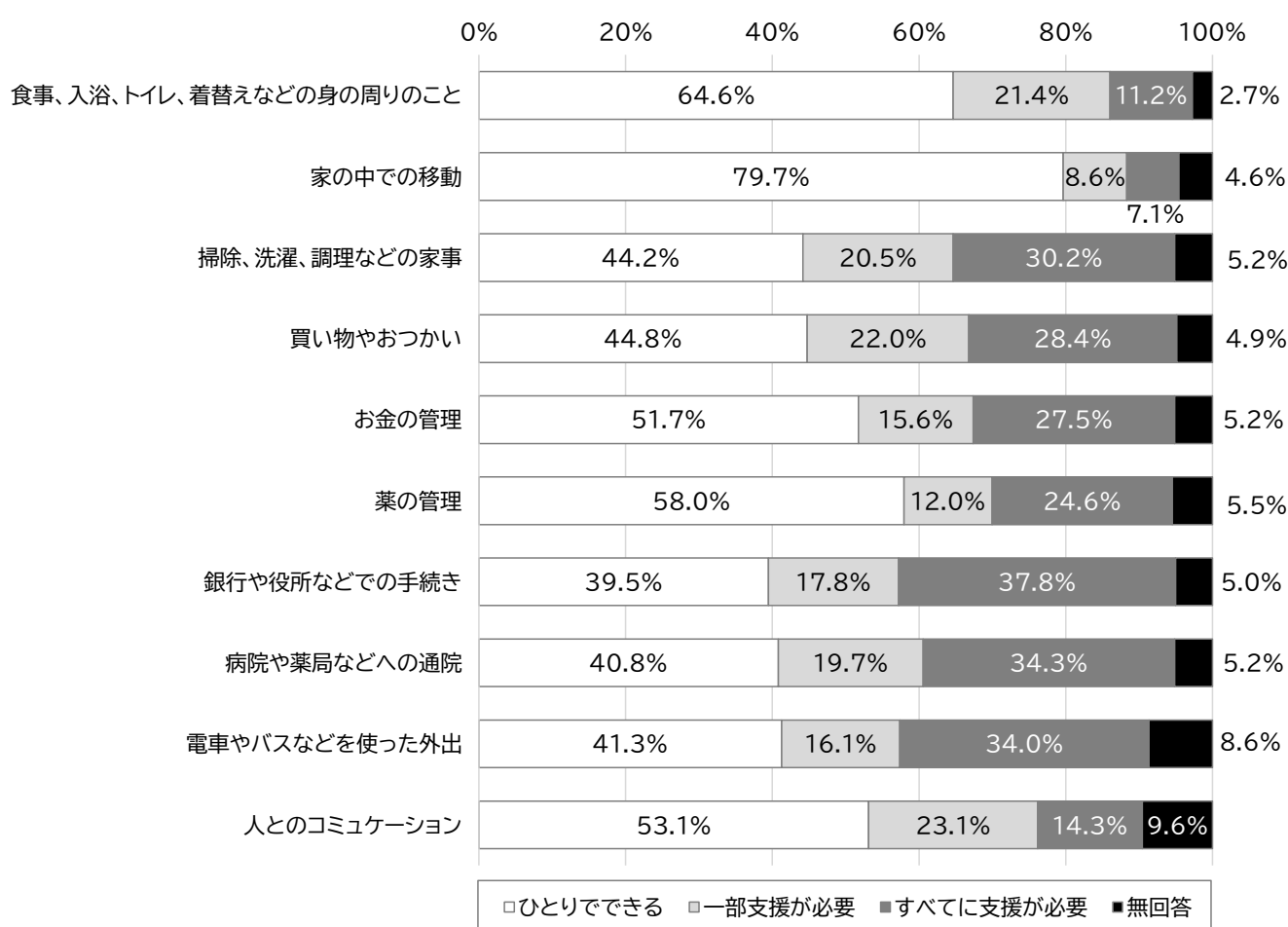
4 日常生活の状況について

問9 あなたは毎日の生活の中で次のことについて、ほかの人の手伝いや支援が必要ですか。
(それぞれ該当する番号1つに○をつけてください。)

毎日の生活の中で、ほかの人の手伝いや支援が必要な項目の「ひとりでできる」は、「家の中での移動」が79.7%と最も多く、次いで「食事、入浴、トイレ、着替えなどの身の周りのこと」が64.6%、「薬の管理」が58.0%となっています。

「一部支援が必要」は、「人とのコミュニケーション」が23.1%と最も多く、次いで「買い物やおつかい」が22.0%、「食事、入浴、トイレ、着替えなどの身の周りのこと」が21.4%となっています。

「すべてに支援が必要」は、「銀行や役所などでの手続き」が37.8%と最も多く、次いで「病院や薬局などへの通院」が34.3%、「電車やバスなどを使った外出」が34.0%となっています。



1 部 当事者調査

上段:件数 下段:比率

	ひとりで できる	一部支援が 必要	すべてに 支援が必要	無回答	合計
食事、入浴、トイレ、着替えなどの身の周りのこと	426 64.6%	141 21.4%	74 11.2%	18 2.7%	659 100.0%
家の中での移動	525 79.7%	57 8.6%	47 7.1%	30 4.6%	659 100.0%
掃除、洗濯、調理などの家事	291 44.2%	135 20.5%	199 30.2%	34 5.2%	659 100.0%
買い物やおつかい	295 44.8%	145 22.0%	187 28.4%	32 4.9%	659 100.0%
お金の管理	341 51.7%	103 15.6%	181 27.5%	34 5.2%	659 100.0%
薬の管理	382 58.0%	79 12.0%	162 24.6%	36 5.5%	659 100.0%
銀行や役所などでの手続き	260 39.5%	117 17.8%	249 37.8%	33 5.0%	659 100.0%
病院や薬局などへの通院	269 40.8%	130 19.7%	226 34.3%	34 5.2%	659 100.0%
電車やバスなどを使った外出	272 41.3%	106 16.1%	224 34.0%	57 8.6%	659 100.0%
人とのコミュニケーション	350 53.1%	152 23.1%	94 14.3%	63 9.6%	659 100.0%

■ 食事、入浴、トイレ、着替えなどの身の周りのこと

項目	ひとりで できる	一部 支援 が必要	すべて に 必要	無 回 答
全体(N=659)	64.6%	21.4%	11.2%	2.7%
身体障がい(N=443)	64.6%	18.3%	14.2%	2.9%
知的障がい(N=152)	46.1%	30.3%	21.7%	2.0%
精神障がい(N=139)	69.8%	20.9%	5.8%	3.6%
難病(N=66)	54.5%	19.7%	21.2%	4.5%

■ 家の中での移動

項目	ひとりで できる	一部 支援 が必要	すべて に 必要	無 回 答
全体(N=659)	79.7%	8.6%	7.1%	4.6%
身体障がい(N=443)	75.4%	9.9%	9.3%	5.4%
知的障がい(N=152)	73.0%	10.5%	13.2%	3.3%
精神障がい(N=139)	84.2%	8.6%	2.2%	5.0%
難病(N=66)	68.2%	15.2%	10.6%	6.1%

1 部 当事者調査

■ 掃除、洗濯、調理などの家事

項目	でひとり で	が一 部 要 支 援	支 す べ が て 必 に 要	無 回 答
全体(N=659)	44.2%	20.5%	30.2%	5.2%
身体障がい(N=443)	48.8%	16.3%	29.3%	5.6%
知的障がい(N=152)	20.4%	17.8%	57.9%	3.9%
精神障がい(N=139)	45.3%	29.5%	18.0%	7.2%
難病(N=66)	47.0%	16.7%	30.3%	6.1%

■ 買い物やおつかい

項目	でひとり で	が一 部 要 支 援	支 す べ が て 必 に 要	無 回 答
全体(N=659)	44.8%	22.0%	28.4%	4.9%
身体障がい(N=443)	46.0%	19.2%	29.8%	5.0%
知的障がい(N=152)	23.7%	23.7%	48.7%	3.9%
精神障がい(N=139)	51.8%	26.6%	14.4%	7.2%
難病(N=66)	39.4%	22.7%	33.3%	4.5%

■ お金の管理

項目	でひとり で	が一 部 要 支 援	支 す べ が て 必 に 要	無 回 答
全体(N=659)	51.7%	15.6%	27.5%	5.2%
身体障がい(N=443)	58.5%	10.4%	25.7%	5.4%
知的障がい(N=152)	19.1%	16.4%	60.5%	3.9%
精神障がい(N=139)	49.6%	27.3%	14.4%	8.6%
難病(N=66)	56.1%	12.1%	27.3%	4.5%

■ 薬の管理

項目	でひとり で	が一 部 要 支 援	支 す べ が て 必 に 要	無 回 答
全体(N=659)	58.0%	12.0%	24.6%	5.5%
身体障がい(N=443)	62.1%	9.0%	22.8%	6.1%
知的障がい(N=152)	23.7%	15.1%	56.6%	4.6%
精神障がい(N=139)	63.3%	16.5%	12.9%	7.2%
難病(N=66)	57.6%	10.6%	25.8%	6.1%

■ 銀行や役所などでの手続き

項目	でひとり で	が一部 必要支 援	支援が すべて 必要	無回 答
全体(N=659)	 39.5%	 17.8%	 37.8%	 5.0%
身体障がい(N=443)	 44.9%	 16.9%	 32.5%	 5.6%
知的障がい(N=152)	 9.2%	 10.5%	 76.3%	 3.9%
精神障がい(N=139)	 43.2%	 23.7%	 25.9%	 7.2%
難病(N=66)	 40.9%	 19.7%	 34.8%	 4.5%

■ 病院や薬局などへの通院

項目	でひとり で	が一部 必要支 援	支援が すべて 必要	無回 答
全体(N=659)	 40.8%	 19.7%	 34.3%	 5.2%
身体障がい(N=443)	 43.8%	 18.7%	 31.8%	 5.6%
知的障がい(N=152)	 14.5%	 15.8%	 65.8%	 3.9%
精神障がい(N=139)	 48.2%	 22.3%	 21.6%	 7.9%
難病(N=66)	 34.8%	 24.2%	 37.9%	 3.0%

■ 電車やバスなどを使った外出

項目	でひとり で	が一部 必要支 援	支援が すべて 必要	無回 答
全体(N=659)	 41.3%	 16.1%	 34.0%	 8.6%
身体障がい(N=443)	 43.1%	 15.6%	 30.9%	 10.4%
知的障がい(N=152)	 21.1%	 11.8%	 63.2%	 3.9%
精神障がい(N=139)	 48.2%	 18.7%	 24.5%	 8.6%
難病(N=66)	 40.9%	 12.1%	 39.4%	 7.6%

■ 人とのコミュニケーション

項目	でひとり で	が一部 必要支 援	支援が すべて 必要	無回 答
全体(N=659)	 53.1%	 23.1%	 14.3%	 9.6%
身体障がい(N=443)	 61.2%	 16.7%	 12.2%	 9.9%
知的障がい(N=152)	 24.3%	 32.2%	 37.5%	 5.9%
精神障がい(N=139)	 45.3%	 36.0%	 10.1%	 8.6%
難病(N=66)	 59.1%	 18.2%	 13.6%	 9.1%

1 部 当事者調査

※身体障がいのうち、主な障がい別のクロス集計

■ 食事、入浴、トイレ、着替えなどの身の周りのこと

	ひとり で できる	一部 支 援 が 必 要	必 す べ て に 支 援 が 必 要	無 回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	47.1%	41.2%	11.8%	0.0%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	58.5%	26.8%	7.3%	7.3%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	47.1%	29.4%	23.5%	0.0%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	48.5%	21.9%	27.0%	2.6%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	80.4%	10.1%	5.7%	3.8%

■ 家の中での移動

	ひとり で できる	一部 支 援 が 必 要	要 す べ て に 支 援 が 必 要	無 回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	76.5%	17.6%	0.0%	5.9%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	80.5%	2.4%	7.3%	9.8%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	52.9%	23.5%	17.6%	5.9%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	61.2%	13.8%	18.9%	6.1%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	86.7%	5.7%	3.2%	4.4%

■ 掃除、洗濯、調理などの家事

	ひとり で できる	一部 支 援 が 必 要	要 す べ て に 支 援 が 必 要	無 回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	35.3%	23.5%	41.2%	0.0%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	51.2%	17.1%	22.0%	9.8%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	41.2%	5.9%	47.1%	5.9%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	32.7%	17.9%	45.9%	3.6%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	63.3%	13.3%	15.8%	7.6%

■ 買い物やおつかい

	ひとり で で き る	一 部 支 援 が 必 要	要 す べ て に 支 援 が 必 要	無 回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	17.6%	29.4%	52.9%	0.0%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	48.8%	17.1%	29.3%	4.9%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	29.4%	23.5%	41.2%	5.9%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	30.1%	21.4%	44.4%	4.1%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	62.0%	15.8%	15.2%	7.0%

■ お金の管理

	ひとり で で き る	一 部 支 援 が 必 要	要 す べ て に 支 援 が 必 要	無 回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	35.3%	23.5%	41.2%	0.0%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	58.5%	9.8%	22.0%	9.8%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	35.3%	17.6%	41.2%	5.9%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	48.0%	9.2%	39.8%	3.1%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	72.8%	8.9%	12.0%	6.3%

■ 薬の管理

	ひとり で で き る	一 部 支 援 が 必 要	要 す べ て に 支 援 が 必 要	無 回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	35.3%	11.8%	52.9%	0.0%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	56.1%	12.2%	22.0%	9.8%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	47.1%	5.9%	41.2%	5.9%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	53.6%	9.2%	32.7%	4.6%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	74.1%	8.9%	10.1%	7.0%

1 部 当事者調査

■ 銀行や役所などでの手続き

	ひとり で で き る	一 部 支 援 が 必 要	要 す べ て に 支 援 が 必 要	無 回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	17.6%	23.5%	58.8%	0.0%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	41.5%	19.5%	29.3%	9.8%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	11.8%	29.4%	47.1%	11.8%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	32.1%	16.3%	47.4%	4.1%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	63.3%	11.4%	19.6%	5.7%

■ 病院や薬局などへの通院

	ひとり で で き る	一 部 支 援 が 必 要	要 す べ て に 支 援 が 必 要	無 回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	17.6%	23.5%	52.9%	5.9%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	41.5%	19.5%	29.3%	9.8%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	23.5%	23.5%	41.2%	11.8%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	31.1%	19.4%	44.4%	5.1%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	58.9%	17.1%	19.6%	4.4%

■ 電車やバスなどを使った外出

	ひとり で で き る	一 部 支 援 が 必 要	必 す べ て に 支 援 が 必 要	無 回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	29.4%	17.6%	47.1%	5.9%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	43.9%	14.6%	29.3%	12.2%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	35.3%	23.5%	35.3%	5.9%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	27.0%	16.8%	45.4%	10.7%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	59.5%	15.2%	16.5%	8.9%

■ 人とのコミュニケーション

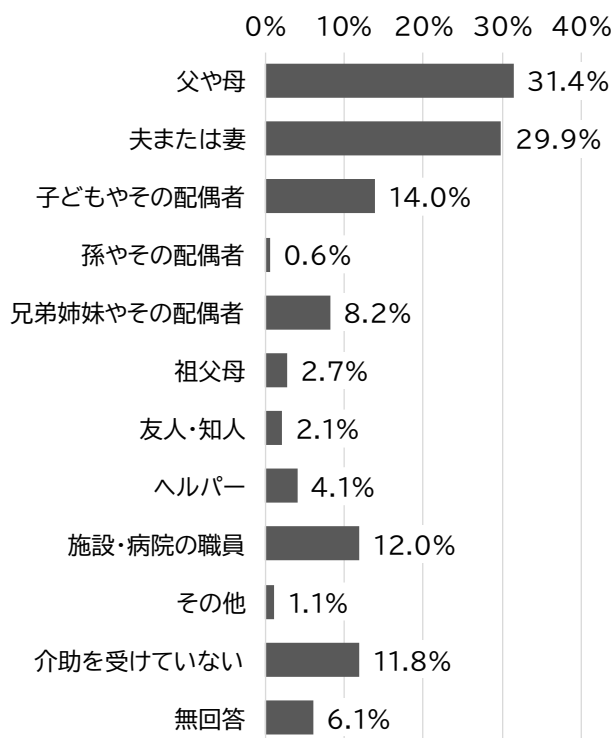
	ひとり で できる	一 部 支 援 が 必 要	要 す べ て に 支 援 が 必 要	無 回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	70.6%	23.5%	5.9%	0.0%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	34.1%	36.6%	14.6%	14.6%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	5.9%	58.8%	23.5%	11.8%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	53.6%	16.8%	19.9%	9.7%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	75.3%	10.1%	5.1%	9.5%

1 部 当事者調査

問 10 あなたの主な介助者(支援者)は、どなたですか。(該当する番号2つまで○をつけてください。)

主な介助者(支援者)は、「父や母」が31.4%と最も多く、次いで「夫または妻」が29.9%、「子どもやその配偶者」が14.0%となっています。

一方、「介助を受けていない」は、11.8%となっています。



項目	件数	比率
父や母	207	31.4%
夫または妻	197	29.9%
子どもやその配偶者	92	14.0%
孫やその配偶者	4	0.6%
兄弟姉妹やその配偶者	54	8.2%
祖父母	18	2.7%
友人・知人	14	2.1%
ヘルパー	27	4.1%
施設・病院の職員	79	12.0%
その他	7	1.1%
介助を受けていない	78	11.8%
無回答	40	6.1%
回答者数	659	

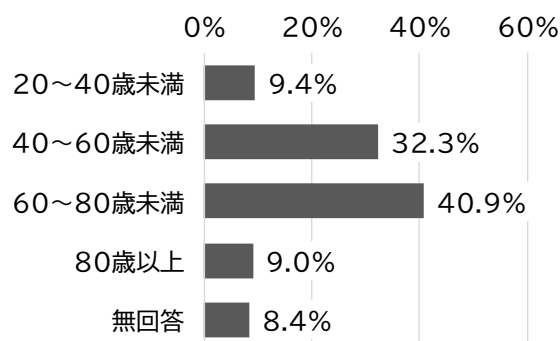
項目	父や母	夫または妻	子どもやその配偶者	施設・病院の職員	兄弟姉妹やその配偶者	ヘルパー
全体(N=659)	31.4%	29.9%	14.0%	12.0%	8.2%	4.1%
身体障がい(N=443)	21.0%	19.9%	8.6%	8.6%	5.9%	3.2%
知的障がい(N=152)	12.5%	17.1%	9.2%	3.9%	0.0%	0.7%
精神障がい(N=139)	5.0%	8.6%	1.4%	2.9%	3.6%	1.4%
難病(N=66)	25.8%	22.7%	13.6%	6.1%	10.6%	7.6%

項目	祖父母	友人・知人	孫やその配偶者	その他	介助を受けていない	無回答
全体(N=659)	2.7%	2.1%	0.6%	1.1%	11.8%	6.1%
身体障がい(N=443)	1.6%	1.4%	0.2%	0.9%	7.9%	3.6%
知的障がい(N=152)	0.7%	0.0%	0.0%	0.7%	9.2%	5.3%
精神障がい(N=139)	1.4%	0.7%	0.0%	0.7%	2.9%	2.2%
難病(N=66)	4.5%	1.5%	0.0%	0.0%	3.0%	4.5%

【問11、12は問10で「父や母」～「祖父母」を選んだ方のみ】

問11 あなたの主な介助者(支援者)の年齢を教えてください。

主な介助者(支援者)の年齢は、「60～80歳未満」が40.9%、「40～60歳未満」が32.3%となっています。

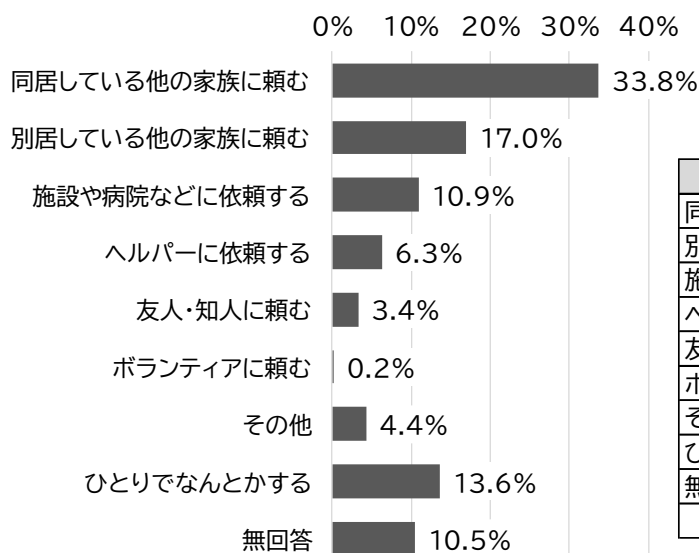


項目	件数	比率
20～40歳未満	45	9.4%
40～60歳未満	154	32.3%
60～80歳未満	195	40.9%
80歳以上	43	9.0%
無回答	40	8.4%
回答者数	477	100.0%

問12 あなたが主な介助者(支援者)から介助を受けられない時はどうしますか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

主な介助者(支援者)から介助を受けられない時の対処は、「同居している他の家族に頼む」が33.8%と最も多く、次いで「別居している他の家族に頼む」が17.0%、「施設や病院などに依頼する」が10.9%となっています。

一方、「ひとりでなんとかする」は、13.6%となっています。



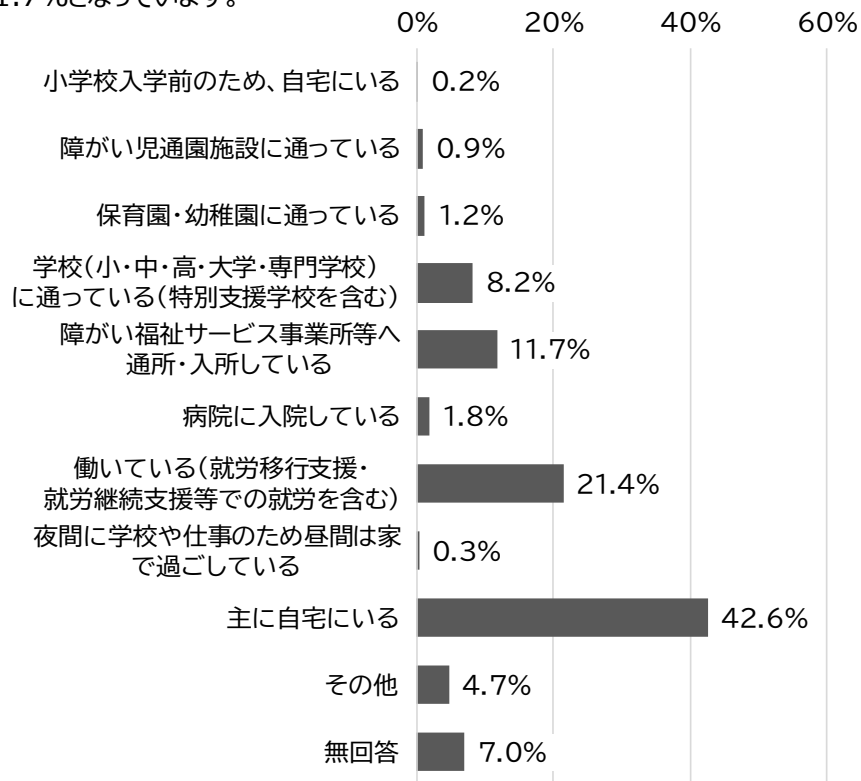
項目	件数	比率
同居している他の家族に頼む	161	33.8%
別居している他の家族に頼む	81	17.0%
施設や病院などに依頼する	52	10.9%
ヘルパーに依頼する	30	6.3%
友人・知人に頼む	16	3.4%
ボランティアに頼む	1	0.2%
その他	21	4.4%
ひとりでなんとかする	65	13.6%
無回答	50	10.5%
回答者数	477	100.0%

項目	同居している他の家族に頼む	別居している他の家族に頼む	ひとりでなんとかする	施設や病院などに依頼する	ヘルパーに依頼する	その他	友人・知人に頼む	ボランティアに頼む	無回答
全体(N=477)	33.8%	17.0%	13.6%	10.9%	6.3%	4.4%	3.4%	0.2%	10.5%
身体障がい(N=309)	29.4%	20.4%	11.3%	11.0%	8.1%	4.5%	4.2%	0.0%	11.0%
知的障がい(N=136)	50.7%	16.2%	3.7%	8.1%	6.6%	4.4%	0.7%	0.7%	8.8%
精神障がい(N=94)	31.9%	7.4%	28.7%	9.6%	3.2%	5.3%	5.3%	0.0%	8.5%
難病(N=51)	29.4%	15.7%	15.7%	13.7%	5.9%	7.8%	2.0%	0.0%	9.8%

5 昼間の活動の場、就労・雇用について

問 13 あなたは、平日の昼間、どのように過ごしていますか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

平日の昼間の過ごし方は、「主に自宅にいる」が42.6%と最も多く、次いで「働いている（就労移行支援・就労継続支援等での就労を含む）」が 21.4%、「障がい福祉サービス事業所等へ通所・入所している」が 11.7%となっています。



項目	件数	比率
小学校入学前のため、自宅にいる	1	0.2%
障がい児通園施設に通っている	6	0.9%
保育園・幼稚園に通っている	8	1.2%
学校(小・中・高・大学・専門学校)に通っている(特別支援学校を含む)	54	8.2%
障がい福祉サービス事業所等へ通所・入所している	77	11.7%
病院に入院している	12	1.8%
働いている(就労移行支援・就労継続支援等での就労を含む)	141	21.4%
夜間に学校や仕事のため昼間は家で過ごしている	2	0.3%
主に自宅にいる	281	42.6%
その他	31	4.7%
無回答	46	7.0%
合計	659	100.0%

1 部 当事者調査

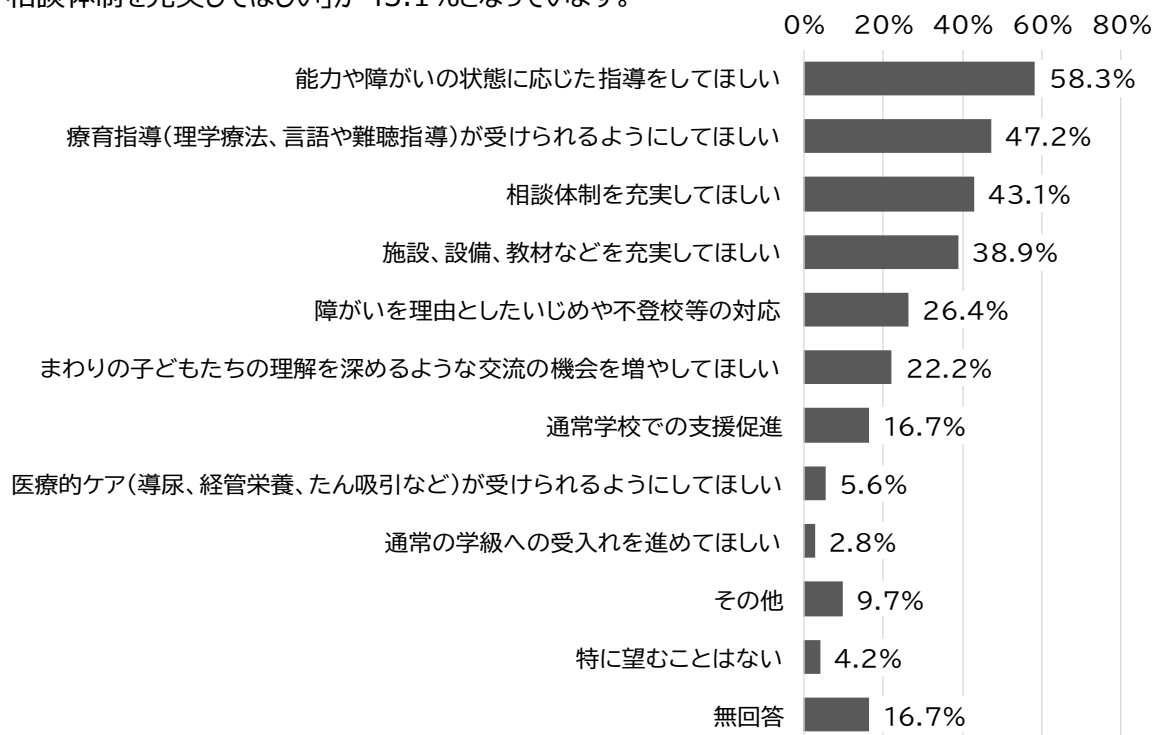
項目	小学校入学前の め、自宅に いる	障がい児 通園施設に 通っている	保育園・幼稚園 に通っている	大学・専門学校・高 校・特別支援学 校に通っている （含む）	障がい福祉サ ービス等を利用 している	病院に入院して いる	働いている（就 業・就労を 含む）	夜間・学校や 仕事で過ごす 時間	主に自宅に いる	その他	無 回 答
全体(N=659)	0.2%	0.9%	1.2%	8.2%	11.7%	1.8%	21.4%	0.3%	42.6%	4.7%	7.0%
身体障がい(N=443)	0.2%	0.9%	1.1%	5.9%	9.3%	2.0%	17.8%	0.2%	49.2%	4.7%	8.6%
知的障がい(N=152)	0.0%	3.3%	2.6%	25.7%	28.9%	2.0%	22.4%	0.0%	12.5%	0.7%	2.0%
精神障がい(N=139)	0.0%	0.0%	0.7%	0.7%	9.4%	3.6%	27.3%	0.7%	43.9%	7.9%	5.8%
難病(N=66)	1.5%	1.5%	0.0%	9.1%	6.1%	4.5%	18.2%	0.0%	53.0%	1.5%	4.5%

1 部 当事者調査

【問 14 は 18 歳以下のお子さんがある保護者の方のみ】

問 14 幼稚園、保育園、学校に望むことは何ですか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

幼稚園、保育園、学校に望むことは、「能力や障がいの状態に応じた指導をしてほしい」が 58.3%と最も多く、次いで「療育指導（理学療法、言語や難聴指導）が受けられるようにしてほしい」が 47.2%、「相談体制を充実してほしい」が 43.1%となっています。



項目	件数	比率
能力や障がいの状態に応じた指導をしてほしい	42	58.3%
療育指導(理学療法、言語や難聴指導)が受けられるようにしてほしい	34	47.2%
相談体制を充実してほしい	31	43.1%
施設、設備、教材などを充実してほしい	28	38.9%
障がいを理由としたいじめや不登校等の対応	19	26.4%
まわりの子どもたちの理解を深めるような交流の機会を増やしてほしい	16	22.2%
通常学校での支援促進	12	16.7%
医療的ケア(導尿、経管栄養、たん吸引など)が受けられるようにしてほしい	4	5.6%
通常の学級への受入れを進めてほしい	2	2.8%
その他	7	9.7%
特に望むことはない	3	4.2%
無回答	12	16.7%
回答者数	72	

1 部 当事者調査

項目	導状態を態力しにやて応障ほじがしたい指の	てら聴療療ほれ指法育指しる導、言導うが語（に受や理しけ難学	し相て談ほ体し制いを充実	て材施ほな設しど、いを設充備、し教	登し障校たが等いいのじを対め理応や不と	てのめたまほ機るちわし会よのりいをう理の増な解子や交をどし流深も
全体(N=72)	58.3%	47.2%	43.1%	38.9%	26.4%	22.2%
身体障がい(N=37)	56.8%	45.9%	43.2%	48.6%	27.0%	27.0%
知的障がい(N=49)	67.3%	61.2%	46.9%	44.9%	20.4%	20.4%
精神障がい(N=3)	33.3%	33.3%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%
難病(N=10)	70.0%	40.0%	40.0%	60.0%	30.0%	40.0%

項目	通常援学促校進での支	うがた尿医に受ん、療しけ吸経的てら引管ケほれな栄（養いよ、導	受通入常ほれの学い進級めへの	その他	特に望むことはない	無回答
全体(N=72)	16.7%	5.6%	2.8%	8.3%	4.2%	16.7%
身体障がい(N=37)	18.9%	10.8%	2.7%	5.4%	2.7%	16.2%
知的障がい(N=49)	10.2%	2.0%	2.0%	10.2%	4.1%	16.3%
精神障がい(N=3)	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
難病(N=10)	0.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%	20.0%

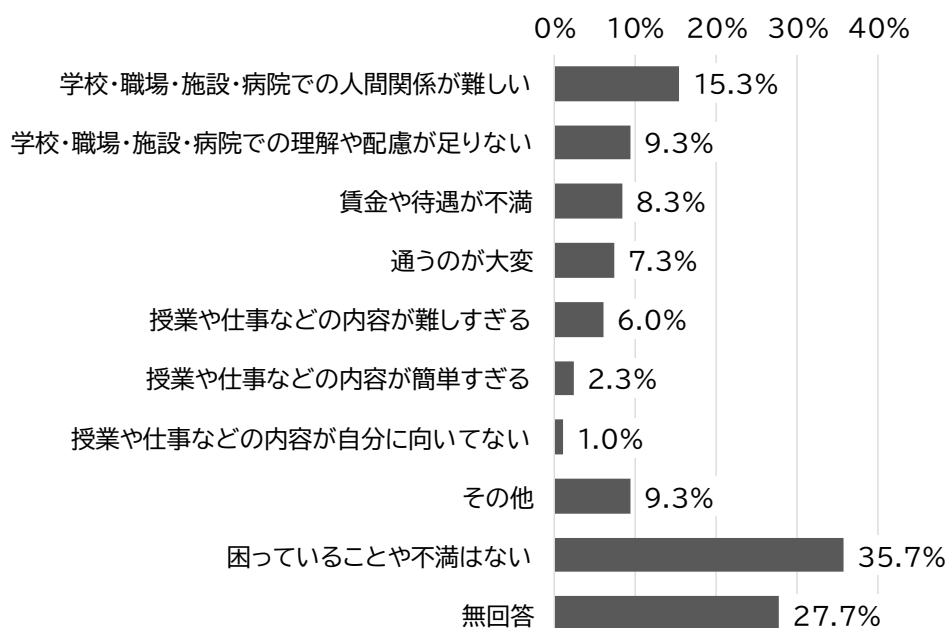
1 部 当事者調査

【問 15 は問 13 で「障がい児通園施設に通っている」～「夜間に学校や仕事のため昼間は家で過ごしている」を選んだ方のみ】

問 15 あなたは、活動の場において困っていることや不満はありますか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

活動の場において困っていることや不満については、「学校・職場・施設・病院での人間関係が難しい」が 15.3%と多く、次いで「学校・職場・施設・病院での理解や配慮が足りない」が 9.3%、「賃金や待遇が不満」が 8.3%となっています。

一方、「困っていることや不満はない」は、35.7%となっています。



項目	件数	比率
学校・職場・施設・病院での人間関係が難しい	46	15.3%
学校・職場・施設・病院での理解や配慮が足りない	28	9.3%
賃金や待遇が不満	25	8.3%
通うのが大変	22	7.3%
授業や仕事などの内容が難しすぎる	18	6.0%
授業や仕事などの内容が簡単すぎる	7	2.3%
授業や仕事などの内容が自分に向いてない	3	1.0%
その他	28	9.3%
困っていることや不満はない	107	35.7%
無回答	83	27.7%
回答者数	300	

項目	間設学 関・校 係病・ が院職 難で場 しの・ い人施	な解設学 いや・校 配病・ 慮院職 がで場 足の・ り理施	満賃金 や待遇 が不	通うの が大変	ぎの授 る内業 内容や が仕事 難しな すど
全体(N=300)	 15.3%	 9.3%	 8.3%	 7.3%	 6.0%
身体障がい(N=165)	 10.3%	 9.7%	 8.5%	 8.5%	 1.8%
知的障がい(N=129)	 12.4%	 8.5%	 5.4%	 8.5%	 7.8%
精神障がい(N=59)	 32.2%	 10.2%	 15.3%	 1.7%	 6.8%
難病(N=26)	 15.4%	 7.7%	 15.4%	 7.7%	 0.0%

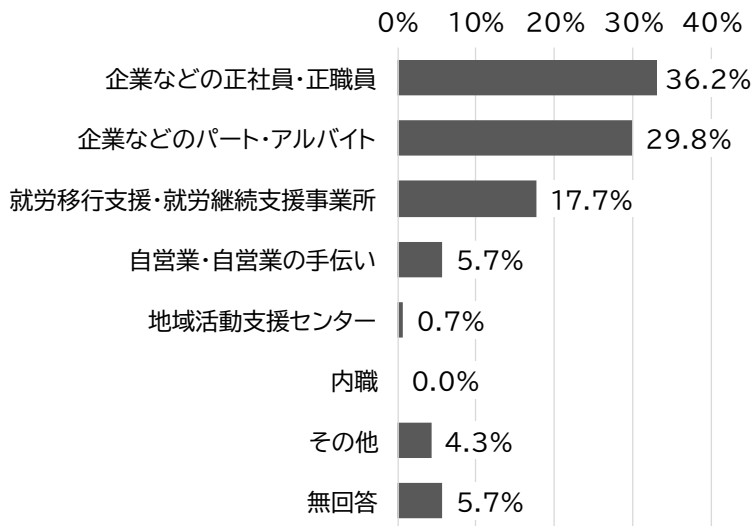
項目	の授 内業 内容や が仕事 簡単 なすど ぎる	の授 内業 向内容 いが仕事 が自分 ないなど	その他	困 つて いる こと や不 満は ない	無 回 答
全体(N=300)	 2.3%	 1.0%	 9.3%	 35.7%	 27.7%
身体障がい(N=165)	 0.6%	 0.6%	 9.7%	 33.9%	 32.1%
知的障がい(N=129)	 1.6%	 0.8%	 10.9%	 42.6%	 23.3%
精神障がい(N=59)	 5.1%	 1.7%	 11.9%	 25.4%	 23.7%
難病(N=26)	 0.0%	 0.0%	 3.8%	 38.5%	 30.8%

1 部 当事者調査

【問 16～19 は、問 13 で「働いている(就労移行支援・就労継続支援等での就労を含む)」を選んだ方のみ】

問 16 あなたは、どこで働いていますか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

働いているところでは、「企業などの正社員・正職員」が 36.2%と最も多く、次いで「企業などのパート・アルバイト」が 29.8%、「就労移行支援・就労継続支援事業所」が 17.7%となっています。



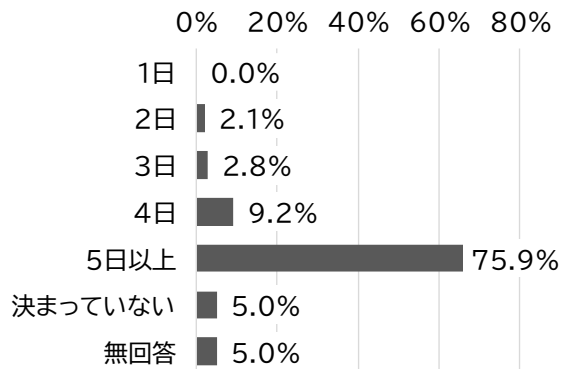
項目	件数	比率
企業などの正社員・正職員	51	36.2%
企業などのパート・アルバイト	42	29.8%
就労移行支援・就労継続支援事業所	25	17.7%
地域活動支援センター	1	0.7%
自営業・自営業の手伝い	8	5.7%
内職	0	0.0%
その他	6	4.3%
無回答	8	5.7%
回答者数	141	100.0%

項目	企業などの正社員・正職員	企業などのパート・アルバイト	就労移行支援・就労継続支援事業所	自営業・自営業の手伝い	地域活動支援センター	内職	その他	無回答
全体(N=141)	36.2%	29.8%	17.7%	5.7%	0.7%	0.0%	4.3%	5.7%
身体障がい(N=79)	40.5%	27.8%	6.3%	8.9%	1.3%	0.0%	6.3%	8.9%
知的障がい(N=34)	17.6%	41.2%	35.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%
精神障がい(N=38)	34.2%	36.8%	21.1%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	2.6%
難病(N=12)	58.3%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%

問 17 あなたは、1週間に何日くらい働いていますか。また、1日に何時間くらい働きますか。
(それぞれ該当する番号1つに○をつけてください。)

1 週間の働く日数

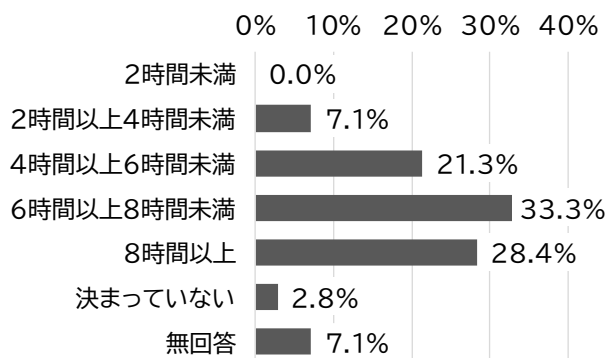
1 週間の働く日数は、「5 日以上」が 75.9%と最も多く、次いで「4 日」が 9.2%となっています。



項目	件数	比率
1日	0	0.0%
2日	3	2.1%
3日	4	2.8%
4日	13	9.2%
5日以上	107	75.9%
決まっていない	7	5.0%
無回答	7	5.0%
回答者数	141	100.0%

1 日の働く時間

1 日の働く時間は、「6 時間以上 8 時間未満」が 33.3%と最も多く、次いで「8 時間以上」が 28.4%、「4 時間以上 6 時間未満」が 21.3%となっています。

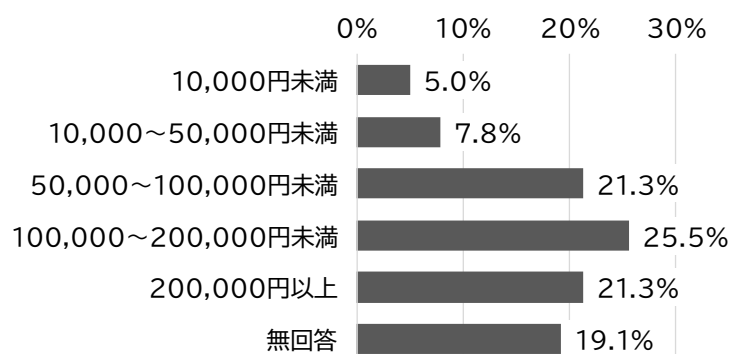


項目	件数	比率
2時間未満	0	0.0%
2時間以上4時間未満	10	7.1%
4時間以上6時間未満	30	21.3%
6時間以上8時間未満	47	33.3%
8時間以上	40	28.4%
決まっていない	4	2.8%
無回答	10	7.1%
回答者数	141	100.0%

1 部 当事者調査

問 18 あなたの、給与、賃金、工賃は1カ月あたりどのくらいですか。

給与、賃金、工賃は1カ月あたりの金額は、「100,000～200,000 円未満」が 25.5%と最も多く、次いで「50,000～100,000 円未満」「200,000 円以上」がともに 21.3%となっています。

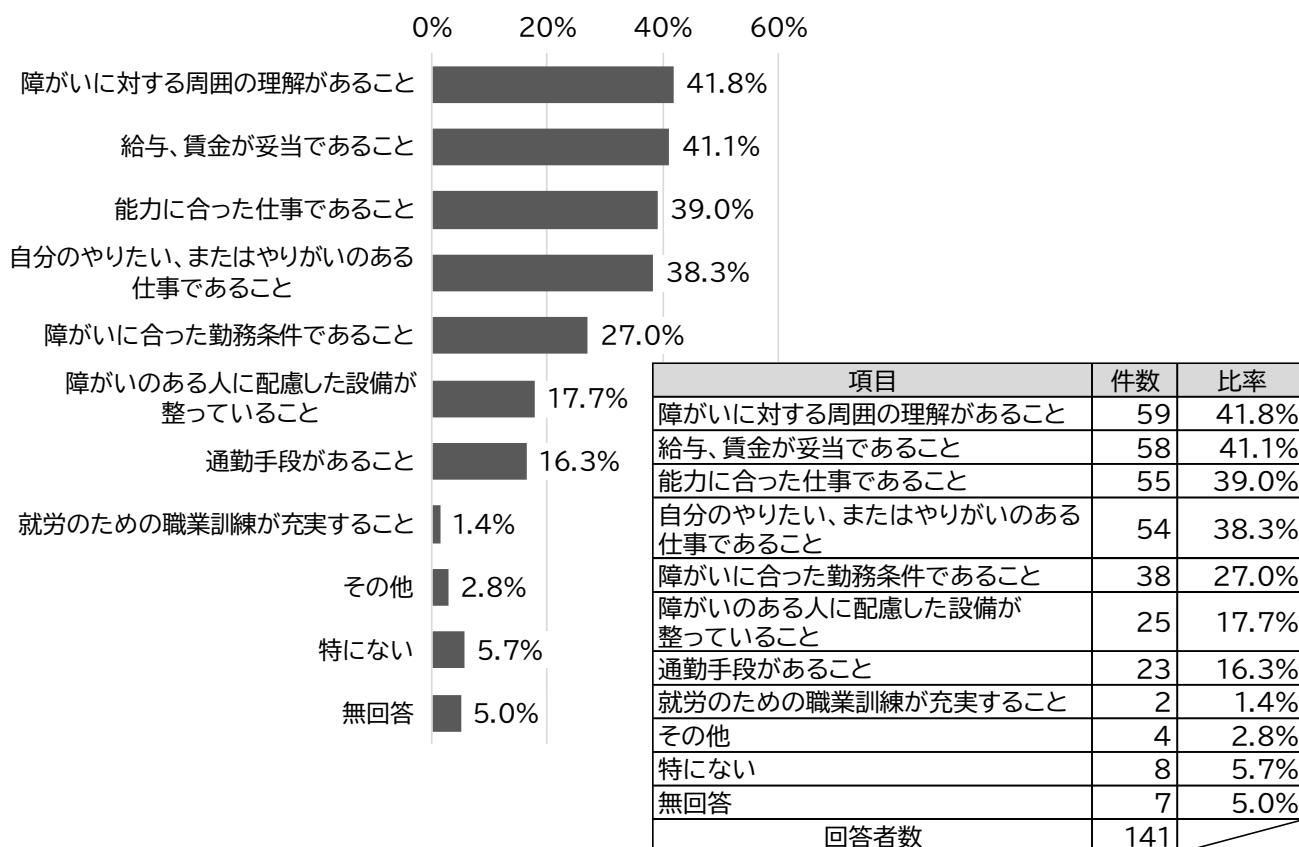


項目	件数	比率
10,000円未満	7	5.0%
10,000～50,000円未満	11	7.8%
50,000～100,000円未満	30	21.3%
100,000～200,000円未満	36	25.5%
200,000円以上	30	21.3%
無回答	27	19.1%
回答者数	141	100.0%

項目	10,000円未満	10,000～50,000円未満	50,000～100,000円未満	100,000～200,000円未満	200,000円以上	無回答
全体(N=141)	5.0%	7.8%	21.3%	25.5%	21.3%	19.1%
身体障がい(N=79)	3.8%	6.3%	17.7%	21.5%	30.4%	20.3%
知的障がい(N=34)	2.9%	23.5%	17.6%	44.1%	2.9%	8.8%
精神障がい(N=38)	7.9%	2.6%	36.8%	23.7%	13.2%	15.8%
難病(N=12)	8.3%	0.0%	8.3%	25.0%	33.3%	25.0%

問 19 あなたは、働くうえで、どのようなことが重要だと思いますか。(該当する番号3つまで
○をつけてください。)

働くうえで、重要だと思うことは、「障がいに対する周囲の理解があること」が 41.8%と最も多く、次いで「給与、賃金が妥当であること」が41.1%、「能力に合った仕事であること」が39.0%、「自分のやりたい、またはやりがいのある仕事であること」が38.3%となっています。



項目	障がいに対する周囲の理解があること	給与、賃金が妥当であること	能力に合った仕事であること	自分のやりたい、またはやりがいのある仕事であること	勤務条件に合った仕事であること
全体(N=141)	41.8%	41.1%	39.0%	38.3%	27.0%
身体障がい(N=79)	35.4%	45.6%	25.3%	38.0%	24.1%
知的障がい(N=34)	47.1%	26.5%	52.9%	32.4%	29.4%
精神障がい(N=38)	52.6%	47.4%	52.6%	50.0%	34.2%
難病(N=12)	50.0%	41.7%	25.0%	16.7%	41.7%

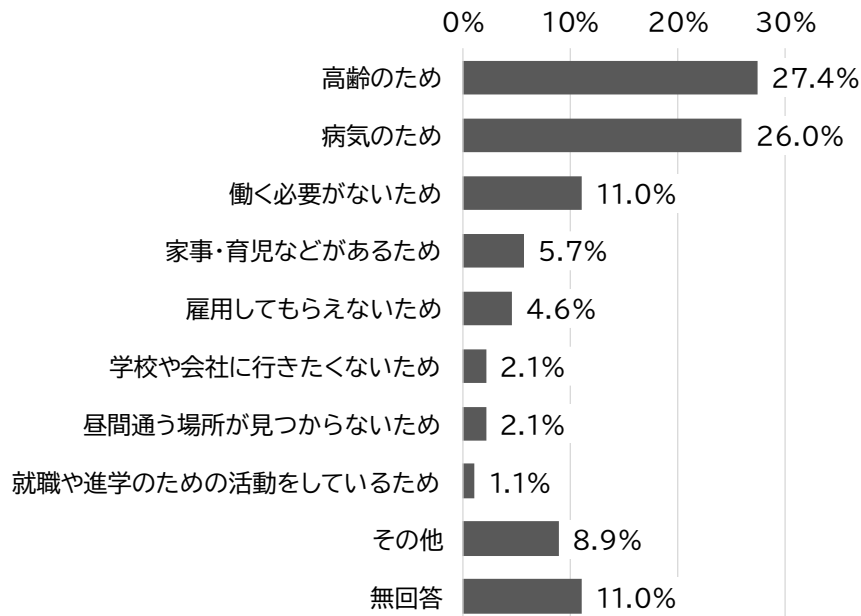
項目	通勤手段があること	就労のための職業訓練が充実すること	その他	特にない	無回答
全体(N=141)	16.3%	1.4%	2.8%	5.7%	5.0%
身体障がい(N=79)	12.7%	1.3%	1.3%	7.6%	7.6%
知的障がい(N=34)	35.3%	2.9%	0.0%	5.9%	0.0%
精神障がい(N=38)	7.9%	2.6%	7.9%	0.0%	0.0%
難病(N=12)	25.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%

1 部 当事者調査

【問 20 は問 13 で「主に自宅にいる」を選んだ方のみ】

問 20 あなたが、平日の昼間など主に自宅で過ごしている理由は何ですか。(該当する番号 1つに○をつけてください。)

平日の昼間など自宅で過ごしている主な理由は、「高齢のため」が 27.4%と最も多く、次いで「病気のため」が 26.0%、「働く必要がないため」が 11.0%となっています。



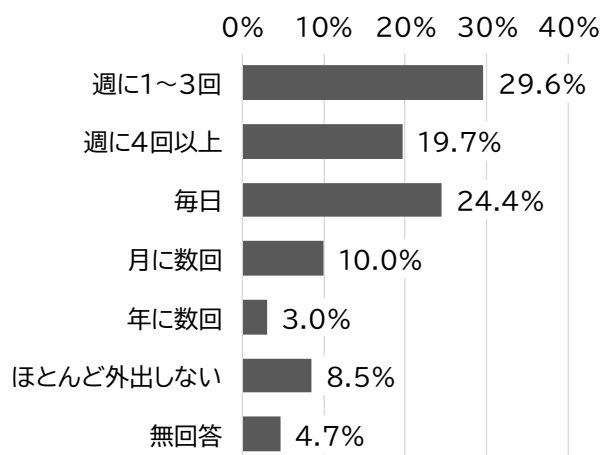
項目	件数	比率
高齢のため	77	27.4%
病気のため	73	26.0%
働く必要がないため	31	11.0%
家事・育児などがあるため	16	5.7%
雇用してもらえないため	13	4.6%
学校や会社に行きたくないため	6	2.1%
昼間通う場所が見つからないため	6	2.1%
就職や進学のための活動をしているため	3	1.1%
その他	25	8.9%
無回答	31	11.0%
回答者数	281	100.0%

項目	高齢のため	病気のため	働く必要がないため	家事・育児などがあるため	雇用してもらえないため	学校や会社に行きたくないため	昼間通う場所が見つからないため	就職や進学のための活動をしているため	その他	無回答
全体(N=281)	27.4%	26.0%	11.0%	5.7%	4.6%	2.1%	2.1%	1.1%	8.9%	11.0%
身体障がい(N=218)	31.2%	22.0%	11.9%	6.4%	5.0%	0.9%	2.3%	0.9%	8.7%	10.6%
知的障がい(N=19)	31.6%	10.5%	5.3%	0.0%	5.3%	10.5%	21.1%	0.0%	5.3%	10.5%
精神障がい(N=61)	11.5%	39.3%	6.6%	4.9%	9.8%	4.9%	0.0%	3.3%	9.8%	9.8%
難病(N=35)	28.6%	28.6%	5.7%	2.9%	8.6%	0.0%	2.9%	0.0%	11.4%	11.4%

6 外出・移動について

問 21 あなたは、どれくらいの頻度で外出しますか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

外出の頻度は、「週に1～3回」が 29.6%と最も多く、次いで「毎日」が 24.4%、「週に4回以上」が 19.7%となっています。



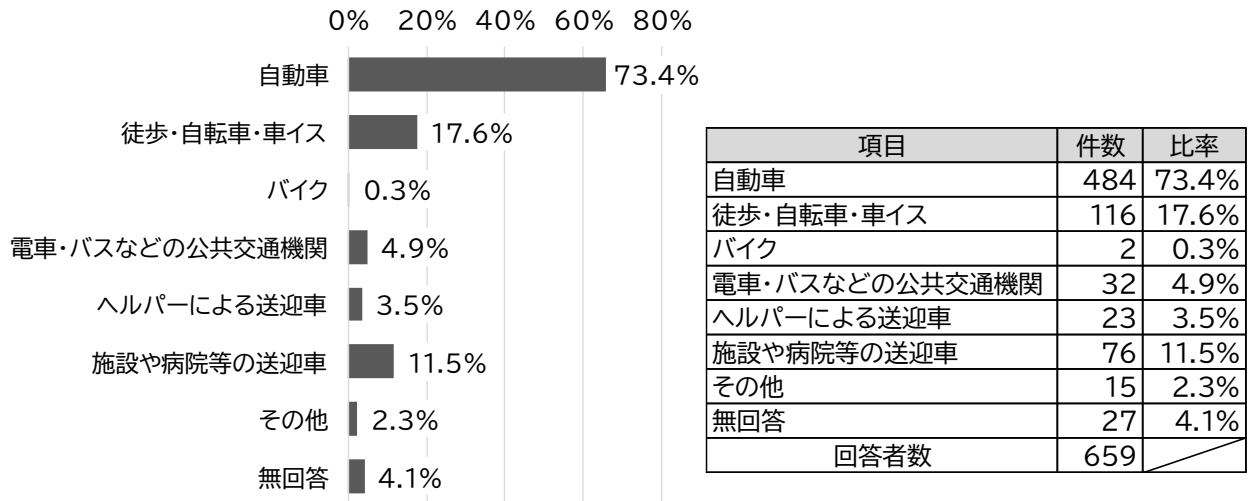
項目	件数	比率
週に1～3回	195	29.6%
週に4回以上	130	19.7%
毎日	161	24.4%
月に数回	66	10.0%
年に数回	20	3.0%
ほとんど外出しない	56	8.5%
無回答	31	4.7%
合計	659	100.0%

項目	週に1～3回	週に4回以上	毎日	月に数回	年に数回	ほとんど外出しない	無回答
全体(N=659)	29.6%	19.7%	24.4%	10.0%	3.0%	8.5%	4.7%
身体障がい(N=443)	32.3%	18.5%	22.3%	9.9%	3.6%	7.9%	5.4%
知的障がい(N=152)	24.3%	25.0%	32.9%	6.6%	3.9%	3.3%	3.9%
精神障がい(N=139)	24.5%	23.7%	21.6%	15.1%	1.4%	10.1%	3.6%
難病(N=66)	27.3%	18.2%	18.2%	18.2%	4.5%	12.1%	1.5%

1 部 当事者調査

問 22 あなたが、外出するときの主な交通手段は何ですか。（該当する番号2つまで○をつけてください。）

外出するときの主な交通手段は、「自動車」が 73.4%と最も多く、次いで「徒歩・自転車・車イス」が 17.6%となっています。

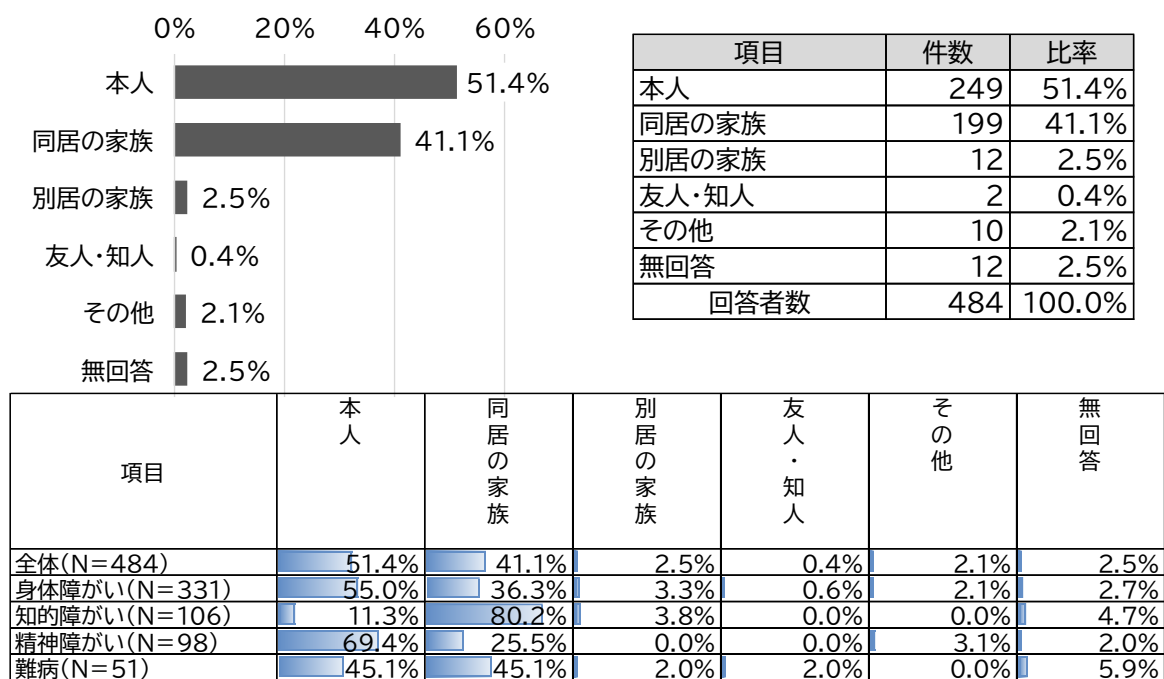


項目	自動車	車徒・歩車・イ自ス転	バイク	交な電通ど車機の・関公バス	よヘルるパ送迎車に	等施の設送や迎病院車院	その他	無回答
全体(N=659)	73.4%	17.6%	0.3%	4.9%	3.5%	11.5%	2.3%	4.1%
身体障がい(N=443)	74.7%	12.9%	0.2%	3.4%	3.8%	12.0%	2.0%	5.0%
知的障がい(N=152)	69.7%	23.7%	0.0%	8.6%	2.6%	15.1%	2.6%	3.9%
精神障がい(N=139)	70.5%	23.0%	0.7%	6.5%	2.9%	7.2%	2.9%	2.9%
難病(N=66)	77.3%	12.1%	0.0%	3.0%	6.1%	13.6%	3.0%	0.0%

【問 23 は問 22 で「自動車」を選んだ方のみ】

問 23 自動車を運転するのは、主に誰ですか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

自動車を運転する方は、「本人」が 51.4%と最も多く、次いで「同居の家族」が 41.1%となっています。

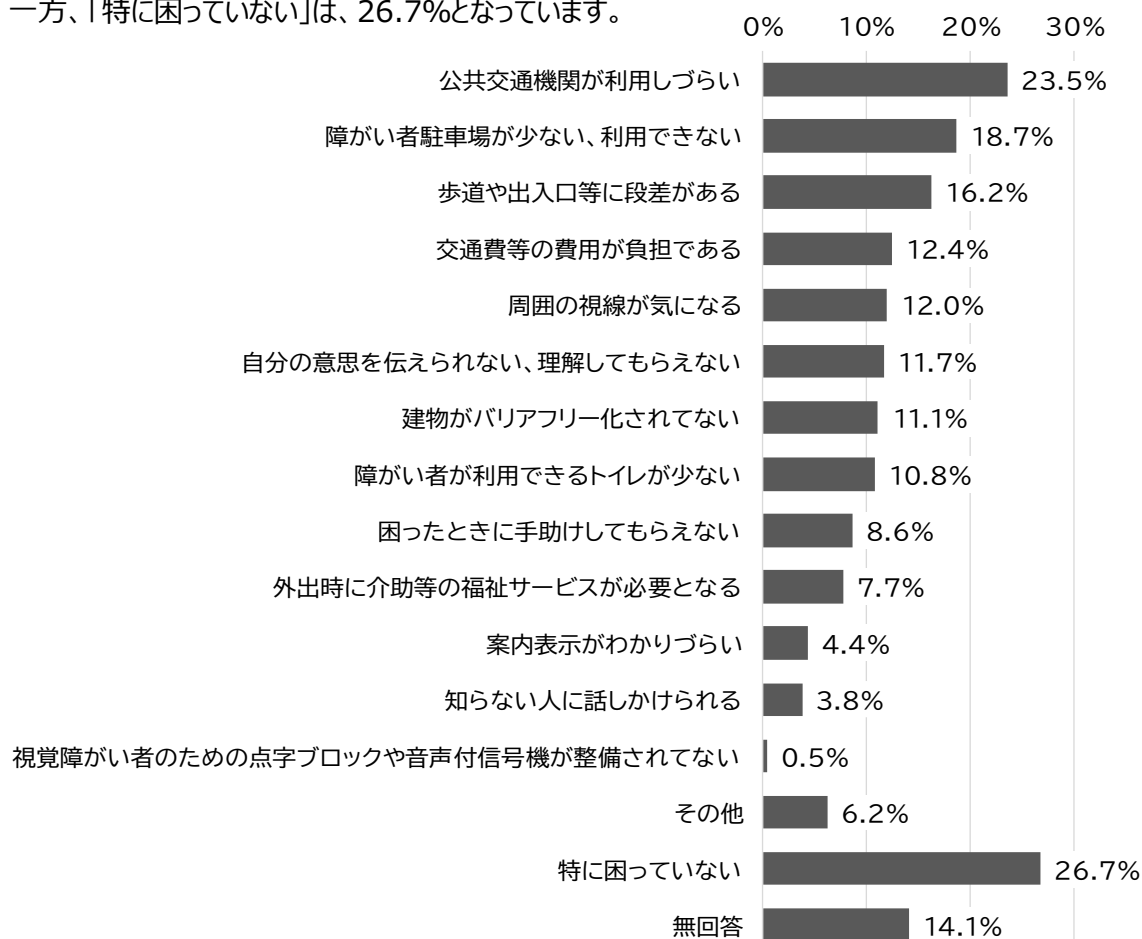


1 部 当事者調査

問 24 あなたが外出するとき困ること、または整備が必要と思われることは何ですか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

外出するとき困ること、または整備が必要と思われることは、「公共交通機関が利用しづらい」が 23.5%と多く、次いで「障がい者駐車場が少ない、利用できない」が 18.7%、「歩道や出入口等に段差がある」が 16.2%となっています。

一方、「特に困っていない」は、26.7%となっています。



項目	件数	比率
公共交通機関が利用しづらい	155	23.5%
障がい者駐車場が少ない、利用できない	123	18.7%
歩道や出入口等に段差がある	107	16.2%
交通費等の費用が負担である	82	12.4%
周囲の視線が気になる	79	12.0%
自分の意思を伝えられない、理解してもらえない	77	11.7%
建物がバリアフリー化されてない	73	11.1%
障がい者が利用できるトイレが少ない	71	10.8%
困ったときに手助けしてもらえない	57	8.6%
外出時に介助等の福祉サービスが必要となる	51	7.7%
案内表示がわかりづらい	29	4.4%
知らない人に話しかけられる	25	3.8%
視覚障がい者のための点字ブロックや音声付信号機が整備されてない	3	0.5%
その他	41	6.2%
特に困っていない	176	26.7%
無回答	93	14.1%
回答者数	659	

1 部 当事者調査

項目	用公共 しづら 交通機 関が利 用	な少障 がい ない 、者 利用 でき ない	段歩 道 が あ る 入 口 等 に	負交 担 通 費 等 の 費 用 が	な周 囲 の 視 線 が 気 に	てら自 分の 意 思 を 伝 え ない	り建 物 が バ リ ア フ リ ー	いき障 がい 者 が 利 用 な い
全体(N=659)	23.5%	18.7%	16.2%	12.4%	12.0%	11.7%	11.1%	10.8%
身体障がい(N=443)	24.8%	24.4%	19.6%	11.5%	6.3%	8.4%	14.7%	12.6%
知的障がい(N=152)	31.6%	15.8%	17.8%	11.8%	19.7%	30.3%	14.5%	18.4%
精神障がい(N=139)	21.6%	7.9%	9.4%	21.6%	25.2%	11.5%	5.0%	4.3%
難病(N=66)	40.9%	24.2%	21.2%	19.7%	18.2%	10.6%	12.1%	18.2%

項目	け困 した と き に 手 い 助 け	福外 社出 サ ー ビ ス に 介 助 が 必 要 な る	案内 表示 が わ か り づ ら い	知 ら な い 人 に 話 し か け ら れ る	整 備 さ れ て な い 視 覚 障 が い 者 の た め の 点 字 ブ ロ ッ ク や 音 声 付 信 号 機 が	そ の 他	特 に 困 っ て い な い	無 回 答
全体(N=659)	8.6%	7.7%	4.4%	3.8%	0.5%	6.2%	26.7%	14.1%
身体障がい(N=443)	6.8%	7.4%	4.3%	3.6%	0.7%	6.3%	25.5%	15.6%
知的障がい(N=152)	17.1%	11.8%	7.2%	5.3%	0.0%	4.6%	20.4%	9.2%
精神障がい(N=139)	13.7%	7.2%	3.6%	7.2%	0.0%	7.2%	29.5%	12.9%
難病(N=66)	16.7%	6.1%	4.5%	3.0%	0.0%	7.6%	18.2%	12.1%

※身体障がいのうち、主な障がい別のクロス集計

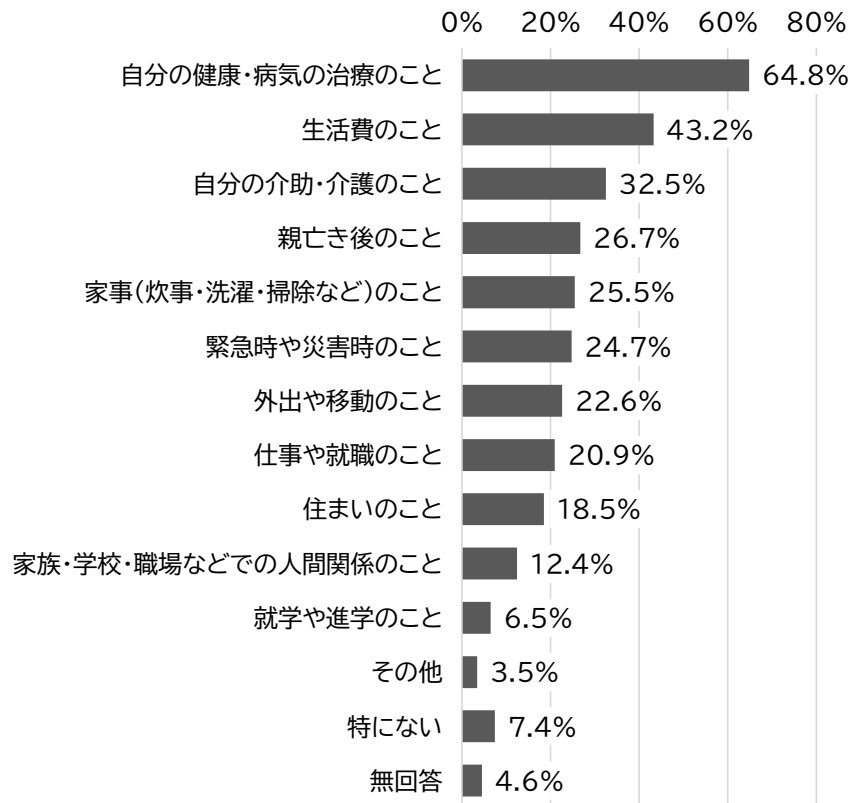
	し公 づら 交 通 機 関 が 利 用	な障 がい 、利 用 車 場 が 少 ない	差歩 道 が あ る 入 口 等 に 段	担交 通 費 等 の 費 用 が 負	る周 囲 の 視 線 が 気 に な	られ自 分の 意 思 を 伝 え ない	化建 物 が バ リ ア フ リ ー	る障 がい 者 が 利 用 な い
視覚障害(目が不自由)(N=17)	52.9%	11.8%	58.8%	17.6%	17.6%	11.8%	17.6%	17.6%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	26.8%	9.8%	17.1%	14.6%	0.0%	22.0%	12.2%	4.9%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	41.2%	11.8%	11.8%	11.8%	0.0%	41.2%	5.9%	0.0%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	28.1%	31.6%	29.1%	12.8%	8.7%	10.2%	23.5%	19.4%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	22.8%	24.1%	8.2%	10.1%	3.8%	4.4%	7.0%	8.9%

	困 っ た と き に 手 い 助 け	社外 サ ー ビ ス に 介 助 が 必 要 な る	案内 表示 が わ か り づ ら い	知 ら な い 人 に 話 し か け ら れ る	声の視 覚 障 が い 者 の た め の 点 字 ブ ロ ッ ク や 音 声 付 信 号 機 が 整 備 さ れ て な い	そ の 他	特 に 困 っ て い な い	無 回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	11.8%	11.8%	23.5%	0.0%	11.8%	5.9%	11.8%	11.8%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	14.6%	4.9%	14.6%	7.3%	0.0%	2.4%	26.8%	14.6%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	5.9%	11.8%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	11.8%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	9.2%	12.8%	4.1%	3.1%	0.5%	9.2%	18.4%	16.3%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	4.4%	3.2%	1.3%	2.5%	0.0%	4.4%	33.5%	12.7%

7 相談について

問 25 あなたが、現在(将来)、日常生活の中で心配していることは何ですか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

現在（将来）、日常生活の中で心配していることは、「自分の健康・病気の治療のこと」が 64.8%と最も多く、次いで「生活費のこと」が 43.2%、「自分の介助・介護のこと」が 32.5%となっています。



項目	件数	比率
自分の健康・病気の治療のこと	427	64.8%
生活費のこと	285	43.2%
自分の介助・介護のこと	214	32.5%
家事(炊事・洗濯・掃除など)のこと	168	25.5%
住まいのこと	122	18.5%
外出や移動のこと	149	22.6%
就学や進学のこと	43	6.5%
仕事や就職のこと	138	20.9%
緊急時や災害時のこと	163	24.7%
家族・学校・職場などでの人間関係のこと	82	12.4%
親亡き後のこと	176	26.7%
その他	23	3.5%
特にない	49	7.4%
無回答	30	4.6%
回答者数	659	

1 部 当事者調査

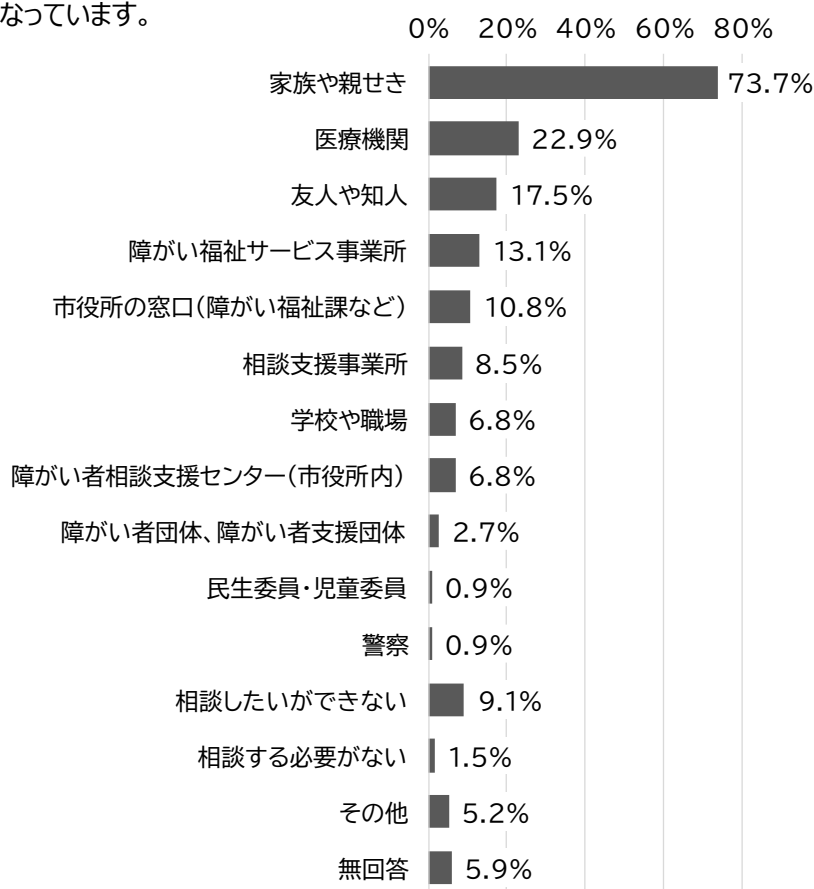
項目	自分の健康・病気の 治療のこと	生活費のこと	自分の介助・介護 のこと	親亡き後のこと	家事（炊事・洗 濯・掃除など）の こと	緊急時や災害時の こと	外出や移動のこと
全体(N=659)	64.8%	43.2%	32.5%	26.7%	25.5%	24.7%	22.6%
身体障がい(N=443)	46.5%	25.7%	22.3%	11.5%	15.1%	17.6%	16.3%
知的障がい(N=152)	33.6%	25.7%	25.7%	38.8%	19.7%	20.4%	15.8%
精神障がい(N=139)	64.0%	62.6%	26.6%	37.4%	30.9%	25.9%	24.5%
難病(N=66)	84.8%	48.5%	33.3%	24.2%	22.7%	31.8%	31.8%

項目	仕事や就職のこと	住まいのこと	家族・学校・職場 などでの人間関係 のこと	就学や進学のこと	その他	特 に な い	無 回 答
全体(N=659)	20.9%	18.5%	12.4%	6.5%	3.5%	7.4%	4.6%
身体障がい(N=443)	8.6%	9.7%	4.5%	2.5%	1.8%	6.8%	4.7%
知的障がい(N=152)	21.7%	17.8%	11.8%	9.9%	2.6%	4.6%	3.3%
精神障がい(N=139)	38.1%	26.6%	25.2%	2.9%	5.8%	5.8%	4.3%
難病(N=66)	21.2%	18.2%	10.6%	4.5%	4.5%	0.0%	0.0%

1 部 当事者調査

問 26 あなたが相談する相手はどなたですか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

相談する相手は、「家族や親せき」が 73.7%と最も多く、次いで「医療機関」が 22.9%、「友人や知人」が 17.5%となっています。



項目	件数	比率
家族や親せき	486	73.7%
医療機関	151	22.9%
友人や知人	115	17.5%
障がい福祉サービス事業所	86	13.1%
市役所の窓口(障がい福祉課など)	71	10.8%
相談支援事業所	56	8.5%
学校や職場	45	6.8%
障がい者相談支援センター(市役所内)	45	6.8%
障がい者団体、障がい者支援団体	18	2.7%
民生委員・児童委員	6	0.9%
警察	6	0.9%
相談したいができない	60	9.1%
相談する必要がある	10	1.5%
その他	34	5.2%
無回答	39	5.9%
回答者数	659	

1 部 当事者調査

項目	家族や親せき	医療機関	友人や知人	障害者支援施設	福祉課	市役所の窓口	相談したい	相談支援事業所	学校や職場
全体(N=659)	73.7%	22.9%	17.5%	13.1%	10.8%	9.1%	8.5%	6.8%	
身体障がい(N=443)	53.5%	14.2%	12.6%	6.5%	8.1%	7.7%	2.9%	1.8%	
知的障がい(N=152)	39.5%	7.9%	5.3%	19.7%	6.6%	11.2%	14.5%	8.6%	
精神障がい(N=139)	66.2%	35.3%	18.0%	10.8%	10.8%	10.1%	10.1%	5.0%	
難病(N=66)	80.3%	30.3%	22.7%	13.6%	12.1%	16.7%	6.1%	9.1%	

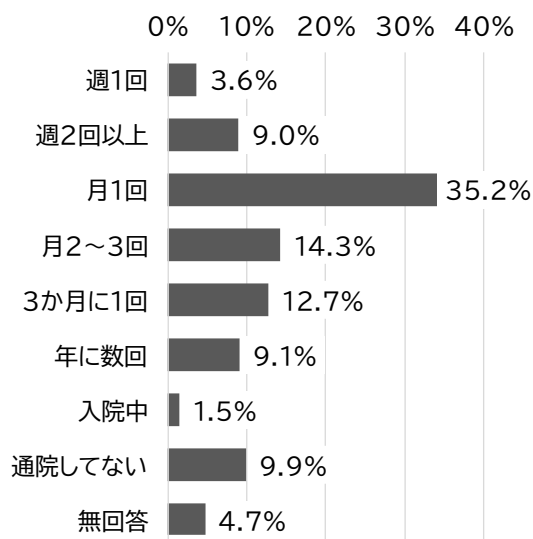
項目	障害者支援施設（市役所）	障害者団体	相談する必要がある	児童生徒委員・児童委員	警察	その他	無回答
全体(N=659)	6.8%	2.7%	1.5%	0.9%	0.9%	5.2%	5.9%
身体障がい(N=443)	4.3%	1.8%	1.1%	0.7%	0.2%	2.7%	6.3%
知的障がい(N=152)	7.9%	3.3%	0.7%	0.0%	1.3%	2.0%	5.9%
精神障がい(N=139)	5.0%	4.3%	1.4%	0.0%	2.2%	8.6%	5.8%
難病(N=66)	6.1%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	1.5%

1 部 当事者調査

8 保健・医療について

問 27 あなたの現在の通院の状況等を教えてください。(該当する番号1つに○をつけてください。)

現在の通院の状況等は、「月 1 回」が 35.2%と最も多く、次いで「月 2～3 回」が 14.3%、「3 か月に 1 回」が 12.7%となっています。

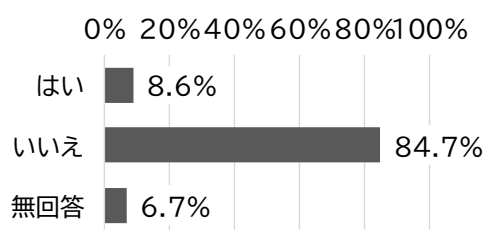


項目	件数	比率
週1回	24	3.6%
週2回以上	59	9.0%
月1回	232	35.2%
月2～3回	94	14.3%
3か月に1回	84	12.7%
年に数回	60	9.1%
入院中	10	1.5%
通院してない	65	9.9%
無回答	31	4.7%
合計	659	100.0%

項目	週1回	週2回以上	月1回	月2～3回	3か月に1回	年に数回	入院中	通院してない	無回答
全体(N=659)	3.6%	9.0%	35.2%	14.3%	12.7%	9.1%	1.5%	9.9%	4.7%
身体障がい(N=443)	3.8%	12.2%	32.3%	13.3%	13.8%	9.0%	1.6%	8.1%	5.9%
知的障がい(N=152)	3.9%	3.3%	28.3%	14.5%	15.8%	12.5%	0.7%	16.4%	4.6%
精神障がい(N=139)	3.6%	4.3%	54.0%	15.1%	6.5%	5.0%	4.3%	3.6%	3.6%
難病(N=66)	4.5%	19.7%	33.3%	19.7%	9.1%	4.5%	3.0%	0.0%	6.1%

問 28 あなたは通院の有無にかかわらず、訪問看護を利用していますか。

訪問看護の利用は、「はい」が 8.6%となっています。



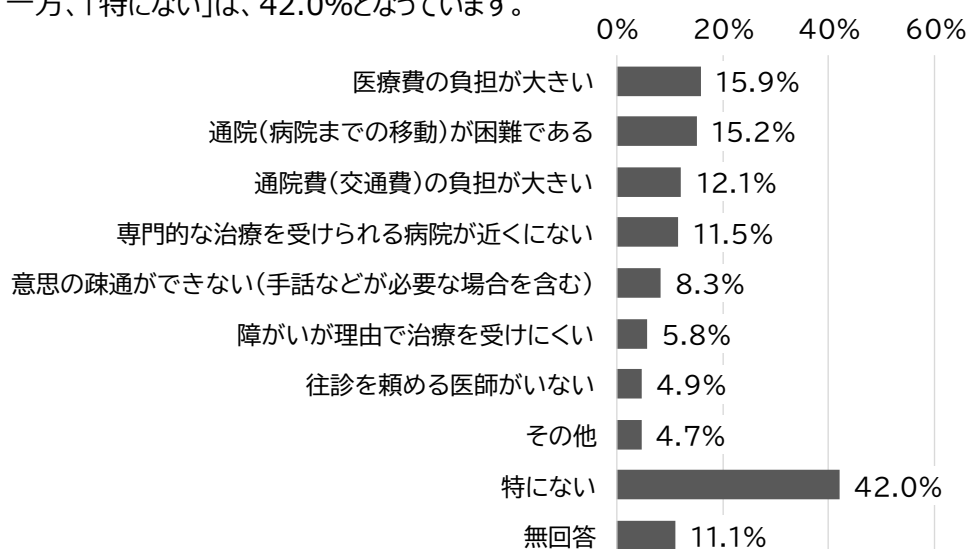
項目	件数	比率
はい	57	8.6%
いいえ	558	84.7%
無回答	44	6.7%
合計	659	100.0%

項目	はい	いいえ	無回答
全体(N=659)	8.6%	84.7%	6.7%
身体障がい(N=443)	9.3%	83.7%	7.0%
知的障がい(N=152)	4.6%	90.8%	4.6%
精神障がい(N=139)	11.5%	81.3%	7.2%
難病(N=66)	12.1%	81.8%	6.1%

1 部 当事者調査

問 29 医療を受けるうえで困っていることはありますか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

医療を受けるうえで困っていることは、「医療費の負担が大きい」が 15.9%と多く、次いで「通院（病院までの移動）が困難である」が 15.2%、「通院費（交通費）の負担が大きい」が 12.1%となっています。一方、「特にない」は、42.0%となっています。



項目	件数	比率
医療費の負担が大きい	105	15.9%
通院(病院までの移動)が困難である	100	15.2%
通院費(交通費)の負担が大きい	80	12.1%
専門的な治療を受けられる病院が近くにない	76	11.5%
意思の疎通ができない(手話などが必要な場合を含む)	55	8.3%
障がいが理由で治療を受けにくい	38	5.8%
往診を頼める医師がいない	32	4.9%
その他	31	4.7%
特にない	277	42.0%
無回答	73	11.1%
回答者数	659	

項目	担医 が療 大費 きの い負	で動ま通 あーで院 るがのへ 困移病 難院	担通通 が費院 大ー費 きののへ い負交	近れ療專 くるを門 に病受的 ない院けな いがら治	合がへが意 を必手で思 含要話きの むななな疎 ー場どい通
全体(N=659)	 15.9%	 15.2%	 12.1%	 11.5%	 8.3%
身体障がい(N=443)	 14.7%	 15.3%	 12.6%	 12.2%	 6.8%
知的障がい(N=152)	 11.8%	 15.8%	 13.2%	 17.1%	 25.0%
精神障がい(N=139)	 20.9%	 15.1%	 12.9%	 10.8%	 3.6%
難病(N=66)	 15.2%	 27.3%	 19.7%	 19.7%	 4.5%

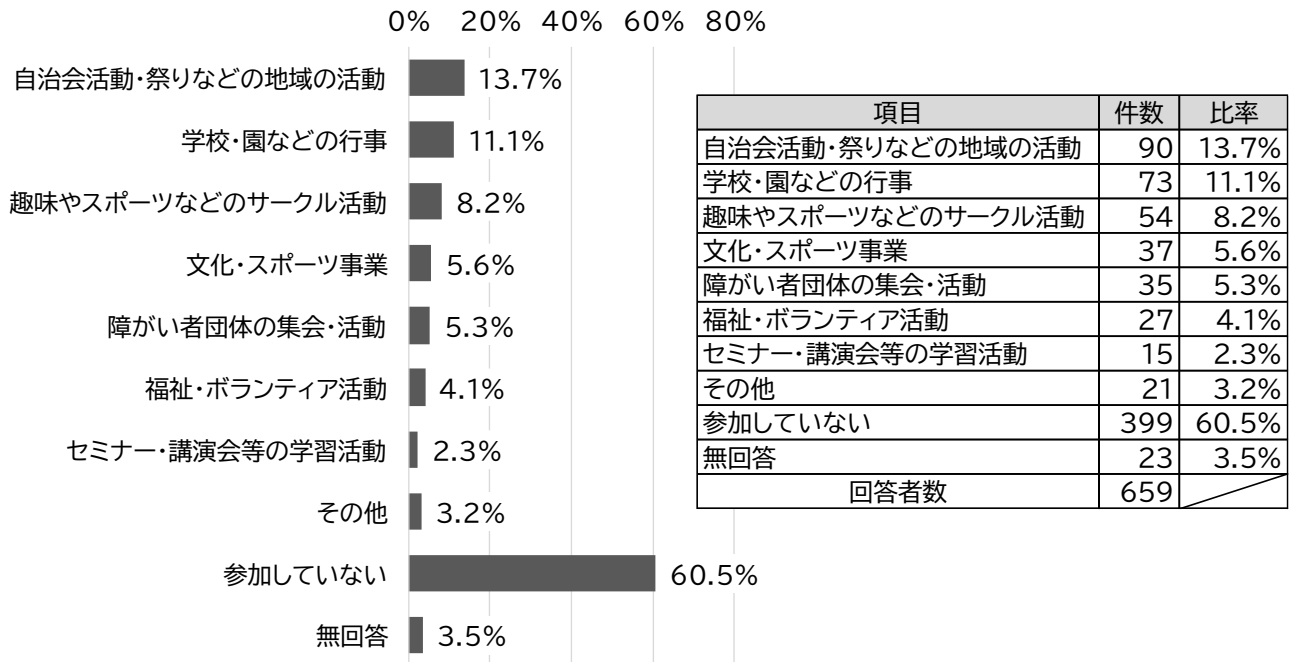
項目	受由障 けでが に治い く療が いを理	る往 医診 師を が頼 いめ ない	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体(N=659)	 5.8%	 4.9%	 4.7%	 42.0%	 11.1%
身体障がい(N=443)	 4.1%	 5.0%	 4.1%	 40.4%	 13.3%
知的障がい(N=152)	 15.1%	 3.9%	 4.6%	 38.2%	 5.3%
精神障がい(N=139)	 6.5%	 6.5%	 5.8%	 43.2%	 11.5%
難病(N=66)	 7.6%	 4.5%	 10.6%	 33.3%	 6.1%

9 社会参加・地域参加について

問 30 最近1年間、あなたは、地域の行事や活動に参加しましたか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

最近1年間、あなたは、地域の行事や活動への参加は、「自治会活動・祭りなどの地域の活動」が13.7%と多く、次いで「学校・園などの行事」が11.1%、「趣味やスポーツなどのサークル活動」が8.2%となっています。

一方、「参加していない」は、60.5%となっています。



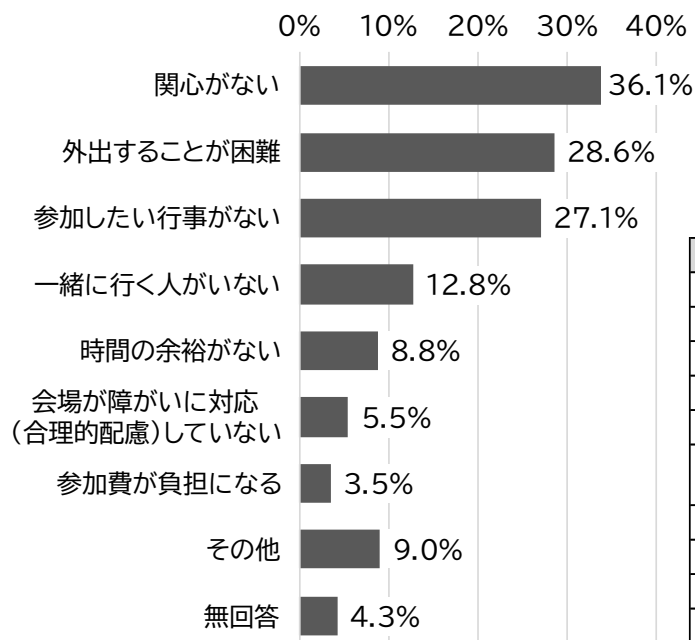
項目	自治会活動・祭りなどの地域の活動	学校・園などの行事	趣味やスポーツなどのサークル活動	文化・スポーツ事業	障がい者団体の集会・活動
全体(N=659)	13.7%	11.1%	8.2%	5.6%	5.3%
身体障がい(N=443)	13.5%	8.6%	7.7%	5.9%	4.1%
知的障がい(N=152)	15.1%	29.6%	8.6%	4.6%	12.5%
精神障がい(N=139)	14.4%	3.6%	7.9%	6.5%	3.6%
難病(N=66)	12.1%	13.6%	9.1%	6.1%	10.6%

項目	福祉・ボランティア活動	セミナー・講演会等の学習活動	その他	参加していない	無回答
全体(N=659)	4.1%	2.3%	3.2%	60.5%	3.5%
身体障がい(N=443)	4.7%	2.3%	2.7%	63.4%	3.4%
知的障がい(N=152)	2.0%	0.7%	0.7%	46.1%	2.6%
精神障がい(N=139)	2.2%	2.2%	5.0%	63.3%	5.8%
難病(N=66)	6.1%	1.5%	3.0%	57.6%	3.0%

【問 31 は問 30 で「参加していない」を選んだ方のみ】

問 31 参加していない理由は何ですか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

参加していない理由は、「関心がない」が 36.1%と最も多く、次いで「外出することが困難」が 28.6%、「参加したい行事がない」が 27.1%となっています。



項目	件数	比率
関心がない	144	36.1%
外出することが困難	114	28.6%
参加したい行事がない	108	27.1%
一緒に行く人がいない	51	12.8%
時間の余裕がない	35	8.8%
会場が障がいに対応(合理的配慮)していない	22	5.5%
参加費が負担になる	14	3.5%
その他	36	9.0%
無回答	17	4.3%
回答者数	399	

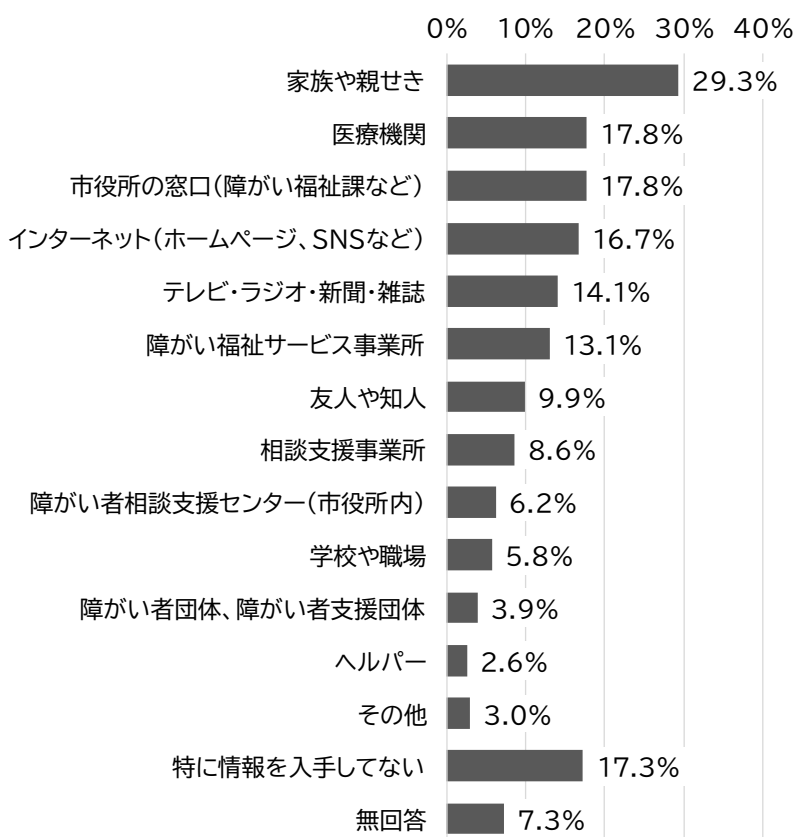
項目	関心がない	外出することが困難	参加したい行事がない	一緒に行く人がいない	時間の余裕がない	会場が障がいに対応(合理的配慮)していない	参加費が負担になる	その他	無回答
全体(N=399)	36.1%	28.6%	27.1%	12.8%	8.8%	5.5%	3.5%	9.0%	4.3%
身体障がい(N=281)	32.7%	33.8%	24.2%	11.4%	10.7%	4.6%	2.1%	9.3%	5.3%
知的障がい(N=70)	37.1%	15.7%	28.6%	14.3%	2.9%	12.9%	0.0%	5.7%	7.1%
精神障がい(N=88)	36.4%	20.5%	34.1%	19.3%	5.7%	4.5%	9.1%	9.1%	4.5%
難病(N=38)	36.8%	42.1%	15.8%	18.4%	15.8%	5.3%	0.0%	5.3%	5.3%

10 情報・コミュニケーションについて

問 32 あなたは、福祉サービスに関する情報を、どこから得ていますか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

福祉サービスに関する情報先は、「家族や親せき」が 29.3%と最も多く、次いで「医療機関」「市役所の窓口（障がい福祉課など）」がともに 17.8%となっています。

一方、「特に情報を入手してない」は、17.3%となっています。



項目	件数	比率
家族や親せき	193	29.3%
医療機関	117	17.8%
市役所の窓口(障がい福祉課など)	117	17.8%
インターネット(ホームページ、SNSなど)	110	16.7%
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	93	14.1%
障がい福祉サービス事業所	86	13.1%
友人や知人	65	9.9%
相談支援事業所	57	8.6%
障がい者相談支援センター(市役所内)	41	6.2%
学校や職場	38	5.8%
障がい者団体、障がい者支援団体	26	3.9%
ヘルパー	17	2.6%
その他	20	3.0%
特に情報を入手してない	114	17.3%
無回答	48	7.3%
回答者数	659	

1 部 当事者調査

項目	家族や親せき	医療機関	市役所の窓口（障がい福祉課など）	インターネット（ホームページなど）	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	障がい福祉サービス事業所	友人や知人	相談支援事業所
全体(N=659)	29.3%	17.8%	17.8%	16.7%	14.1%	13.1%	9.9%	8.6%
身体障がい(N=443)	25.3%	15.6%	17.2%	15.3%	15.1%	10.4%	11.1%	5.6%
知的障がい(N=152)	44.7%	9.9%	14.5%	11.8%	11.8%	29.6%	9.9%	24.3%
精神障がい(N=139)	24.5%	30.9%	19.4%	25.2%	13.7%	9.4%	8.6%	9.4%
難病(N=66)	18.2%	19.7%	19.7%	22.7%	16.7%	13.6%	10.6%	7.6%

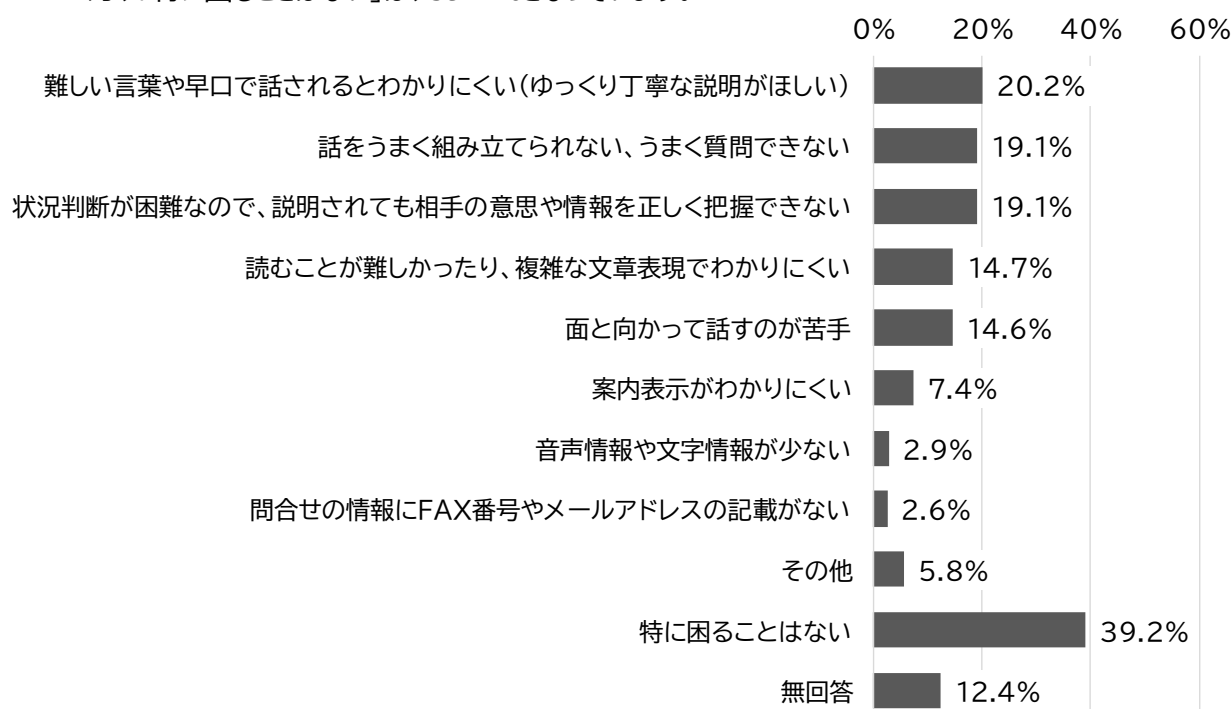
項目	内セ障がい者相談センター（市役所支援）	学校や職場	障がい者支援団体、障がい者グループ	ヘルパー	その他	て特ない情報を入手し	無回答
全体(N=659)	6.2%	5.8%	3.9%	2.6%	3.0%	17.3%	7.3%
身体障がい(N=443)	4.3%	3.4%	3.6%	2.7%	3.2%	19.0%	8.6%
知的障がい(N=152)	7.2%	17.1%	5.9%	2.6%	2.0%	11.8%	3.9%
精神障がい(N=139)	10.8%	3.6%	5.0%	3.6%	2.2%	12.2%	10.1%
難病(N=66)	9.1%	1.5%	6.1%	4.5%	4.5%	12.1%	9.1%

1 部 当事者調査

**問 33 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとるうえで困ることはありますか。
(該当する番号すべてに○をつけてください。)**

情報を入手したり、コミュニケーションをとるうえで困ることは、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい（ゆっくり丁寧な説明がほしい）」が 20.2%と多く、次いで「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」「状況判断が困難なので、説明されても相手の意思や情報を正しく把握できない」がともに 19.1%となっています。

一方、「特に困ることはない」は、39.2%となっています。



項目	件数	比率
難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい (ゆっくり丁寧な説明がほしい)	133	20.2%
話をうまく組み立てられない、うまく質問できない	126	19.1%
状況判断が困難なので、説明されても相手の意思や情報を 正しく把握できない	126	19.1%
読むことが難しかったり、複雑な文章表現でわかりにくい	97	14.7%
面と向かって話すのが苦手	96	14.6%
案内表示がわかりにくい	49	7.4%
音声情報や文字情報が少ない	19	2.9%
問合せの情報にFAX番号やメールアドレスの記載がない	17	2.6%
その他	38	5.8%
特に困ることはない	258	39.2%
無回答	82	12.4%
回答者数	659	

項目	なく話難 説明さし 明へれる 言葉や ほつくわ いりか早 〜丁寧で	問られ でなうま い、く う組み まみく立 質て	いを手で 正の、況 し意説判 く思明断 把握やさ 情れ困 報て難 できもな 相の	現た読 でりむ わ、こ か複た り難 にな難 く文し い章か 表っ	が面と 苦と向 手かっ て話す の	く案内 い表示 がわか りに
全体(N=659)	20.2%	19.1%	19.1%	14.7%	14.6%	7.4%
身体障がい(N=443)	15.1%	9.5%	11.7%	9.9%	9.3%	7.4%
知的障がい(N=152)	30.3%	34.9%	44.7%	32.2%	19.7%	12.5%
精神障がい(N=139)	29.5%	34.5%	25.2%	12.9%	33.1%	8.6%
難病(N=66)	19.7%	21.2%	15.2%	13.6%	16.7%	10.6%

項目	音声情報 が少なく や文字情 報	X番号 の合 の情 の報 にF A	その他	特に困 るこ とは ない	無回 答
全体(N=659)	2.9%	2.6%	5.8%	39.2%	12.4%
身体障がい(N=443)	3.4%	2.9%	6.1%	44.5%	15.1%
知的障がい(N=152)	4.6%	2.6%	4.6%	21.1%	11.2%
精神障がい(N=139)	1.4%	2.2%	5.0%	26.6%	10.1%
難病(N=66)	0.0%	3.0%	12.1%	34.8%	15.2%

※身体障がいのうち、主な障がい別のクロス集計

	なく話難 説明さし 明へれる 言葉や ほつくわ いりか早 〜丁寧で	問られ でなうま い、く う組み まみく立 質て	いを手で 正の、況 し意説判 く思明断 把握やさ 情れ困 報て難 できもな 相の	現た読 でりむ わ、こ か複た り難 にな難 く文し い章か 表っ	が面と 苦と向 手かっ て話す の	く案内 い表示 がわか りに
視覚障害(目が不自由)(N=17)	17.6%	11.8%	11.8%	11.8%	11.8%	23.5%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	48.8%	19.5%	17.1%	14.6%	9.8%	12.2%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	17.6%	29.4%	41.2%	29.4%	11.8%	5.9%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	13.3%	10.2%	14.8%	12.2%	10.7%	7.1%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	13.9%	6.3%	4.4%	8.2%	4.4%	7.0%

	音声情報 が少なく や文字情 報	X番号 の合 の情 の報 にF A	その他	特に困 るこ とは ない	無回 答
視覚障害(目が不自由)(N=17)	11.8%	11.8%	11.8%	41.2%	0.0%
聴覚・平衡機能障害(耳が不自由)(N=41)	14.6%	7.3%	2.4%	19.5%	12.2%
盲ろう(視覚障害と聴覚障害の重複)(N=2)	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
言語障害(言葉が不自由)(N=17)	0.0%	0.0%	11.8%	5.9%	11.8%
肢体不自由(上下肢、体幹等が不自由)(N=196)	3.6%	2.6%	6.6%	41.8%	18.9%
内部障害(心臓、じん臓、呼吸器など)(N=158)	0.0%	1.9%	5.1%	56.3%	12.7%

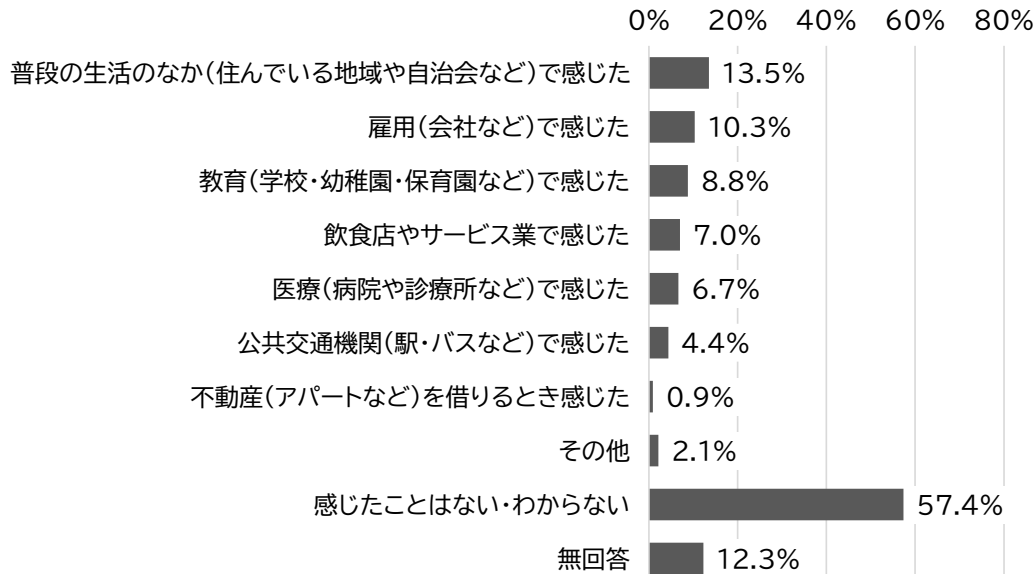
1 部 当事者調査

11 障がい者への理解について

問 34 日常生活や学校、職場で、障がい者への差別や嫌な思いを感じたことはありますか。
(該当する番号すべてに○をつけてください。)

日常生活や学校、職場で、障がい者への差別や嫌な思いを感じたことがある場面では、「普段の生活のなか（住んでいる地域や自治会など）で感じた」が 13.5%と多く、次いで「雇用（会社など）で感じた」が 10.3%、「教育（学校・幼稚園・保育園など）で感じた」が 8.8%となっています。

一方、「感じたことはない・わからない」は、57.4%となっています。



項目	件数	比率
普段の生活のなか(住んでいる地域や自治会など)で感じた	89	13.5%
雇用(会社など)で感じた	68	10.3%
教育(学校・幼稚園・保育園など)で感じた	58	8.8%
飲食店やサービス業で感じた	46	7.0%
医療(病院や診療所など)で感じた	44	6.7%
公共交通機関(駅・バスなど)で感じた	29	4.4%
不動産(アパートなど)を借りるとき感じた	6	0.9%
その他	14	2.1%
感じたことはない・わからない	378	57.4%
無回答	81	12.3%
回答者数	659	

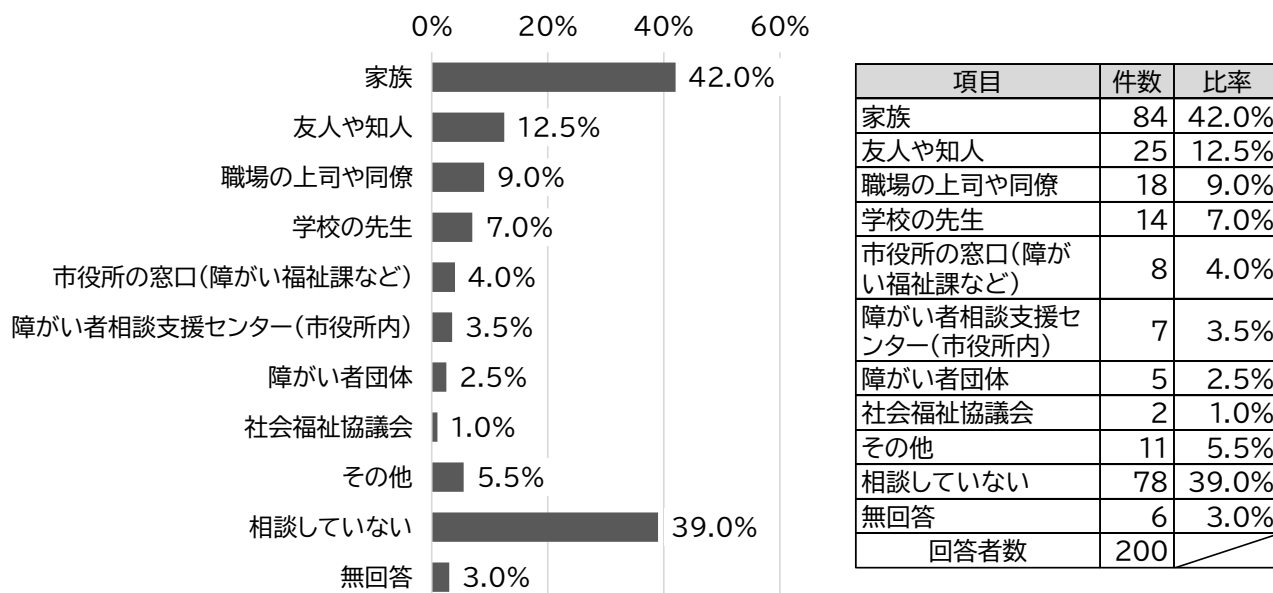
項目	た自へ普 治会 の生 活な 地な 域か じや	感雇 じ用 た(会 社な ど)で	感園教 じ・育 た(保 育学 園校 な・幼 稚)で	で飲 感食 じ店 やサ ービ ス業	な医 療(病 院や 診療 所)で 感 じ た	バ公 ス共 な交 通機 関(駅 ・バ スな ど)で 感 じ た	じど不 動産 を借 りる とき 感な	そ 他	わ感 かじ たこ とは ない ・	無 回 答
全体(N=659)	13.5%	10.3%	8.8%	7.0%	6.7%	4.4%	0.9%	2.1%	57.4%	12.3%
身体障がい(N=443)	10.4%	7.0%	4.7%	6.1%	5.4%	3.4%	0.7%	1.8%	62.3%	13.5%
知的障がい(N=152)	24.3%	11.8%	25.7%	17.8%	10.5%	11.2%	1.3%	1.3%	38.2%	9.9%
精神障がい(N=139)	16.5%	21.6%	7.2%	3.6%	7.9%	2.9%	0.7%	2.9%	51.1%	10.1%
難病(N=66)	12.1%	10.6%	3.0%	6.1%	10.6%	4.5%	0.0%	3.0%	56.1%	10.6%

【問 35 は問 34 で「感じたことはない・わからない」以外を選んだ方のみ】

問 35 差別や疎外感を感じたとき、あなたは、どこに相談しましたか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

差別や疎外感を感じたときの相談先は、「家族」が 42.0%と最も多く、次いで「友人や知人」が 12.5%、「職場の上司や同僚」が 9.0%となっています。

一方、「相談していない」は、39.0%となっています。



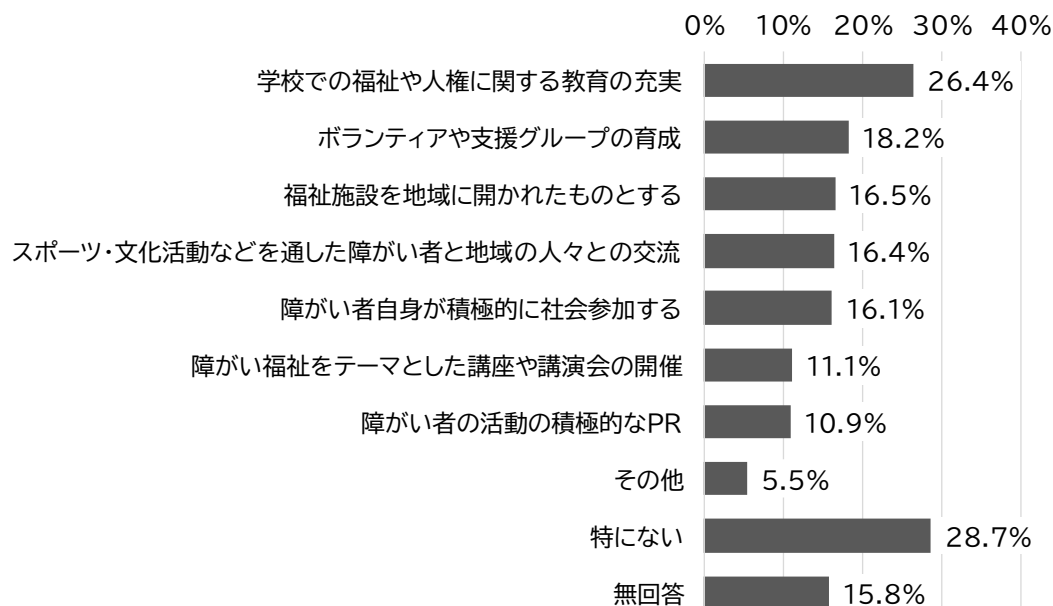
項目	家族	友人や知人	職場の上司や同僚	学校の先生	市役所(障がい福祉課など)	障がい者相談支援センター(市役所内)
全体(N=200)	42.0%	12.5%	9.0%	7.0%	4.0%	3.5%
身体障がい(N=107)	34.6%	15.0%	12.1%	2.8%	2.8%	2.8%
知的障がい(N=79)	43.0%	12.7%	7.6%	13.9%	3.8%	7.6%
精神障がい(N=54)	48.1%	7.4%	11.1%	1.9%	7.4%	3.7%
難病(N=22)	27.3%	0.0%	13.6%	0.0%	4.5%	4.5%

項目	障がい者団体	社会福祉協議会	その他	相談していない	無回答
全体(N=200)	2.5%	1.0%	5.5%	39.0%	3.0%
身体障がい(N=107)	0.9%	0.9%	2.8%	44.9%	3.7%
知的障がい(N=79)	2.5%	1.3%	5.1%	35.4%	3.8%
精神障がい(N=54)	3.7%	0.0%	11.1%	31.5%	1.9%
難病(N=22)	4.5%	0.0%	4.5%	36.4%	9.1%

1 部 当事者調査

問 36 障がい者への理解を深めるために力を入れるべきことは何だと思いますか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

障がい者への理解を深めるために力を入れるべきことについては、「学校での福祉や人権に関する教育の充実」が 26.4%と最も多く、次いで「ボランティアや支援グループの育成」が 18.2%、「福祉施設を地域に開かれたものとする」が 16.5%、となっています。一方、「特にない」は、28.7%となっています。



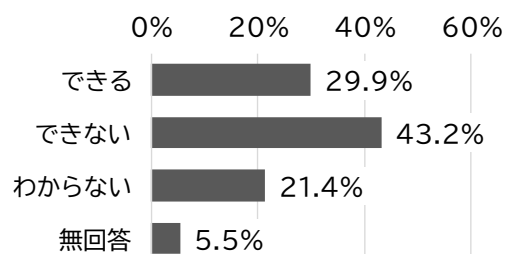
項目	件数	比率
学校での福祉や人権に関する教育の充実	174	26.4%
ボランティアや支援グループの育成	120	18.2%
福祉施設を地域に開かれたものとする	109	16.5%
スポーツ・文化活動などを通じた障がい者と地域の人々との交流	108	16.4%
障がい者自身が積極的に社会参加する	106	16.1%
障がい福祉をテーマとした講座や講演会の開催	73	11.1%
障がい者の活動の積極的なPR	72	10.9%
その他	36	5.5%
特になし	189	28.7%
無回答	104	15.8%
回答者数	659	

項目	障がい者の活動の積極的なPR	障がい福祉をテーマとした講座や講演会の開催	障がい者自身参加する社会的活動	スポーツ・文化活動などを通じた地域の人々との交流	福祉施設を地域に開かれたものとする	ボランティアや支援グループの育成	学校での福祉や人権に関する教育	特にない	その他	無回答
全体(N=659)	10.9%	11.1%	16.1%	16.4%	16.5%	18.2%	26.4%	28.7%	5.5%	15.8%
身体障がい(N=443)	9.9%	9.9%	15.8%	16.3%	15.1%	15.6%	23.7%	30.2%	5.4%	16.5%
知的障がい(N=152)	15.1%	14.5%	19.1%	22.4%	27.0%	31.6%	43.4%	15.1%	3.9%	11.8%
精神障がい(N=139)	8.6%	10.1%	15.8%	12.2%	11.5%	13.7%	20.1%	32.4%	7.9%	18.0%
難病(N=66)	12.1%	18.2%	19.7%	13.6%	28.8%	22.7%	27.3%	19.7%	6.1%	16.7%

12 災害時の対応について

問 37 あなたは、大きな災害があったときに一人で避難できますか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

大きな災害があったときに一人で避難できるかは、「できる」が 29.9%、「できない」が 43.2%、「わからない」が 21.4%となっています。



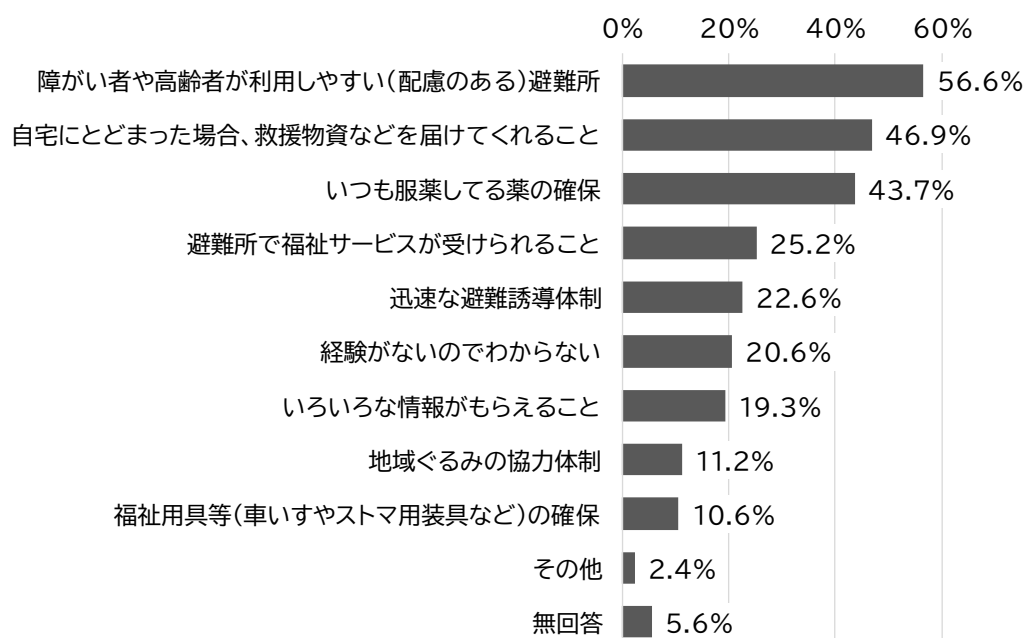
項目	件数	比率
できる	197	29.9%
できない	285	43.2%
わからない	141	21.4%
無回答	36	5.5%
合計	659	100.0%

項目	できる	できない	わからない	無回答
全体(N=659)	29.9%	43.2%	21.4%	5.5%
身体障がい(N=443)	31.2%	43.6%	19.4%	5.9%
知的障がい(N=152)	16.4%	67.1%	12.5%	3.9%
精神障がい(N=139)	37.4%	30.2%	27.3%	5.0%
難病(N=66)	24.2%	54.5%	19.7%	1.5%

1 部 当事者調査

問 38 あなたは、大きな災害があったときにどんな支援があつたらいいと思いますか。(該当する番号3つまで○をつけてください。)

大きな災害のときの求める支援については、「障がい者や高齢者が利用しやすい（配慮のある）避難所」が 56.6%と最も多く、次いで「自宅にとどまった場合、救援物資などを届けてくれること」が 46.9%、「いつも服薬してる薬の確保」が 43.7%となっています。



項目	件数	比率
障がい者や高齢者が利用しやすい(配慮のある)避難所	373	56.6%
自宅にとどまった場合、救援物資などを届けてくれること	309	46.9%
いつも服薬してる薬の確保	288	43.7%
避難所で福祉サービスが受けられること	166	25.2%
迅速な避難誘導体制	149	22.6%
経験がないのでわからない	136	20.6%
いろいろな情報がもらえること	127	19.3%
地域ぐるみの協力体制	74	11.2%
福祉用具等(車いすやストマ用装具など)の確保	70	10.6%
その他	16	2.4%
無回答	37	5.6%
回答者数	659	

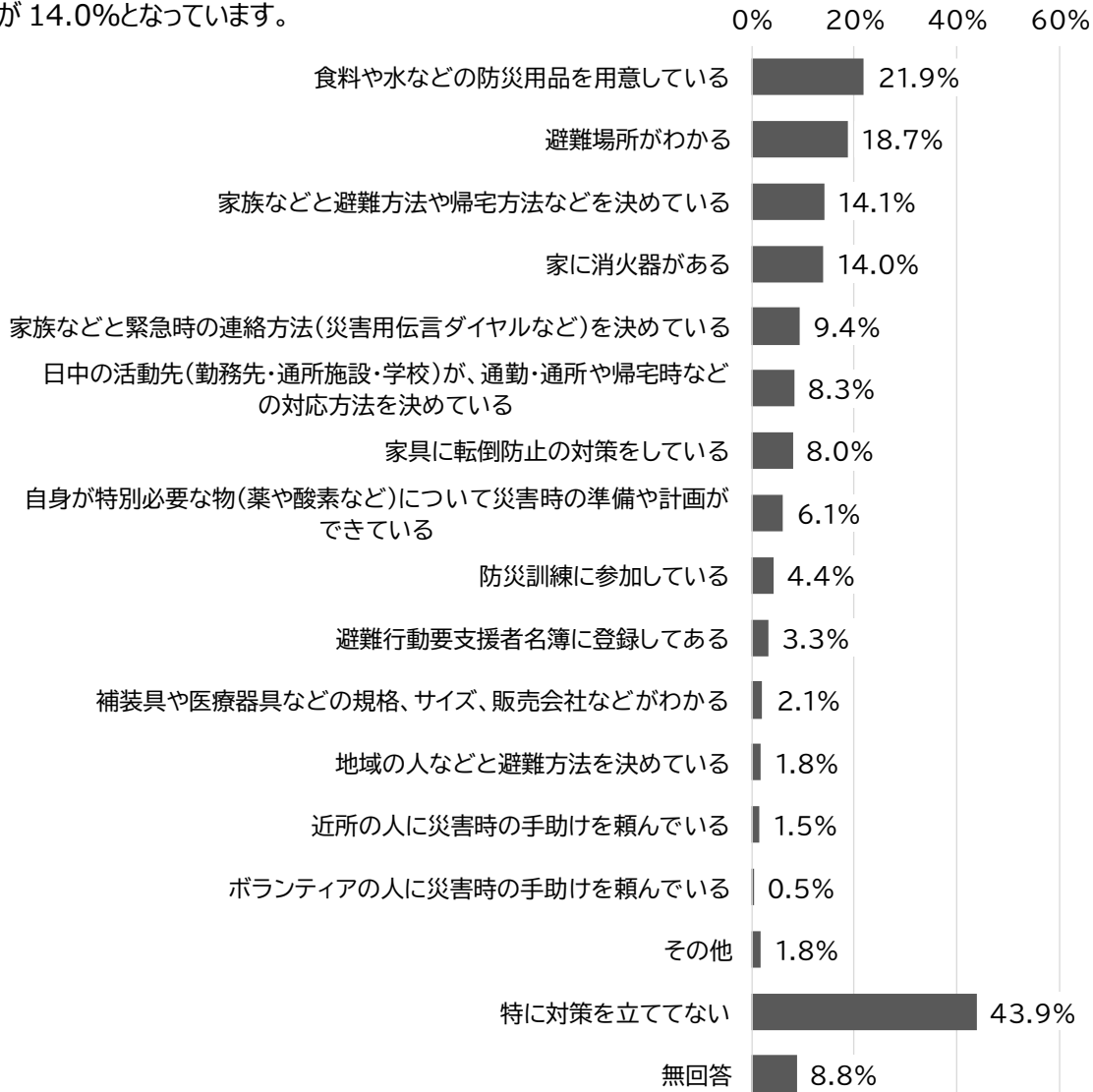
項目	障がい者や高齢者（配慮が）避難所	自宅にまとった場合、救援物資などを届けてくれること	いつも服薬してる薬の確保	避難所で福祉サービスを受けられること	迅速な避難誘導体制	経験がないのでわか
全体(N=659)	56.6%	46.9%	43.7%	25.2%	22.6%	20.6%
身体障がい(N=443)	57.3%	47.0%	43.6%	24.4%	21.7%	19.4%
知的障がい(N=152)	65.1%	52.0%	38.2%	34.9%	25.0%	23.0%
精神障がい(N=139)	45.3%	46.8%	50.4%	23.0%	27.3%	23.7%
難病(N=66)	56.1%	56.1%	48.5%	37.9%	22.7%	10.6%

項目	いろいろな情報をも	地域ぐるみの協力体制	福祉用具等（車いす、福祉用具等）の確保	その他	無回答
全体(N=659)	19.3%	11.2%	10.6%	2.4%	5.6%
身体障がい(N=443)	17.8%	12.6%	14.0%	2.7%	6.1%
知的障がい(N=152)	16.4%	11.8%	11.2%	2.0%	3.3%
精神障がい(N=139)	20.1%	6.5%	2.9%	2.9%	5.0%
難病(N=66)	19.7%	13.6%	15.2%	3.0%	4.5%

1 部 当事者調査

問 39 あなたは、災害時の対策を立てていますか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

災害時の対策は、「食料や水などの防災用品を用意している」が 21.9%と多く、次いで「避難場所がわかる」が 18.7%、「家族などと避難方法や帰宅方法などを決めている」が 14.1%、「家に消火器がある」が 14.0%となっています。



1 部 当事者調査

項目	件数	比率
食料や水などの防災用品を用意している	144	21.9%
避難場所がわかる	123	18.7%
家族などと避難方法や帰宅方法などを決めている	93	14.1%
家に消火器がある	92	14.0%
家族などと緊急時の連絡方法(災害用伝言ダイヤルなど)を決めている	62	9.4%
日中の活動先(勤務先・通所施設・学校)が、通勤・通所や帰宅時などの対応方法を決めている	55	8.3%
家具に転倒防止の対策をしている	53	8.0%
自身が特別な物(薬や酸素など)について災害時の準備や計画ができています	40	6.1%
防災訓練に参加している	29	4.4%
避難行動要支援者名簿に登録してある	22	3.3%
補装具や医療器具などの規格、サイズ、販売会社などがわかる	14	2.1%
地域の人などと避難方法を決めている	12	1.8%
近所の人に災害時の手助けを頼んでいる	10	1.5%
ボランティアの人に災害時の手助けを頼んでいる	3	0.5%
その他	12	1.8%
特に対策を立ててない	289	43.9%
無回答	58	8.8%
回答者数	659	

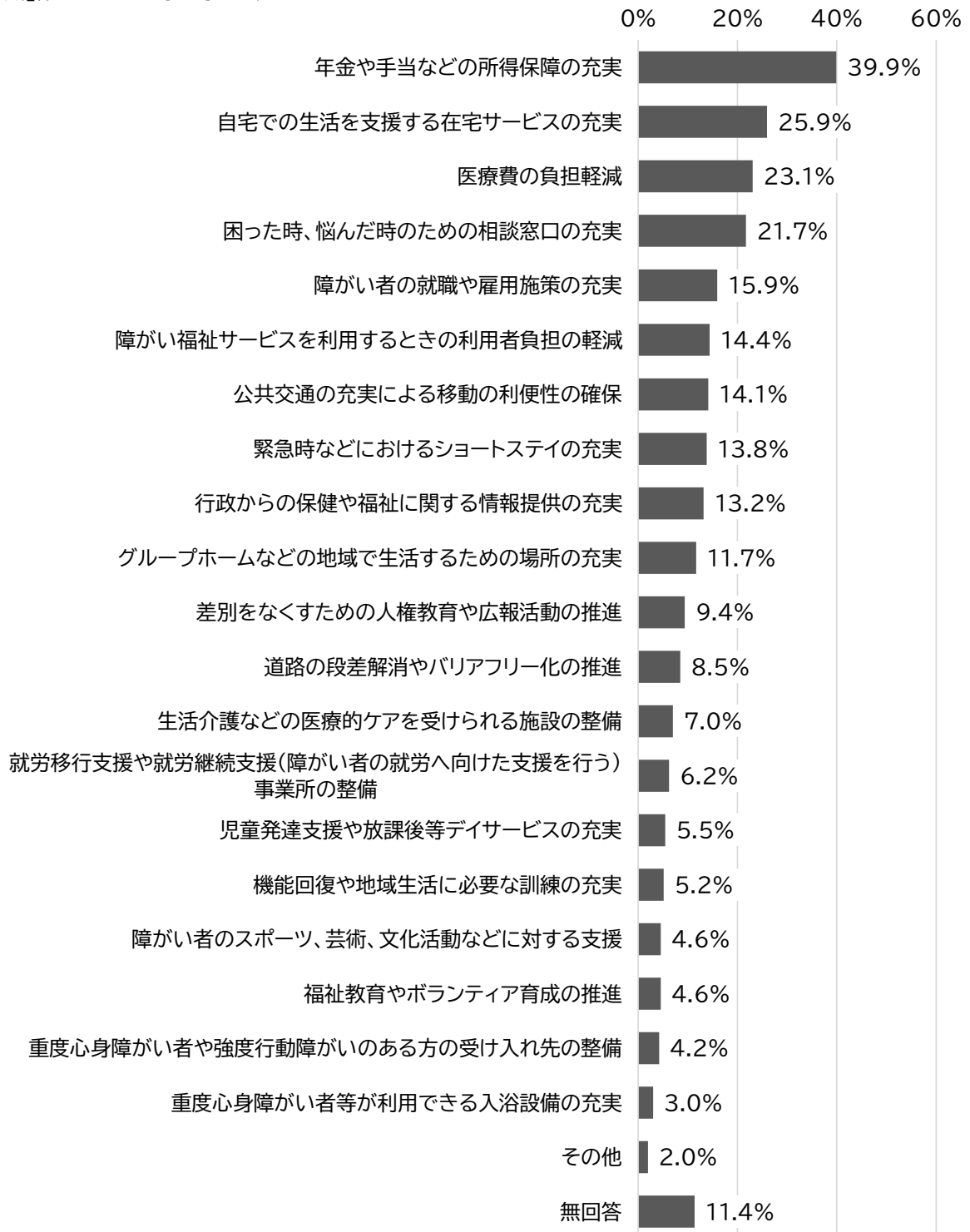
項目	食料や水などの防災用品を用意している	避難場所がわかる	家族などと避難方法や帰宅方法を決めている	家に消火器がある	家族などと緊急時の連絡方法(災害用伝言ダイヤルなど)を決めている	日中の活動先(勤務先・通所施設・学校)が、通勤・通所や帰宅時などの対応方法を決めている	家具に転倒防止の対策をしている	自身が特別な物(薬や酸素など)について災害時の準備や計画ができています	防災訓練に参加している
全体(N=659)	21.9%	18.7%	14.1%	14.0%	9.4%	8.3%	8.0%	6.1%	4.4%
身体障がい(N=443)	21.9%	18.3%	14.0%	16.5%	9.0%	7.9%	8.8%	6.8%	3.6%
知的障がい(N=152)	30.3%	17.8%	18.4%	15.1%	13.2%	19.1%	8.6%	5.9%	7.9%
精神障がい(N=139)	16.5%	20.1%	11.5%	13.7%	8.6%	7.2%	3.6%	5.8%	4.3%
難病(N=66)	22.7%	15.2%	18.2%	13.6%	9.1%	9.1%	1.5%	10.6%	0.0%

項目	避難行動要支援者名簿に登録してある	補装具や医療器具などの規格、サイズ、販売会社などがわかる	地域の人などと避難方法を決めている	近所の人に災害時の手助けを頼んでいる	ボランティアの人に災害時の手助けを頼んでいる	その他	特に対策を立ててない	無回答
全体(N=659)	3.3%	2.1%	1.8%	1.5%	0.5%	1.8%	43.9%	8.8%
身体障がい(N=443)	3.6%	2.5%	1.4%	2.0%	0.7%	1.8%	43.8%	9.5%
知的障がい(N=152)	6.6%	2.0%	2.6%	1.3%	1.3%	2.0%	33.6%	6.6%
精神障がい(N=139)	0.7%	1.4%	1.4%	2.2%	0.7%	3.6%	51.1%	9.4%
難病(N=66)	0.0%	6.1%	3.0%	1.5%	3.0%	1.5%	43.9%	9.1%

13 障がい者福祉施策への要望について

問 40 障がい者福祉施策に対して望むこと、取り組んでほしいことはありますか。(該当する番号3つまで○をつけてください。)

障がい者福祉施策に対して望むこと、取り組んでほしいことは、「年金や手当などの所得保障の充実」が 39.9%と最も多く、次いで「自宅での生活を支援する在宅サービスの充実」が 25.9%、「医療費の負担軽減」が 23.1%となっています。



1 部 当事者調査

項目	件数	比率
年金や手当などの所得保障の充実	263	39.9%
自宅での生活を支援する在宅サービスの充実	171	25.9%
医療費の負担軽減	152	23.1%
困った時、悩んだ時のための相談窓口の充実	143	21.7%
障がい者の就職や雇用施策の充実	105	15.9%
障がい福祉サービスを利用するときの利用者負担の軽減	95	14.4%
公共交通の充実による移動の利便性の確保	93	14.1%
緊急時などにおけるショートステイの充実	91	13.8%
行政からの保健や福祉に関する情報提供の充実	87	13.2%
グループホームなどの地域で生活するための場所の充実	77	11.7%
差別をなくすための人権教育や広報活動の推進	62	9.4%
道路の段差解消やバリアフリー化の推進	56	8.5%
生活介護などの医療的ケアを受けられる施設の整備	46	7.0%
就労移行支援や就労継続支援(障がい者の就労へ向けた支援を行う)事業所の整備	41	6.2%
児童発達支援や放課後等デイサービスの充実	36	5.5%
機能回復や地域生活に必要な訓練の充実	34	5.2%
障がい者のスポーツ、芸術、文化活動などに対する支援	30	4.6%
福祉教育やボランティア育成の推進	30	4.6%
重度心身障がい者や強度行動障がいのある方の受け入れ先の整備	28	4.2%
重度心身障がい者等が利用できる入浴設備の充実	20	3.0%
その他	13	2.0%
無回答	75	11.4%
回答者数	659	

項目	年金や手当などの所得保障の充実	自宅での生活を支援する在宅サービスの充実	医療費の負担軽減	困った時、悩んだ時のための相談窓口の充実	障がい者の就職や雇用施策の充実	障がい福祉サービスを利用するときの利用者負担の軽減	公共交通の利便性の確保による移動の充実	緊急時などにおけるショートステイの充実
全体(N=659)	39.9%	25.9%	23.1%	21.7%	15.9%	14.4%	14.1%	13.8%
身体障がい(N=443)	35.4%	27.8%	21.4%	19.6%	10.6%	13.5%	13.8%	13.5%
知的障がい(N=152)	37.5%	20.4%	13.8%	23.0%	23.0%	15.1%	11.2%	25.0%
精神障がい(N=139)	54.0%	23.0%	30.2%	29.5%	23.7%	20.1%	13.7%	7.9%
難病(N=66)	42.4%	33.3%	21.2%	30.3%	13.6%	16.7%	19.7%	18.2%

項目	行政からの保健や福祉に関する情報提供の充実	グループホームなどの地域で生活するための場所の充実	差別をなくすための人権教育や広報活動の推進	道路の段差解消やバリアフリー化の推進	生活介護などの医療的ケアを受けられる施設の整備	就労移行支援や就労継続支援(障がい者の就労へ向けた支援を行う)事業所の整備	児童発達支援や放課後等デイサービスの充実	機能回復や地域生活に必要な訓練の充実
全体(N=659)	13.2%	11.7%	9.4%	8.5%	7.0%	6.2%	5.5%	5.2%
身体障がい(N=443)	13.8%	7.4%	6.8%	10.6%	7.9%	5.4%	4.7%	5.9%
知的障がい(N=152)	11.2%	32.9%	13.8%	5.9%	10.5%	11.2%	13.2%	3.9%
精神障がい(N=139)	8.6%	8.6%	14.4%	3.6%	3.6%	6.5%	2.2%	5.8%
難病(N=66)	19.7%	10.6%	10.6%	7.6%	10.6%	6.1%	9.1%	4.5%

項目	障がい者のスポーツ、芸術、文化活動などに対する支援	福祉教育やボランティア育成の推進	重度心身障がい者や強度行動障がいのある方の受け入れ先の整備	重度心身障がい者等が利用できる入浴設備の充実	その他	無回答
全体(N=659)	4.6%	4.6%	4.2%	3.0%	2.0%	11.4%
身体障がい(N=443)	4.1%	4.5%	4.5%	4.1%	4.5%	14.0%
知的障がい(N=152)	7.2%	4.6%	12.5%	5.3%	1.3%	3.9%
精神障がい(N=139)	3.6%	2.2%	3.6%	2.2%	2.2%	7.9%
難病(N=66)	4.5%	4.5%	6.1%	6.1%	4.5%	6.1%

問 41 この調査を通じて、書ききれなかったことや、ご意見、ご感想などがありましたら、以下にご自由にお書きください。

※寄せられたご意見（全 169 件）の中から、テーマ別に主な内容を抜粋。

（ご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載。）

【1 相談支援・情報提供体制の充実・強化】

- どんな福祉サービスが何歳から使えるのかわかりにくい。一つ一つの手続きが時間かかりすぎる。（申請から認証がおりるまでの期間）そして何度も市役所に足を運ばなくてはならないのが大変（まず、移動に時間がかかる。）。本人の母ですが、訪問看護のために仕事を辞めました。都心では重心の子供がいても働きに出られるサービスがあると聞きました。群馬でもそういった事業をしてほしい。受け入れてもらえる施設がなく、家族の休息は小児医療センターのショートステイを利用していますが、希望する日程で必ず使えるわけではないので 2 つ違いの姉の保育園行事など、近くに頼れる親戚もいないので訪問看護などだけでは長時間の行事など参加が難しいことが多いです。（お姉ちゃんに我慢させることが多い）通学時の道路のでこぼこですぐ転ぶため、整備してほしい。母、父が通学の援助をすることはできなくはないが、仕事をしなくては生活がなりたたないため送迎は困難。外出時、洋式便座を増やしてほしい。【身体障がい・女性 18 歳未満】
- 聴覚障害者ですが、市役所などの公共施設の窓口も含めて、まだまだ聞こえることが前提で対応されています。情報を受けとれない弱者であると理解していただきあらゆる音をみえる化して情報のバリアフリーを目指した取り組みをお願いしたいです。【身体障がい・女性 18～65 歳】
- 行政からの情報をもっと広く多くの人に伝わればと思います。介護認定してもらってありますが、まだ未使用ですので、ヘルパーさんからの情報もありません。自宅で介護できている方も他に多くいるかもしれません。そういう人に向けた発信をお願いします。【身体障がい・女性 65 歳以上】
- どのような障害でもきちんと落ち着いた場所や病院で適当な検査や話ができる所が欲しい。そしてそこで適当な情報をゼロから説明してもらいたい。何が利用できてどこまで配慮してもらえるのか、私は精神障害ですが、何が使えるのか、どのような手当やサービスを利用できて、助けてもらえるのか頼っていいのか、友人から聞く情報がほとんどで、自分の病名は何なのか聞くこともためらいます。私のせいで子供が辛い思いしているのが辛いです。してあげたいことができなくて、薬を飲んでもコントロールができません。もっと強ければ私が、親でなければなど考えてしまいます。愚痴をすみません。総合案内が病院などにあるように、自分がどこに行くのが適当なのか教えてもらえるところがあつたらいいなと思います。大人でも迷子になります。【精神障がい・女性 18～65 歳】
- 自分が受けられる支援やサポートに関する情報を得る機会が少なく、それが困っている一因でもあるかと思います。助けを求めてもたらい回しだったり、どこが対応してくれるのか分からなくて助けを求めることをやめてしまいました。生活がきついです。高齢の両親に食、住は養ってもらっていますが、物価が上がり食べ物も質素になりました。ワンストップサービスみたいに相談する人を絞り、ここから各方面への対応をお願いするようになったらいいです。【精神障がい・女性 18～65 歳】

【2 障がいのある人の権利擁護の推進】

- 太田市は、障がい者支援を含む福祉サービスが、保守的で、充実していないと感じます。また、健常者（太田市在住）の障がい者に対する偏見と理解のなさを感じます。太田市民に対する障害者に対する勉強や、啓蒙活動が足りないのであれば、福祉サービスの提供も今後止まってしまうと感じていて、強い不安を感じています。【精神障がい・男性 18～65 歳】
- 障害者の人権について興味を持ってくれる人が増えていていただけたら幸いです。障害者でも一応人間なので、就労移行支援事業所の方々も伝える場合、注意するときには言い方、伝え方に気をつけていただけると嬉しいです。この世の中、最近障害のある方が増えつつある中で、このような理解をしていただけると嬉しいです。もちろん、完璧に就労移行の方が望むように感情を支配する事は難しいことを伝えてもいただきたいのですが、その前に就労移行支援の職員の方々に人として人権についてもう一度考えていただきたく、決して性格否定はもう止めていただきたく書かせていただきました。よろしく願いいたします。【身体障がい・精神障がい・難病・女性 18～65 歳】
- これからも障害者に関わらず、一人一人が働けて仕事ができる事を忘れずに、大事にしてほしいです。障害者だとしても色々と差別やいじめを無くし、明るい社会を目指して欲しいです。【身体障がい・知的障がい・男性 18～65 歳】

【3 地域生活を送るための支援の充実】

- 福祉医療の受給資格の所得制限に納得できない。所得は、自分の短くなった命を補完するために頑張っているものであり、障害の行政によるフォローとは全く別物であると考えます。また太田市は障害福祉観点上、公共交通機関がないがしろにされている。私の障害とは関係ないが、放課後デイ支援をお願いしたい。【身体障がい・男性 18～65 歳】
- 治療で通っている医療施設まで 3 キロしかないのに 20 分かかります。太田市内の道の狭さ、信号の長さ、左右のレーンの少なさなど。他の市町村に比して相当おとっていると思います。改善を期待します。【身体障がい・男性 18～65 歳】
- 障害者用駐車場に健常者と思える人が当たり前のように駐車している。元気そうな高齢者もいる。人工肛門など見た目ではわからない障害を持っているのかもしれないが、高級車で派手な服装を見ると納得いかない。障害者マークは誰でも買えて使えてしまう。行政が手帳所有者に障害者駐車使用許可証が発行し、その許可証がなければ駐車できない仕組みを作って欲しい。違反者に罰則とか、警備員に権限を与えるなど対応をお願いしたい。太田市からこのような対応実施し、全国の障害者に優しいモデルを発信してほしい。【身体障がい・男性 18～65 歳】
- 車椅子を使用しているものが外出するのはとても大変で行く場所を自由に選択することは困難です。外食するにも個人経営の店はほぼ無理(車椅子や専用のトイレがない入り口に段差ありなどの理由)です。大型ショッピングセンター等は車椅子の用意はありますが、実際行ってみると不十分な点が多くあります。駐車場から入り口が遠い、車椅子が置いてある入り口近くにエレベーターがない。車椅子で入れるトイレが少ない(または、ない)などもっと気軽に外出できるような設備が進むことを望みます。また個人経営店などにもそうしたことを促すような政策をしてほしいです。【身体障がい・女性 65 歳以上】

1 部 当事者調査

【4 就労・社会参加支援の充実】

- 病気や、障がいがあっても就職できる支援に力を入れて欲しいです。現在は、障がい者年金を受給していますが、体調が安定しているため就職活動をしています。「難病」、「障がい者」というだけで、健常者と同じ仕事をさせてもらえない、給料が安いなどの差別を受けてきました。能力が同じ場合は健常者と同等の待遇をして頂けるよう働きかけて欲しいです。【身体障がい・女性 18～65 歳】
- 障害者雇用の仕事探して難航する。仕事がない。とても賃金が安い。一般の仕事に就職した場合、体調の状態、体調を悪くしたときの家事や育児、そのほかへの不安がある。相談できない。【身体障がい・女性 18～65 歳】
- 障害者雇用で応募しても書類で落とされたりする事が結構あるが、（企業側が）本当に必要としているのだろうか？ 障害者雇用で就職できても企業側が、障がい者の事を理解していなかったりとかが、結構あり、障害者側も長くは続けられなくなると不安になる。いずれにせよ、理解・配慮が足りてない。【精神障がい・女性 18～65 歳】
- 私は発達障害なのですが、普通の人と考え方が違っている事が多く、また聴力には問題無いものの人の言葉が聞き取れない事が頻繁に起こるためコミュニケーションが上手くとれない事が多いです。職場では指示があっても聞き取れない、勘違いによるミスが多く、職場の方も困っていると思います。普通の方には障害を持っている人達がどのような事が苦手か、知識が無い方が大半だと思うので、企業のマニュアルに簡単にでも障害者に対して理解できるような説明をいれておけば、周りの方も困らずに済む事が多くなるのではと思います。【精神障がい・女性 18～65 歳】
- 太田市内の就労先が少ないです。生活介護や緩い B 型など殆ど無くて、市外に行かなくてははいけません。A 型 B 型の作業所も基準が分からないくらいの作業内容と厳しさで、見に行っても何故、B 型なのか生活介護なのか基準が分かりません。もっと通いやすい施設を増やして欲しいです。【身体障がい・知的障がい・女性 18 歳未満】
- 健常者の就職情報と同じように障害者の人達の就職情報のチラシなどを設置してほしい。（各行政センター等）【身体障がい・知的障がい・男性 18～65 歳】

【5 障がい児支援の提供体制の充実】

- 聴覚障害の中学生の場合、専門の学校がある前橋迄早退等して通わないとならない。年齢関係なく市内で受けいれてくれる場所を作ってほしい。言語、将来の情報等を発信してくれる場所。地域の学校に行きながら、市内で指導してくれる場所を作ってほしい。年齢の小さい子から高校生位までの子供に対する情報がもっとほしい。このアンケートは成人向だと思います。【身体障がい・男性 18 歳未満】
- 児童発達支援の数が少なく、言語聴覚士がいらないから、太田市にも増やしてほしい。隣県にはあるので行けるが、県外のため NG と断られたので太田市も言語聴覚士が 1 人でもいてくれると助かる。ろう学校まで遠いので太田市にもぜひけんとうしてほしい。【身体障がい・女性 18 歳未満】

- 現在、小学生ですが、進学的事、将来の事、勉強の事などどこに相談したらよいのかわからない。不安です。こちらは具体的な事が知りたいのに。【知的障がい・男性 18 歳未満】
- 言語療法が小学校入学になると受けられないのも残念。学校入学にあたって、太田市の福祉を利用している、情報の共有がされていない為に、全て一から親がその時、その時の説明をしなくてはいけなかったのも、受給者証をもっている子や、療育手帳をもっている子などは前もって教育委員の方と情報を共有してもらえたらと思います。又、支援級の情諸級、知的級などの違い、普通級との違いなど入学前に前もって説明会や情報提供をしてもらいたい。情報も、もらえず〇〇迄に普通級か、支援級か選んで下さい。”は少し無責任のような気がします。「子育てに力を入れてる市」とはわかるのですが、障害をもっている子に対する対応は少し残念です。【知的障がい・男性 18 歳未満】
- 太田特別支援高等学校に入学したいと考えていますが、昼食を給食にしてほしいです。放課後デイサービスはたくさんあって良いのですが、利用時間をもう少し利用日数はそのままでもいいので長時間にしてほしいです。(仕事があるため)手話サークルに興味があるため、子供と一緒に受けれるサークルがあれば参加したいです。【知的障がい・女性 18 歳未満】
- 正直太田市は発達障がいがある子供（親）への支援が行き届いていません。発達支援センター「にじいろ」も数回利用しましたが、こちらから連絡をしなければ、「最近どうですか」程度の連絡すらありません。もっと障がい児をもつ親に寄り添ってほしいです。よろしくお願いします。【精神障がい・女性 18 歳未満】
- 両親共働きが当たり前の時代ではあるが、障害のある子供が産まれた場合、多くの人(特に母親)が就労困難になっていると思う。子供は児発に通っているが保育園・幼稚園より登園時間は遅く、延長のシステムはない。保育と療育をうける場の違いという事は理解できるが、障害のある子が一般的な保育園などに入園できないケースも多い。一時預かりをできる施設を知ってはいるが、常に利用できるものではない。療育が必要な子の親は働いてはいけいないのか？働けても短時間パートしか無理なのか？あまりに選択肢が狭く今後を考えると不安である。児発に時間延長システムが出来たらとても助かる。(とはいえ我が子の場合、多々あるかかりつけ病院の通院、リハビリこれらと両立するためには短時間しか働けず、我が子の事なので当然頑張っているが、色々な面で厳しいと感じてしまう)【身体障がい・知的障がい・女性 18 歳未満】

【6 災害時の避難等緊急対応】

- 災害発生時などインフラが使用出来なくなった時、どの様に情報を得れば良いのか不安です。(どこに行けばストマー交換出来る?) 成分栄養剤エレンタールを入手できる?【身体障がい・男性 18~65 歳】
- 私は一人暮らしをしています。緊急の時手話通訳を呼びたいときに連絡方法に困る。【身体障がい・女性 18~65 歳】
- 避難場所に群馬国際アカデミーを追加してほしいです。【障がい不明・性別不明年齢不明】

1 部 当事者調査

2部 事業所調査

1 事業所の概要について

令和5年8月1日現在の貴事業所についてご記入ください。

運営主体

運営主体は、「株式会社・有限会社」が 61 件中 27 件と多く、次いで「社会福祉法人」が 26 件となっています。

項目	件数	比率
株式会社・有限会社	27	44.3%
社会福祉法人	26	42.6%
特定非営利活動法人(NPO法人)	4	6.6%
社団・財団法人	3	4.9%
市町村	1	1.6%
医療法人	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	61	100.0%

従業員数

「正規社員」の従業員数の「1～3人」が 61 件中 20 件と多く、次いで「4～5人」が 19 件、「6～10人」が 13 件となっています。

「非正規社員」の従業員数の「1～3人」が 61 件中 20 件と多く、次いで「6～10人」が 10 件、「4～5人」が 7 件となっています。

項目	正規社員		非正規社員	
	件数	比率	件数	比率
1～3人	20	32.8%	20	32.8%
4～5人	19	31.1%	7	11.5%
6～10人	13	21.3%	10	16.4%
11～15人	3	4.9%	6	9.8%
16～20人	2	3.3%	1	1.6%
20人以上	4	6.6%	1	1.6%
0人	0	0.0%	16	26.2%
合計	61	100.0%	61	100.0%

※施設名、設立年月は、省略。

2 事業所の運営状況について

問1 現在実施している、サービスの種類と利用者数を教えてください。

回答された事業所（61 件）のうち、現在実施しているサービスの種類は、「放課後等デイサービス」が 16 件と最も多く、次いで「就労継続支援 B 型」が 13 件、「生活介護」が 12 件となっています。

サービス利用者は「相談支援事業」が 966 人と最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が 290 人、「生活介護」が 286 人となっています。

実施中のサービス	実施事業所		利用者人数	【参考】 支給決定状況(※)
	件数	比率		
居宅介護	1	1.6%	23	264
重度訪問介護	1	1.6%	2	7
同行援護	2	3.3%	10	51
行動援護	2	3.3%	14	24
移動支援	2	3.3%	26	111
日中一時支援	4	6.6%	14	—
生活介護	12	19.7%	286	514
自立訓練(生活訓練)	0	0.0%	0	4
自立訓練(機能訓練)	0	0.0%	0	1
就労移行支援	0	0.0%	0	34
就労継続支援A型	8	13.1%	83	178
就労継続支援B型	13	21.3%	187	298
就労定着支援	0	0.0%	0	3
自立生活援助	0	0.0%	0	0
児童発達支援	6	9.8%	62	253
放課後等デイサービス	16	26.2%	290	495
保育所等訪問支援	3	4.9%	10	12
居宅訪問型児童発達支援	0	0.0%	0	0
短期入所(ショートステイ)	5	8.2%	33	285
共同生活援助(グループホーム)	8	13.1%	193	264
施設入所支援	2	3.3%	109	204
地域活動支援センター	4	6.6%	75	75
相談支援事業	7	11.5%	966	2,209
その他	0	0.0%	0	—

(※) 太田市福祉概要及び群馬県障害者相談支援事業実施状況調査より

(R5.3 末時点、単位：人)

問2 今後3年間(令和6年4月以降)に「新たに実施を予定しているサービス」を入力してください。

サービス名	提供開始時期	予定する定員
生活介護(共生型サービス)	2025年4月予定	20人
児童発達支援、放課後等デイサービス	2024年4月予定	13人
就労支援事業所	2025年4月予定	23人
放課後等デイサービス	2024年4月予定	13人
生活介護	2024年4月予定	10~23人
児童発達支援、放課後等デイサービス	2024年5月予定	13人
共同生活援助事業	2024年中	9人
生活介護事業	2024年中	13人

問3 令和4年度の事業の収支について伺います。(該当する番号1つに○をつけてください。)

事業の収支については、「黒字だった」が61件中18件、「赤字だった」が21件、「ほぼ収支が均衡した」が13件となっています。

項目	件数	比率
黒字だった	18	29.5%
赤字だった	21	34.4%
ほぼ収支が均衡した	13	21.3%
その他(不明・把握できず)	8	13.1%
無回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

問4 運営上の課題にはどのようなものがあると考えますか。(該当する番号3つまで○をつけてください。)

運営上の課題については、「報酬単価が低く経営が困難」が 61 件中 37 件と多く、次いで「従事者の人員確保が困難」が 35 件、「職員の研修、育成を行う時間が十分にとれない」が 22 件となっています。

項目	件数	比率
報酬単価が低く経営が困難	37	60.7%
従事者の人員確保が困難	35	57.4%
職員の研修、育成を行う時間が十分にとれない	22	36.1%
事務量が増大している	18	29.5%
労働条件などにより職員の退職がある	16	26.2%
施設整備などの資金繰りが困難	15	24.6%
職員の給与の据え置きが続いている	10	16.4%
工賃確保のための事業拡大・新規事業の立ち上げが困難	5	8.2%
利用者の退所や利用抑制がある	4	6.6%
サービス内容や安定、向上を図ることが困難	2	3.3%
市民、近隣住民の理解を得ることに苦労している	0	0.0%
特になし	4	6.6%
その他	5	8.2%
回答者数	61	

【その他の回答】

- 障害の重度化、高齢化、家族状況の変化等が理由のサービス変更
- 職員は毎年昇給制度があるが、報酬はあがらないので
- 現在、利用者様の生まれ月に偏りがある（業務量の偏り）
- 管理者のため不明
- 開所から間もないため、利用者があつまらない

問5 貴施設・貴事業所の職員について、退職者の退職理由は何でしたか。(該当する番号3つまで○をつけてください。)

退職者の退職理由については、「家庭の事情」が 61 件中 21 件と多く、次いで「他職種への転職」が 15 件、「給料の問題」「労働条件（残業代・休日出勤の増加・休みが取れない等）」「職場の人間関係」がともに 13 件となっています。

項目	件数	比率
家庭の事情	21	34.4%
他職種への転職	15	24.6%
給料の問題	13	21.3%
労働条件(残業代・休日出勤の増加・休みが取れない等)	13	21.3%
職場の人間関係	13	21.3%
身体的に体調を崩した	8	13.1%
精神的に体調を崩した	8	13.1%
定年退職	5	8.2%
その他	10	16.4%
無回答	6	9.8%
回答者数	61	

【その他の回答】

- 会社の方針と合わなかった（同 2 件）
- 結婚による引っ越し
- 相談支援事業所になってからは、退職なし
- 自己都合
- 定年制ではないが、年齢による理由での退職
- 年齢等により契約の延長を行わなかった
- 業務実行能力の不足
- 退職者なし
- 在職中、病気発覚し治療に専念するため退職

問6 今後サービス利用を希望する人数がどのように変化すると見込んでいますか。（該当する番号1つをお選び下さい。）

今後サービス利用を希望する人数の変化については、「増加すると見込んでいる」が 61 件中 29 件、「横ばいであると見込んでいる」が 22 件、「減少すると見込んでいる」が 6 件となっています。

項目	件数	比率
増加すると見込んでいる	29	47.5%
横ばいであると見込んでいる	22	36.1%
減少すると見込んでいる	6	9.8%
わからない	4	6.6%
合計	61	100.0%

問7 サービスを提供するうえで、問題となっていることは何ですか。(該当する番号5つまで○をつけてください。)

サービスを提供するうえで、問題となっていることは、「量的に、利用者の希望通りに提供できていない」が 61 件中 36 件と多く、次いで「困難事例への対応が難しい」が 25 件、「質的に、利用者の希望通りに提供できていない」が 18 件となっています。

項目	件数	比率
量的に、利用者の希望通りに提供できていない	36	59.0%
困難事例への対応が難しい	25	41.0%
質的に、利用者の希望通りに提供できていない	18	29.5%
変更やキャンセルが多い	12	19.7%
利用者や家族とのコミュニケーションが難しい	10	16.4%
休日や夜間の対応が難しい	9	14.8%
苦情やトラブルが多い	5	8.2%
契約やサービス内容についての説明が十分できていない	2	3.3%
特になし	7	11.5%
その他	12	19.7%
回答者数	61	

【その他の回答】

- 問い合わせがあるが対応できない
- 知的障害の方が不穏になった際の対処に苦慮
- 新規の方への説明が、うまくできていない
- 家族とのコミュニケーションが難しい
- 仕事の獲得
- 時間内に仕事が終わらない
- 相談員の質・対応力の問題（同 2 件）
- 医療度が高い利用者のリスク管理体制整備
- 家族へ正確な情報が伝わらない
- コロナ対応
- 利用者の高齢化、障害の重度化が加速

問8 利用者やその家族からの苦情や相談はどのようなものが多いですか。(該当する番号3つまで○をつけてください。)

利用者やその家族からの多い苦情や相談では、「サービス内容に関するもの」が 61 件中 21 件と多く、次いで「職員の態度に関するもの」が 15 件、「施設・設備に関するもの」が 7 件となっています。

項目	件数	比率
サービス内容に関するもの	21	34.4%
職員の態度に関するもの	15	24.6%
施設・設備に関するもの	7	11.5%
利用手続きに関するもの	5	8.2%
介助者・家族からの虐待など	1	1.6%
費用負担に関するもの	0	0.0%
その他	11	18.0%
特にない	23	37.7%
回答者数	61	

【その他の回答】

- 人員（職員）の配置
- 利用者様からの理不尽な要求等
- 送迎車のシートベルトの擦れによる傷対策
- 仕事内容の確認など
- 他害行為についてのご意見あり
- 利用者間のトラブル（同 3 件）
- 運営方針に関して
- 利用日数について
- 入院時の窓口対応

問9 サービスの質の向上のためにどのようなことに取り組んでいますか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

サービスの質の向上のために取り組んでいることは、「権利擁護や虐待防止に係る委員会等の開催やマニュアルの作成」が 61 件中 35 件と多く、次いで「他の事業者との情報交換の実施」が 28 件、「相談窓口の設置」が 26 件となっています。

項目	件数	比率
権利擁護や虐待防止に係る委員会等の開催やマニュアルの作成	35	57.4%
他の事業者との情報交換の実施	28	45.9%
相談窓口の設置	26	42.6%
サービス提供のマニュアルやガイドラインの作成	23	37.7%
利用者や家族に対しての満足度調査の実施	13	21.3%
積極的な外部評価の実施(第三者評価等)	4	6.6%
ボランティア団体の受け入れ	4	6.6%
その他	7	11.5%
特になし	5	8.2%
無回答	1	1.6%
回答者数	61	

【その他の回答】

- 利用者、家族に面談や電話等で連絡をとり話を聞く
- 保護者会役員会の隔月開催による情報共有
- 研修の学びを実践に生かすための行動、関係機関との意見交換
- 社内研修
- 支援の質の向上のため、ミーティングの充実を図っている
- 社内研修の実施、サービス方針の共有
- 支援会議の開催と研修の実施

問10 サービス利用時のセルフプランの運用についてご存知ですか。

サービス利用時のセルフプランの運用についての認知は、「知っている」が 61 件中 54 件となっています。

項目	件数	比率
知っている	54	88.5%
知らない	4	6.6%
無回答	3	4.9%
合計	61	100.0%

問11 介護保険サービスへの移行状況についてお伺いします。令和4年度中に、介護保険サービス利用へ完全移行した方、一部の利用を移行した方の人数を教えてください。

介護保険サービスへの移行状況については、「完全移行した方がいる」「一部利用へ移行した方がいる」がともに 61 件中 5 件となっています。一方、「移行した方はいない」は、50 件となっています。

また、「完全移行した方がいる」は、「1 人」が 5 件中 2 件、「2 人」が 1 件、「3 人」が 2 件となっています。

「一部利用へ移行した方がいる」は、「1 人」が 5 件中 2 件、「2 人」が 2 件、「3 人」が 1 件となっています。

項目	件数	比率
完全移行した方がいる	5	8.2%
一部利用へ移行した方がいる	5	8.2%
移行した方はいない	50	82.0%
回答者数	61	

■ 人数

項目	1人	2人	3人	回答者数
完全移行した方がいる	2	1	2	5
一部利用へ移行した方がいる	2	2	1	5

問12 太田市で不足していると思われる障害福祉サービスや支援がありましたらご記入ください。

* 寄せられたご意見を、事業所の実施サービス別に掲載。【 】内は実施サービス名。

(ご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載しています。)

【児童発達支援・放課後等デイサービス】

- スタッフ募集をおこなっているが全く見つからない（応募がこない）。人件費やその他諸々の物価高騰に関して何も対応が出来ていない。求人有料サイト等の時給設定など確認したことがありますか？上がりすぎていて対応不可能です。配置上、有資格者が必要となるが全く確保出来ない。入所の問い合わせがあるので、新規事業の開設を考えたが人員確保が出来ず断念した。何らかの処置は早期に考えて欲しいと強く希望する。
- 相談事業所（相談員）、行動援護、同行援護、不登校児（小中高生）のケア・支援。
- 重症心身障害児（者）支援事業所（医療的ケアを含む）。相談事業所。
- 相談支援事業所。
- 相談支援事業所、同行支援や日中一時。
- 相談支援事業所、放課後等デイサービス。
- 生活介護が少ないように思います。毎年のように、保護者の方から「行けるところがあるか不安」との声を耳にします。

【生活介護・日中一時支援】

- 行政とサービス提供事業所との関係が薄く、一体感に欠けており、数年前に比べて福祉施策の後退が見受けられる。より実効的な障がい者福祉計画等の作成には、事業所と密な連携が不可欠となるため、更なる協議及び協働作業が必要と思われる。アンケートに止まらず細かな聞き取りが必要。
- 支援の部分において、設立年数が古い事業所ほど、長年にわたり利用されている方が多いと思います。介護保険サービスに一部利用、併用することで介護給付費も減少し、かなり厳しい状況が続いています。その辺の対策をお願いしたいです。また、「3年に1度の見直し」が今年度末に示されます。その中で食事提供体制加算がなくなる可能性が大いということで、もしもの時には太田市としての支援をご検討いただきたいです。
- 人材にかかる支援があると助かります。
- 相談支援事業所、質の良い生活支援員、移動支援事業所、短期入所、行動援護事業所、送迎してくれる事業所。
- 障害のある方でも、安心して利用できる公共交通機関（バスなど）が、もっと充実したら良いと思う。日中一時支援事業（日帰り短期）の報酬単価が、近隣市町村に比べて非常に低く、最低賃金にも満たないため実施する事業所が少ない。
- 肢体不自由者の入浴サービス事業所の不足、支援者の不足、相談事業所、相談員の不足。

【相談支援事業】

- 移動支援、通院の支援等のサービスが慢性的に不足していると思います。居宅介護も、高齢者の訪問介護の傍にやっている事業所が多く、障害を理解して対応している事業所が少ないように思います。ただ移動支援、通院等の介助、居宅介護の生活支援等単価が低く質の向上を求めるのは大変難しいことかと思います。福祉のサービスは全体的に単価が低いと思います。
- 相談支援事業所、放課後等デイサービス。
- 短期入所（特に児童）。日中一時支援。生活介護。就労 B 型。就労 A 型。放課後等デイサービス。児童発達支援。居宅介護。相談支援事業所。

【就労継続支援 A 型・B 型】

- 事業所間のコミュニケーション。
- 障害者に対する仕事の提供、斡旋。
- 相談支援専門員。
- まずは相談支援専門員が足りていないこと。圧倒的課題であり、新規福祉サービス利用に遅れが出たケースも。不随して、最近では福祉サービス受給者証更新が申請しても、書類が届かないなどのトラブルが多くみられた。早期改善を求めたい。
- 相談支援事業所の不足と人員不足。

【短期入所（ショートステイ）・共同生活援助（グループホーム）】

- 利用者の休日の余暇支援を行うサービスを充実してほしい。災害や感染症対策に関する助成があると助かります。人材確保に苦慮しております。何かご協力頂けると有難いです。
- 制度の簡略化。職員対応の遅さ。
- 低価格で利用できる広範囲の移動手段の確保（バスが不便）。

【地域活動支援センター】

- 障がい等に関わらず、普通に生活していくための支援。住居、緊急時に医療や相談を受けられる住民誰もが安心する体制。疾病や障害の理解の前に色々な方がともに生活することが当たり前であるという理解の浸透のための施策。
- 相談支援事業所、居宅介護事業所。

【居宅介護・重度訪問介護・同行援護・行動援護・移動支援】

- ショートステイの場所がたくさんある中で、重度の方が利用できる場所が少ないと思います。設備や人材の問題もあるかと思いますが、何かしら受入れできるような対策があれば介護者の方は安心できるかと思います。

【日中一時支援・生活介護・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援】

- 医療的ケア児や重症心身障害児・者に対するケアの知識・技術（特に特別支援学校）。保育所等訪問支援の認知度。人工呼吸器や気管切開、経管栄養の方への医療ケア研修。看護師でも児童に対する医療ケア経験のある人はかなり希少。急性期病院での臨床研修受け入れや育成における研修会への参加の補助金などがあると良い。現報酬単価で、自社ですべてを賄うには負担が大きすぎる。

【行動援護・移動支援・日中一時支援・就労継続支援 A 型・児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・短期入所（ショートステイ）】

- 時間内に終わらず残業ばかりになる。しかし、サービスの質は落としたいと思っている。

3 災害時の対応について

問13 災害時、利用者(契約者)に対して、どのような支援が可能だと思われますか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

災害時、利用者（契約者）に対して、可能だと思われる支援は、「利用者の安否確認」が 61 件中 57 件と多く、次いで「利用者への継続支援」が 43 件となっています。

項目	件数	比率
利用者の安否確認	57	93.4%
利用者への継続支援	43	70.5%
避難所への職員等の派遣	14	23.0%
入所者(短期入所)の受け入れ	12	19.7%
その他	3	4.9%
わからない	5	8.2%
回答者数	61	

【その他の回答】

- ICT 活用の遠隔支援
- 災害状況による
- 避難の仕方・避難経路・避難時に必要な物

問14 災害時、利用者(契約者)以外の障がい者に対して、どのような支援が可能だと思われますか。(該当する番号すべてに○をつけてください。)

災害時、利用者（契約者）以外の障がい者に対して、可能だと思われる支援は、「日中の受け入れ」が 61 件中 26 件と多く、次いで「施設（場所）の提供」が 25 件となっています。

項目	件数	比率
日中の受け入れ	26	42.6%
施設(場所)の提供	25	41.0%
避難所への職員等の派遣	18	29.5%
夜間の受け入れ	11	18.0%
その他	4	6.6%
わからない	18	29.5%
回答者数	61	

【その他の回答】

- 災害状況による
- 医療体制
- 避難先情報の共有・避難誘導
- 職員数に関して余裕がない

問15 災害時の支援体制について、業務継続計画(BCP)は整備されていますか。(該当する番号ひとつに○をつけてください。)

災害時の支援体制で業務継続計画(BCP)の整備の有無は、「ある」が 61 件中 31 件となっています。(令和 5 年 9 月時点)

項目	件数	比率
ある	31	50.8%
ない	11	18.0%
作成中	19	31.1%
合計	61	100.0%

■作成中(今後の予定)

- 2023 年 10 月 児童発達支援・放課後等デイサービス
- 2023 年 11 月 児童発達支援・放課後等デイサービス
- 2023 年 12 月 居宅介護・重度訪問介護・同行援護・行動援護・移動支援
- 2023 年 12 月 就労継続支援 A 型
- 2023 年 12 月 就労継続支援 B 型
- 2023 年 12 月 相談支援事業
- 2023 年 12 月 放課後等デイサービス
- 2024 年 1 月 児童発達支援
- 2024 年 1 月 相談支援事業
- 2024 年 2 月 共同生活援助(グループホーム) (同 2 件)
- 2024 年 3 月 生活介護
- 2024 年 3 月 放課後等デイサービス
- 2024 年 4 月 放課後等デイサービス
- 2024 年 5 月 日中一時支援・生活介護
- 2024 年 6 月 日中一時支援・就労継続支援 B 型
- 2023 年中 生活介護
- 2023 年中 相談支援事業
- 2023 年中 地域活動支援センター

4 地域共生に向けた取り組みについて

問16 共生型サービスは実施していますか。また、今後実施したいと思いますか。(該当する番号1つをお選び下さい。)

共生型サービスは実施については、「実施している」が61件中6件、「現在実施していないが、今後実施したい」が14件、「今後も実施する予定はない」が41件となっています。

項目	件数	比率
実施している	6	9.8%
現在実施していないが、今後実施したい	14	23.0%
今後も実施する予定はない	41	67.2%
合計	61	100.0%

※共生型サービスとは、障がい福祉サービスを受けていた方が、65歳以上になっても介護保険サービスを円滑に受けることができるよう、ホームヘルプやデイサービス、ショートステイを障がい者と高齢者が共に利用できるようなサービスのことです。

問17 地域における住民、団体、ボランティア等との関わりについて、どのようなことを行っていますか。(該当する番号すべてにチェックをつけてください。)

地域における住民、団体、ボランティア等との関わりについて行っていることは、「住民、学生等のボランティアや実習生の受け入れ」が61件中20件と多く、次いで「地域行事への参加」が18件、「イベントの開催等による地域住民との交流」が11件となっています。

項目	件数	比率
住民、学生等のボランティアや実習生の受け入れ	20	32.8%
地域行事への参加	18	29.5%
イベントの開催等による地域住民との交流	11	18.0%
住民、ボランティアとの情報交換	9	14.8%
地域の会議への参加によるネットワークづくり	7	11.5%
住民やボランティアと合同での事業実施	4	6.6%
地域の子育て世代等に対する相談、子育て講座	4	6.6%
住民向けの勉強会、講演会等の実施	2	3.3%
その他	14	23.0%
無回答	8	13.1%
回答者数	61	

【その他の回答】

- コロナ前はイベント開催による地域住民との交流を行っていた。
- 地域以外の場所で支援が多いが、その場所に関わる方に挨拶する。
- パラスポーツのボッチャによる交流を計画中
- 今のところ特にボランティアさんに関わってはいません。
- 周辺のごみ拾い
- 民生員・区長との関わりを持つ
- 実施できていない
- 3年前のコロナ感染拡大により大幅に縮小

5 地域生活支援拠点事業について

問18 地域生活支援拠点事業について最も必要な機能はどれだと思いますか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

地域生活支援拠点事業について最も必要な機能は、「緊急対応」が 61 件中 21 件と多く、次いで「相談」が 13 件、「地域の体制づくり」が 12 件、「専門的人材の確保・養成」が 11 件となっています。

項目	件数	比率
緊急対応	21	34.4%
相談	13	21.3%
地域の体制づくり	12	19.7%
専門的人材の確保・養成	11	18.0%
体験の機会・場	1	1.6%
無回答	3	4.9%
合計	61	100.0%

問19 地域生活拠点事業について、力を入れるべき点、改善すべき点がございましたらご記入ください。

(ご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載しています。)

*【 】内は実施サービス名

- 何をするにも人材確保が難しいと思う。福祉人材の育成、教育、支援（金銭含め）がもっと充実しないことには力の入れようがない。私も現在資格取得に励んでいるが、そのようなことも資格取得時にはフォローが必要になるが人員の援助も資金の援助もなければ、福祉に携わる人など居なくなってしまう。人員が資格者がいないから減算です！って言われても居ないものはいない。この状況ではとても無理がありすぎる。【放課後等デイサービス】
- 地域生活拠点事業は本来、市町村の事業であり、太田市が主体となって取り組むべき事業である。どんなケースでも対応できるシステムを構築していただきたい。特に障がい者の「もしもの時」のための十分な受け皿の整備が必要。現に地域でこの機能を有しているのは 2 か所のみで対応人数も限られており、至急改善が必要。今後は重度障がい者のためのグループホームの取組が不可欠。【生活介護】
- 在宅にて過ごしている方の把握と、特にその中で近く緊急になりそうな方の詳しい情報を早めに頂けたらと思います。緊急になった時、支援が必要になった時に支援者がスムーズに対応でき、利用者さんも安心できるかと思います。【居宅介護・重度訪問介護・同行援護・行動援護・移動支援】
- 地域生活支援拠点事業の対象者は現在までに福祉サービスを受けていない方と説明を受けましたが、通所事業所内でも緊急時には対応の必要性がある方が複数存在します。各法人内で対応しなさいということだと思いますが、限界もありますのでサービスを利用している、していないにかかわらず事業の対象者として欲しいです。【生活介護】

- 実際、担当したケースがないので、あまりピンと来ていません。受給者証が出てないお客様は、地域生活支援拠点事業に該当すると言う事は認識していますが、具体的にどういうケースが地域生活支援拠点事業に該当するかと言うこともピンときていません。勉強不足の面もあるかと思いますが、説明をしていただけるとありがたいと思います。【相談支援事業】
- 地域生活支援拠点の体制が出来て機能している状況を当事者や家族だけでなく市民に広く知らせていくこと。地域生活を実現するための安心材料となる【地域活動支援センター】
- 緊急で受け入れる場合の、ご本人の情報をできるだけご用意いただくほか、コロナやインフルエンザの抗原検査を実施してから入居するなどして頂けると良いです。また、グループホームの場合、お金がないと食事や日用品の準備も必要になるのでそのあたりも考慮して頂けると助かります。【共同生活援助（グループホーム）】
- 緊急対応にならないような支援【地域活動支援センター】
- 各種制度の柔軟な適用【生活介護】
- 安心して受け入れ体制が整備できれば、事業者も地域の他の障害者を受け入れ出来る。行政のご協力をお願いします。【生活介護】
- 児童に関しての知識、経験が少なく相談にならなかった【放課後等デイサービス】
- 児童に関して知識、経験がない【放課後等デイサービス】
- 施設の種類やサービス内容などの細かい把握と一覧化。緊急性の高い利用者の把握と情報の収集。【共同生活援助（グループホーム）】
- 障がい者の避難所への職員配置は職員不足でかないません。障がい者支援の経験のある方（退職者）に災害時の支援員の登録などを行って備えるような方法を行ってはどうか。【日中一時支援・生活介護】
- 拠点事業に対して「対象者」という枠を設けていること。枠はなくすべき、すべての障害者が対象であると考えてのがよいと考える。【児童発達支援】

6 入所施設の状況について

【問20および問21は、入所施設を運営している事業所のみ】

問20 入所されている太田市の方のうち、地域生活への移行が見込める方の人数を教えてください。(現時点での予測でもかまいません。)

- 2人【生活介護・短期入所（ショートステイ）・施設入所支援】
- 1人【生活介護・短期入所（ショートステイ）・施設入所支援】

問21 地域生活への移行を進めていく中で、障壁や課題についてご意見がございましたらご記入ください。

(ご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載しています。)

*【 】内は実施サービス名。

- 障害者の方の中にはご自身の要望に関して細部まで具体的に他者に伝えられない方も多くいらっしゃるため、世間一般に馴染めない部分が多々あること。また、世間全般がそのような障壁を共に乗り越えて障害者の方が暮らしやすい社会を目指すことへの理解・意識がまだまだ低いこと。【短期入所（ショートステイ）・共同生活援助（グループホーム）】
- ご本人やご家族から移行の希望がない事。ご家族からは入所施設から地域へ移行することに対して「施設から出されてしまう」と不安や拒否感がある。また、グループホーム入居となった場合の費用負担への理解も必要。【生活介護・短期入所（ショートステイ）・施設入所支援】
- 地域の理解。サービス利用までの時差。移動手段の少なさ【共同生活援助（グループホーム）】
- 以前、障がい者グループホームの建設で地域住民の説明会に参加した経験があります。いざとなると「なんで家の近くにつくるの」などの偏見がまだまだあると事を実感しました。障がい者の理解が課題だと思います。グループホームの支援職員の不足（特に重度の方）。あいている土地は目に余るほどあるのに、規制が厳しい。太田市の後押しが必要。【日中一時支援・生活介護】

7 一般就労の状況について

【問22および問23は、就労支援施設を運営している事業所のみ】

問22 利用されている、太田市の方で、令和4年度中に一般就労へ移行となった方の人数を教えてください。

- 2人【就労継続支援A型・就労継続支援B型】（同2件）
- 1人【就労継続支援A型】（同2件）
- 2人【就労継続支援B型】
- 1人【日中一時支援・就労継続支援B型】

問23 一般就労への移行を進めていく中で、障壁や課題についてご意見がございましたらご記入ください。

（ご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載しています。）

*【 】内は実施サービス名。

- 精神障害、発達障害の方が多く、個々の障害の特性を理解し、具体的にどのような配慮を受けられるのか、障がい者雇用の求人では明確になっていると、利用者様は安心なようです。【就労継続支援B型】
- 企業情報の定期的な配布。【就労継続支援B型】
- A型事業所に慣れてしまい、一般就労でなくても良いと思ってしまう。【就労継続支援A型】
- 企業側の障害者への理解と利用者の中には障害者枠を利用せずに働こうとする方も見受けられる。【就労継続支援A型】
- 障がいを理解した方(企業)、理解を深めていく事が必要だと考えます。【就労継続支援A型・就労継続支援B型】
- 当事業所は精神障がいを持つ方が多く在籍していた。退所理由として、ステップアップでの退所ではなく、不調やサービスに納得しないなどの理由がほとんど。他障がい分野の利用者はステップアップ希望がほとんどない状況。当事業所としても、就労などを目指してほしいが希望・やる気を出してもらう術が現状、具体性はない。【就労継続支援B型】
- 勤務時間や人間関係およびコミュニケーションの能力。【就労継続支援B型】
- 以前、就労移行支援事業をしていた時は、就労支援員が中心に企業と連絡調整や対象者の就労支援を実施することができていたが、現在、就労継続支援B型事業のみの運営のため、就労支援専門員（就労支援員）は配置されておらず、職業指導員や生活支援員は事業所内の作業と支援で頻繁には現場を離れることが難しいため定着できるか不安がありました。【日中一時支援・就労継続支援B型】

8 相談支援事業の状況について

【問24および問25は、相談支援事業を運営している事業所のみ】

問24 相談員常勤換算1名あたりの計画担当人数を教えてください。

- 27人【相談支援事業】
- 17人【相談支援事業】
- 90人【相談支援事業】
- 70人【相談支援事業】
- 156人【相談支援事業】
- 139人【相談支援事業】
- 75人【相談支援事業】
- 85人【相談支援事業】
- 100人【相談支援事業】

問25 計画相談事業が抱える問題や課題についてご意見がございましたらご記入ください。

(ご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載しています。)

*【 】内は実施サービス名。

- 太田市全体としての問題としては、相談支援事業所の数が少ない。当面のやるべき事と、長期的に見て整備して行かなきゃいけないことを整理して、太田市としての方向性を示していただけたらありがたいです。事業所としては、計画を立てないと報酬が頂けないため、基本相談よりも計画を立てることを優先してしまいます。基本相談もきちんと受けるということをやっていくとするならば、委託事業所契約を導入してほしいです。【相談支援事業】
- 丁寧な対応を利用者様にしていくのにあたり、時間が足りない。【行動援護・移動支援・日中一時支援・就労継続支援A型・児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・短期入所（ショートステイ）】
- 事務量が多い。人材の確保。報酬単価が低い（運営は厳しい）。現任者研修の研修日程が多い為、業務圧迫となる。市町村により対応の違いがあり、連絡調整だけでも時間がかかる。介護保険への切り替えがうまく行かない。職員が疲弊してしまうことが多いので、フォロー体制が整っていない。相談支援専門員の役目がはっきりしていない（マニュアルがない）。【相談支援事業】
- 丁寧な対応を心掛けているが、受け持ち人数が多く、心配になることがある。新規の方やセルフプランの方への対応策とし、令和4年度中に令和5年度に向け、事業所内で相談員同士の受け持ち人数調整を行い、新規受け入れ等を検討したが、相談員の力量問題でそのプランを実施することが出来なかった。5年度新規の受け入れが全く出来ず、大変心苦しい状況です。相談員の適性（人格等）を判断し、相談業務に就かせて欲しい。【相談支援事業】

- 相談支援事業所の不足。報酬単価の低さ。人員の不足による労働環境の悪さ。【相談支援事業】
- 赤字が続く【放課後等デイサービス】
- 相談支援専門員の資格を持っても、その業務に就いていない方が多い。相談員一人に対して担当者数が多い。担当件数の上限が特に決められていない。相談支援専門員のこと（どんな職務）を知らない人が多い。そのため、利用したい事業所と契約を結べば利用できると思っている人もいる。介護保険に移行するときにスムーズにいかない。【相談支援事業】
- 相談支援専門員として求められる質は高い（入職して間もない職員は配置できない）にもかかわらず、報酬単価が低いため、収入に対し人件費が高くなってしまふ。また報酬単価が低いと件数を増やさないといけなくなり、手拔きのサービスにつながりかねない。【相談支援事業】
- 新規申し込みはあるが、受け入れの余裕がないので断っている。相談員を加配するには収入が追いつかない。【相談支援事業】

9 今後の障がい者福祉施策について

問26 太田市の障がい福祉施策等に関して、ご意見がございましたらご自由にご記入ください。

* 寄せられたご意見を、事業所の実施サービス別に掲載。【 】内は実施サービス名。
(ご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載しています。)

【児童発達支援・放課後等デイサービス】

- とにかくにも人材不足の解決なしには今後事業が成り立たなくなってしまう。工業の町で工業の賃金と比べられたらとてもじゃないが人の確保など不可能。ましては資格があるのに賃金が低いとなれば、なり手はいませんよね。福祉＝ボランティア精神という神話を早く終わらせなければこの業界に未来は無いと思う。ボランティアが成り立たないと立証されたから「持続可能な・・・」って今さら言っていますよね？
- 現在、相談員の人数が限られているので相談員増員の為に、知識や技術を身に付ける場や講習会を増やすべきだと思います。
- 障害があっても地域の地域で生まれ育ち、就学・就労でき、地域の方との壁や目を気にせず暮らせるようにしていただきたいです。
- 施設や相談事業所の不足で困っている保護者の方が多くいらっしゃいます。支援体制の強化を実施する体制の確保をすることを目標としていますが、是非とも達成して頂きたいと思います。
- 受給者証を更新する際に、保護者への聞き取りを行っているかと思いますが、それだけでは利用者様の状況を把握できないのでは？と思います。家庭での困り感と事業所での困り感にはズレが生じることもあるかと思いますが、実際、強度行動障害ではないかと思われる利用者様がいても、ほとんど加算がついたことはありません。太田市以外の市町村にお住まいの方は、年に一度事業所が回答するための質問項目が書かれた用紙を持ってきてくれます。太田市でも事業所の状況を把握できるような手立てを考えて頂けると助かります。
- 事業者にメリットをもたらす誘導的な施策が必要ではないか。例えば、相談事業所は人件費の確保が難しいと聞く、人件費の確保ができる相談数になるまでの期間、人件費の補助になるようなものがあれば、事業所も配置を考えるのではないかな。

【生活介護・日中一時支援】

- 障がい者の進路。障害児の教育から福祉への円滑な移行には利用者・学校・福祉事業者だけの問題ではなく、諸計画を司る太田市障がい福祉課がコーディネートすべき事案である。太田市障がい者自立支援協議会が設置され、各種会議は設けられているものの、すべてにおいて形骸化しており利用者のニーズに沿った議論がなされておらず十分な役割を果たしていない。太田市障がい者相談支援センターは、基幹の機能を果たしていない（専門性・迅速性）。相談支援センターは行政の一部ではなく独立した専門相談機関。市内の相談支援事業との協議が必要。設置場所も独立したところに移設が必要。
- 感染症、災害時の支援体制

- 福祉計画が作成されていても、実際はどうだったか、適正な計画だったのか、改善の必要があるのかを見ていくことは、次回の福祉計画にも活かされると思います。現実と計画が乖離しないようよろしくお願いします。地道に事業運営すればするほど、赤字になる相談支援事業には、もっと現実的な支援をお願いします。
- 災害時の対応について。建物の老朽化等により、福祉避難所として認可を受けるには厳しい状況があります。（築 50 年を超えるため倒壊の恐れ）太田市としてハード面の整備の確認と建替え等のバックアップに力を入れて欲しい。改善することで福祉避難所としての機能を有することができると思う。
- 障害福祉計画の作成に当たる現場の職員の方は、障がい者施設での研修を行って、体感していただきたい。そのことで、見えてくるもの、聞こえてくる意見がある。ぜひ、障害福祉に携わる市職員の方には、障がい者福祉施設（入所、就労、生活介護、グループホームなど）の研修をお願いしたい。
- 親亡き後の生活の課題は永遠のテーマでしょう。その親も含め如何に太田市のかかげるテーマとして、もっと PR して地域住民も含め理解に向かってすすむ計画を立ててもらいたい。

【相談支援事業】

- バス、タクシー、移動支援、電車などが少なく、移動手段がとても少ない。車もなく、自転車にも乗れない方は通院や買い物などに行くことも大変。
- 太田市として、福祉のあり方や方向性を示してほしいです。各事業所が連携を取りながら、各分野においての仕組み作り、研修、マニュアル作りなどが必要だと思われます。

【就労継続支援 A 型・B 型】

- 職員育成の為に、今後も積極的に研修に参加させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
- 8/10 に実施くださった合同説明会等の交流会をして頂けると幸いです。

【短期入所（ショートステイ）・共同生活援助（グループホーム）】

- 今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。
- 軽度の知的障害を持つ方々も、安心してグループホームを利用していただけるよう柔軟な対応をお願いできればと思います。重度の障害を持つ方々に対しても居宅サービスを組み合わせるなど、利用者の良質な地域生活の継続に配慮頂けますようお願い致します。
- いつもお世話になっております。普段から問い合わせに丁寧にご対応いただき感謝しています。

【地域活動支援センター】

- 福祉人材の確保。支援の質的向上（研修等の充実）。障害者差別解消への具体的な取り組み。相談支援事業所の収入面での運営安定化（相談支援専門員の増加）。相談支援センターの役割強化。
- 法律の下での福祉施設や相談施設は複数あり支援が出来ていると思います。今後はいかに必要な支援が必要な時に受けやすい状況の中で当たり前に地域で生活し、仕事をしていける生活を確保できるかに焦点をあてていけると良いと思います。

【居宅介護・重度訪問介護・同行援護・行動援護・移動支援】

- 移動支援を日中活動の場所から利用できるようにしてほしい。散歩や買い物の希望があっても、一度自宅に戻ってからの開始になるので不便だという方もいます。計画の変更があったり、相談支援員さん、利用者さんの手続きが遅い場合もあるかと思いますが、受給者証の発行をもう少し早めをお願いします。

【日中一時支援・生活介護・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援】

- 障がい政策課がさまざまな方面において、前向きな取り組みには感謝しております。当社で提供するサービスは、まだまだ発展途上でもありますが、お力になれることがあれば協働して、太田市の障がい福祉の発展に貢献したい気持ちで、日々の支援に当たっています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

3部 関係団体調査

(ご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載しています。)

* 【】内は障がい種別

今後の障がい者施策に求めるものについて

◆生活環境・住環境について

- ・リハビリセンターの利用【身体障がい者】
- ・歩行困難者等歩道の整備（道路脇除草）【身体障がい者】
- ・点字ブロックの必要性などをもっと周知させてほしい。【聴覚障がい者】
- ・商業施設・学校・病院等にも障がい者用のトイレ、駐車場を必ず設けてほしい。【オストメイト（人工肛門・人工膀胱）造設者】
- ・利用したい福祉用具をレンタルできたらありがたいです。【重症心身障がい児】
- ・バスの利用が土・日も使えると助かる。【知的障がい者】
- ・手帳を使える場所（減免などで）がもっと増えるとありがたい。【知的障がい者】
- ・公共交通機関は中重度の知的障がい児、者にとっては一人で乗車するのは困難で移動支援などに使う民間の介助者も含め充実した支援を求める。【知的障がい者】
- ・グループホームに関しては人手不足の折か、支援内容の理解が乏しいのか世話人、支援者等が多く定着する方が少ない、よって利用者さんを理解していない面があり虐待等に繋がらないか心配がある。【知的障がい者】
- ・市営無料バスやおうかがいバス等ですが、利用方法がよくわからなかったり、面倒だと思ってしまったりしますので広く周知していただければと思います。【精神障がい者】
- ・親亡き後が心配な方が多いです。グループホーム等への移行がスムーズに行くように支援をお願いいたします。また在宅の方への支援もお願いいたします。【精神障がい者】

◆障害福祉サービスについて

- ・リハビリセンターの利用【身体障がい者】
- ・介護者要員の確保【身体障がい者】
- ・手話と聴覚障害について知識のある相談支援専門員がゼロ。【聴覚障がい者】
- ・ケアマネジャー、施設職員なども知識のある人を増やしてほしい。【聴覚障がい者】
- ・ショートステイを近くで、安心、安全に利用できる施設があるとありがたいです。【重症心身障がい児】
- ・ヘルパー事業所がもっと多くあると助かる。【知的障がい者】
- ・強度行動障がい者の受け入れ先がどうなのか、また施設の設備、環境（実践できる支援者がいるかどうか）不足しているかどうか太田市で調査して不足を補ってほしい。【知的障がい者】

- ・通所施設内（障がい者）での入浴ができる施設とサービスが欲しい。【知的障がい者】
- ・精神障がい者に対する訪問介護の実施をぜひお願いしたい。話し相手、カウンセリング、買い物等もお願いいたします。【精神障がい者】

◆医療・保健について

- ・ハンデ者の健康診断（移動車による健診）【身体障がい者】
- ・保健センターに聴覚障害児のことを相談しても難しいと思う。専門機関につなげることや基本的な知識を学んでほしい。【聴覚障がい者】
- ・18歳になると小児科ではなくなり、地域の「かかりつけ医」を勧められますが、親としては悩めます。スムーズに進められる体制があるとありがたいです。【重症心身障がい児】
- ・福祉医療はB1だけでなく、B2の人も使えるようにして頂けるとありがたい。（医療費）【知的障がい者】
- ・何処の医療機関を頼っていいのか分からず会員の中でロコミの状態です。専門医療機関が明確、及び専門相談医療機関があると良い。【知的障がい者】
- ・精神障がい者に対する訪問診療をぜひお願いしたい。ACT（包括型地域生活支援プログラム）が日本国内でもできつつあります。【精神障がい者】
- ・予防、早期発見については太田市職員、教員に対しての研修の実施。児童生徒への講話を行う。（高校の保健体育教科書の記載に対する補足。）市民に対してのパンフレット等の配布。などです。【精神障がい者】

◆相談・情報提供について

- ・地域と民生委員との連携【身体障がい者】
- ・団体会員とは相談する機会があるが、プライバシーの問題がある。ろう者相談員や手話ができる相談員など体制がほしい。【聴覚障がい者】
- ・個別支援計画を作成する相談支援員の充実、相談支援センターにて作成できると良い【重症心身障がい児】
- ・相談員の数をもっと増やしてほしい。【知的障がい者】
- ・市のセンターや相談支援事業所などの担当者が変わることが多く、不安になる。【知的障がい者】
- ・障がい者相談支援センター自体の存在が浮かんで来るか疑問【知的障がい者】
- ・相談支援センターに行ってもどうなるのか情報提供して欲しい。パンフレット等があれば当会でも配布できます。【精神障がい者】

◆教育・保育について

- ・通級は小1から中3までが対象、太田市による就学前教育の充実を図っていただきたい。
【通級知的障がい児】
- ・教育現場での身障者の理解の啓蒙【身体障がい者】
- ・一般校に通う聴覚障害の子どものため、自分の子どもを通わせる聴覚障害者のため手話がもっと普及してほしい。【聴覚障がい者】
- ・学校教育に関しては高校の保健体育での補足。小学校・中学校においても発達に応じた啓発をお願いしたい。【精神障がい者】
- ・就学時検診において障害が発見される可能性があります。そういう場合に備えて保護者の心がまえを事前に知らせておいた方が良いと思います。【精神障がい者】

◆雇用・就労について

- ・身障者と雇用者等でお互いに理解を深めて仕事の範囲を広げる事が身障者の雇用につながると思います。【身体障がい者】
- ・パワハラによる悩みの相談対応。【聴覚障がい者】
- ・療育手帳を持っている方が、特例子会社や福祉工場、一般就労者がどの位いるのか、既婚、未婚、暮らし方を（自宅、ホーム、家族構成など）を知りたい、また今後の暮らし方のプランはどうなのか。【知的障がい者】
- ・精神障がい者の場合なかなか就労に繋がりません。理解者を何とか増やしてほしい。【精神障がい者】

◆生涯学習、文化・スポーツ活動について

- ・会員高齢化のため不参加。会員の負担にならない行事を希望。【身体障がい者】
- ・身障者自身がハンデを乗り越えて活動する気持ちが必要だと思います。【身体障がい者】
- ・余暇活動に通訳派遣【聴覚障がい者】
- ・コロナ感染から知的障がい児、者が参加できるイベント等が少なくなった。感染した場合隔離しなければならないことが大変だと思うが、何かイベントがあると良い。【知的障がい者】
- ・太田市に居拠点を置くクレインサンダーズのバスケットの試合を見に行きたいが、障がい者年金受給者ではチケットが高く、介助者の親子ペアでは更に足が遠のく。何か援助をお願いしたい。【知的障がい者】
- ・その他の活動は、親の高齢化、施設の支援者の確保など様々な壁があり体験させにくい。
【知的障がい者】
- ・精神障がい者が集まれるような場所を作っていただきたい。（こぶしの会があります。他にも作ってほしい。）【精神障がい者】

◆安全・安心について

- ・移動にムリがある。【身体障がい者】
- ・近隣の健常者が理解をして頂ければと考えます。【身体障がい者】
- ・災害が起きた時の避難場所にコミュニケーション支援（手話通訳）があるか心配。【聴覚障がい者】
- ・今後個別避難計画に大いに期待する。福祉課から支援計画に関し本人、支援者の確認を取って情報提供できれば社会支援課の個別避難計画が進むと思うが、連携をしてほしい。【知的障がい者】
- ・すぐ逃げられそうにない障がい者に対する配慮。近所付き合いのすすめ。【精神障がい者】

◆障がいや障がい者への理解と交流について

- ・障がい者自身がハンデを克服する事と気持ちを前向にもって前向きになる事、必要と考えます。【身体障がい者】
- ・子どもの交流【聴覚障がい者】
- ・交流は必要と思いますが、コロナなど油断はできないので十分な感染対策をとりながらできると良いと思います。【重症心身障がい児】
- ・太田養護学校が県立になり地域との交流の場がなくなった。
- ・職員の協力を得て保護者が主体で行われていた「わくわく祭り」も終了
地域の方と生徒等障がい児を理解し交流する場であったが無くなってしまった。
障がい者を主体にしたイベントを太田市で企画してほしい。【知的障がい者】
- ・教職員、太田市職員の特別支援学校運動会の見学をお勧めしたいです。（新採用研修に含める等。）【精神障がい者】

◆差別の解消・権利擁護について

- ・公共施設のバリアフリー化を進める。【身体障がい者】
- ・障がい者本人がハンデを前向きに気持ちを持つ事、大切だと思います。【身体障がい者】
- ・障がい児、者だけの事ではなくすべての方に知っていただく生涯学習を掲げてほしい。【知的障がい者】
- ・障がいがある理由なのか、仕事に合わないのが理由なのか、不採用の理由がわからないケースがあります。ほやかされないようにしてほしいです。【精神障がい者】

今後取り組みたい・充実したい活動について

- ・会員が増えないことには活動ができない。【視覚障がい者】
- ・会員の皆様の交流、会員の増加を進めたい。【身体障がい者】
- ・身障者の交流と組織作りが必要と思いますが役員の担い手がいない。【身体障がい者】
- ・手話と聴覚障害への理解の普及【聴覚障がい者】
- ・会員や子どもの高齢化に伴い何が必要なのか取り組みたいです。【重症心身障がい児】
- ・例えば不登校状態にある児童・生徒への支援（特に計画があるわけではありません）【知的障がい者】
- ・福祉講演会【知的障がい者】
- ・障がい児・者の不都合なところを代弁する。【知的障がい者】
- ・太田市の後押しで県立太田特別支援学校の地域に根ざした環境整備をして頂きたい。【知的障がい者】
- ・心の病気勉強会をさらに充実させ、広く市民に呼びかけ啓発活動が続けていきたい。【精神障がい者】
- ・電話相談等を行い、精神障がい者当事者・家族がよりよく生きられるように支援に な
げていきたい。【精神障がい者】
- ・定例会等で会員や相談者等に寄り添い、日常生活での問題点をまとめ、共有し、要望書
として提出したい。【精神障がい者】

第5次太田市障がい者福祉計画等の策定に係る
アンケート調査結果報告書

発行日／令和5年10月

発行・編集／

太田市 福祉こども部 障がい福祉課

〒373-8718 群馬県太田市浜町2番35号

TEL 0276-47-1828 FAX 0276-47-1845